

Agilent EEsof EDA
Advanced Design System
ADS 2002 (Ver.1.9 rev.300)
アップデート/インストール手順書
for Windows 98/NT 4.0/2000

(注意) この手順書はシステムマネージャー向けに書いてあります。一通りお読みになったうえ、内容を十分ご理解された後、作業を始めてください。
また、このマニュアルは、**Advanced Design System 2002 (Ver.1.9 rev.300)** を元に書かれています。

この手順書には、Advanced Design System 2002 を PC にインストールする手順が書いてあります。詳細については以下の冊子をご覧ください。

Agilent ADS 2002
Installation on PC System
Part No.E8900-90405

新製品、不具合情報はホームページでご覧いただけます。

<http://eesof.tm.agilent.com/>

2002年5月12日 作成
アジレント・テクノロジー株式会社
電子計測営業本部 システムビジネス営業部
EDA テクニカルサポート 発行

計測レスポンスセンタの電話番号・FAX 番号・
E-Mail アドレスを再度ご確認ください

名 称 : 計測レスポンスセンタ
〒192-8510 東京都八王子市高倉町 9-1 アジレント・テクノロジー株式会社 八王子本社 C3-1-6

電 話 番 号 : 0 1 2 0 - 5 6 0 - 1 1 9
F A X 番 号 : 0 1 2 0 - 8 9 0 - 1 1 9
E - M a i l : edasupport@jpn.agilent.com

なお、計測レスポンスセンタにご質問をいただく場合は、必ずお客さまのシステムハンドル番号を受付にお伝えください。

また、計測レスポンスセンタでは、OS (HP-UX, Solaris, Windows) に関するご質問は承っておりませんので予めご了承ください。

E-mail は登録制になっております。 未登録の場合は、上記アドレスに空のメールを送信すると登録方法のメールが自動送信されて来ますのでそちらをご参照ください。

計測レスポンスセンタのご質問は、本手順書の 132 ページの、

「計測レスポンスセンタ サポート依頼 FAX シート」

をご利用いただくと便利です。

Agilent EEsof EDA

Advanced Design System

ADS 2002 (Ver.1.9 rev.300)

アップデート/インストール手順書

for Windows 98/NT 4.0/2000

アジレント・テクノロジー株式会社
電子計測営業本部 システムビジネス営業部
EDA テクニカルサポート 発行

UNIXは、X/Open Company Limitedの登録商標です。

MS-DOSは、Microsoft Corporationの登録商標です。

Windows 2000,Windows NT,Windows 98 は、Microsoft Corporationの商標です。

Sentinel Driverは、Rainbow Technologies,Inc.の商標です。

FrameViewerは、Adobe Systems Incorporatedの登録商標です。

その他、会社名、製品名は各社の商標および登録商標です。

目次

第1章	はじめに	5
1 - 1	トピックス.....	5
1 - 2	ADS 2002 の重要な注意事項情報.....	5
1 - 3	本書の構成.....	6
1 - 4	このマニュアルの見方.....	7
1 - 5	用語説明.....	9
第2章	インストール前の準備	10
2 - 1	梱包物の確認.....	10
2 - 2	必要なハードウェア/ソフトウェア.....	12
2 - 3	対応する GPIB(HP-IB)インターフェイス.....	13
2 - 4	Visual C++ 使用時の環境設定 (Windows 98).....	14
2 - 5	ハードウェアスペックの確認.....	15
第3章	インストールの実施	16
3 - 1	概要と旧バージョンの削除について.....	17
3 - 2	ローカル/ネットワークインストール.....	18
3 - 3	セットアップの起動.....	20
3 - 4	インストール作業.....	26
3 - 5	インストール作業の完了.....	36
3 - 6	ネットワークインストール.....	37
3 - 7	セットアップの終了.....	45
第4章	ライセンスの設定	46
4 - 1	はじめに.....	46
4 - 2	セットアップの手順.....	47
4 - 3	FLEXid ドライバのインストール.....	48
4 - 4	ハードウェアキーの接続と確認.....	50
4 - 5	ライセンスファイルの作成と設置.....	54
4 - 6	環境変数の設定/確認.....	59
4 - 7	ライセンスデーモン(lmgrd)とは?.....	63
4 - 8	lmgrd の起動および停止の方法.....	65
4 - 9	lmgrd の自動起動 (Windows NT 4.0/2000).....	69
4 - 10	ライセンスクライアントの設定.....	74
4 - 11	UNIXライセンスサーバの利用.....	75
4 - 12	ライセンスを追加する方法.....	77
第5章	プリンタの設定	80
5 - 1	プリンタの設定.....	80
第6章	ネットワークアナライザの設定	83
6 - 1	サポートしている GPIB(HP-IB) ボード.....	83
6 - 2	GP-IB(HP-IB) ボードのインストール.....	84

6 - 3	測定セットアップ (Instrument Server の設定).....	85
第7章	動作確認.....	86
7 - 1	アプリケーションの起動.....	86
7 - 2	ADS 2002 が起動しない時.....	88
7 - 3	サンプルファイルでの動作確認.....	90
第8章	付録.....	92
8 - 1	ファイルシステムの共有.....	92
8 - 2	TCP/IP,IPX/SPXプロトコルのインストール.....	95
8 - 3	複数個の lmgrd を自動起動する方法.....	98
8 - 4	GPIB(HP-IB)ボードのインストール.....	104
8 - 5	Advanced Design System プログラムの消去 (アンインストール).....	107
8 - 6	複数のバージョンの ADS を使用する方法.....	108
8 - 7	起動時の作業フォルダの設定を変更する方法.....	111
8 - 8	プロセスの停止.....	112
8 - 9	デバッグモードでの起動方法.....	113
8 - 10	FLEXlm コーティリティ.....	114
8 - 11	リモートシミュレーションの設定.....	120
第9章	コードワード発行依頼と計測レスポンスセンターのご利用案内.....	126
9 - 1	コードワード発行依頼の方法.....	126
9 - 2	計測レスポンスセンター・テクニカルサポート依頼 FAX シートの使い方.....	130
9 - 3	計測レスポンスセンターを有効にご利用いただくために.....	131

第1章 はじめに

1 - 1 トピックス

ADS 2002では、次のような新機能が含まれました。

- (1) シミュレーション機能の強化
- (2) EM Co-simulation
- (3) Verification Model Extractor

1 - 2 ADS 2002 の重要な注意事項情報

インストール時の注意事項

- (1) Windows 95, XP のサポートについて
ADS 2002 は Windows 95,XP をサポートしません。

ライセンスの注意事項

- (1) ADS 2002 専用のライセンス
ADS 2002 は専用のライセンスが必要です。
ADS 2001 以前のライセンスでは ADS 2002 は動作しません。
また、ADS 2002 のライセンスでは、ADS 2001 以前のバージョンは動作しません。
さらに、ADS 2002 から MDS/SeriesIV のクロスライセンスは廃止になります。

	ADS 2001 以前のライセンス	ADS 2002 のライセンス
ADS 2002	動作しません	動作します
ADS 2001 以前	動作します	動作しません
MDS B.07.X	動作します	動作しません
SeriesIV 6.6	動作します	動作しません

MDS は UNIX 版のみで、PC 版はありません。

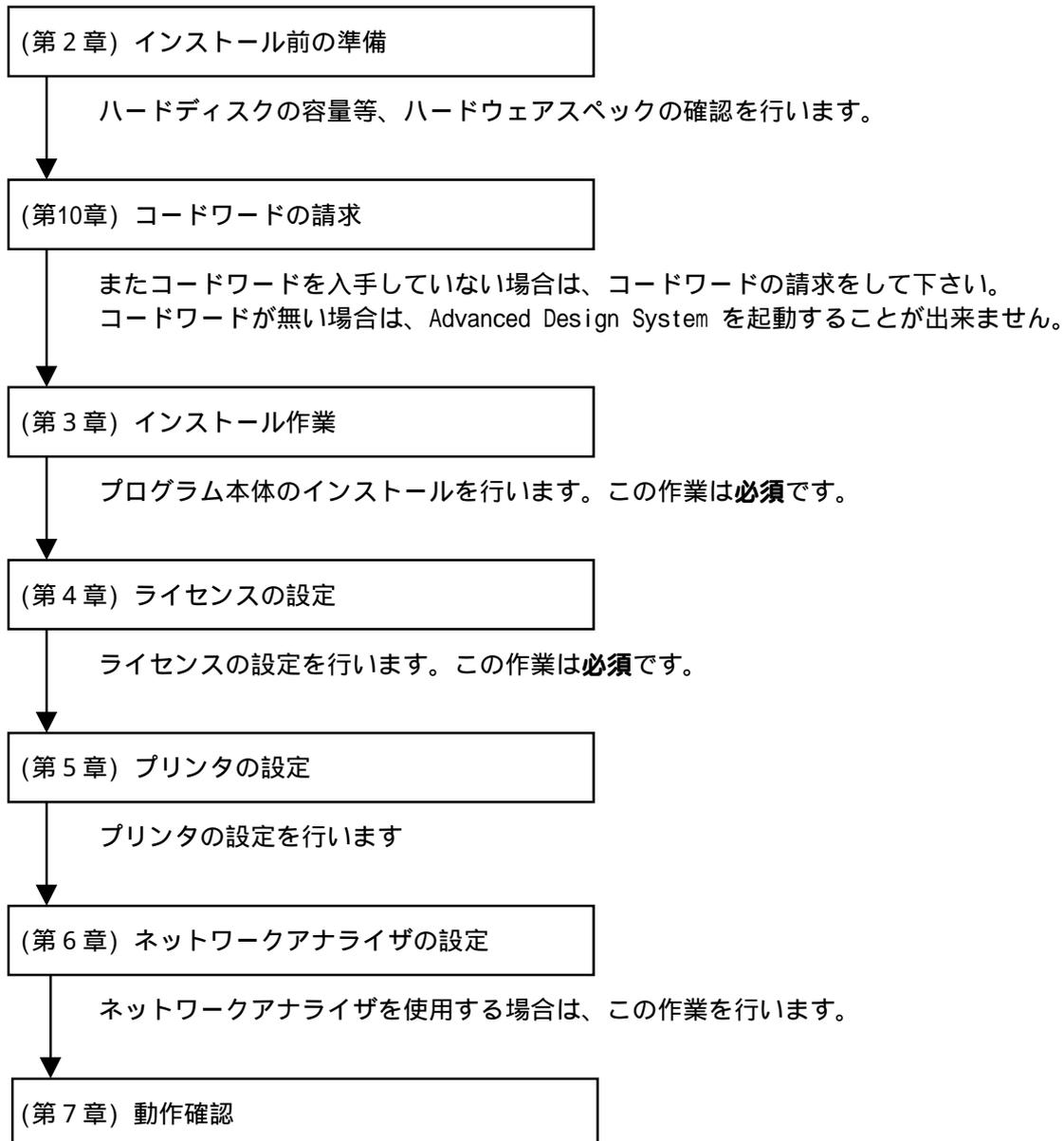
参考 MDS は PC 版はありませんが、UNIX 版の MDS のデザインを PC 版 ADS でインポートする機能が付属しています。

ご注意

ADS 2002 は専用のライセンスが必要です。以前のライセンスでは動作しません。ADS 2002 をご使用になる際は、弊社までライセンスのご請求をお願い致します。また、MDS/SeriesIV とのクロスライセンスは ADS 2002 で廃止になります。

1 - 3 本書の構成

セットアップの流れと本書の構成の関係を下図に表します。Advanced Design System をインストールして、使用できるようになるまでには、基本的に以下の作業と必要になります。



実際に Advanced Design System を起動して、動作確認を行います。

1 - 4 このマニュアルの見方

このマニュアルで使われている表現・用語について解説します。

(1) 動作

■ クリックする

マウスの左ボタンを一回押すことを示します。

■ ダブルクリックする

マウスの左ボタンを二回すばやく押すことを示します。

■ 選択する

目的の場所にカーソルを合わせて、マウスの左ボタンを一回押すことを示します。

この場合、次のボックスがすぐに現れる場合と、選んだ項目等が反転するような場合(下図)とあります。

■ [スタート] > [設定] > [コントロール ① ②] を選択

このような表現があったときは、以下の図の場所にマウスカーソルを合わせてマウスの左ボタンをクリックします。

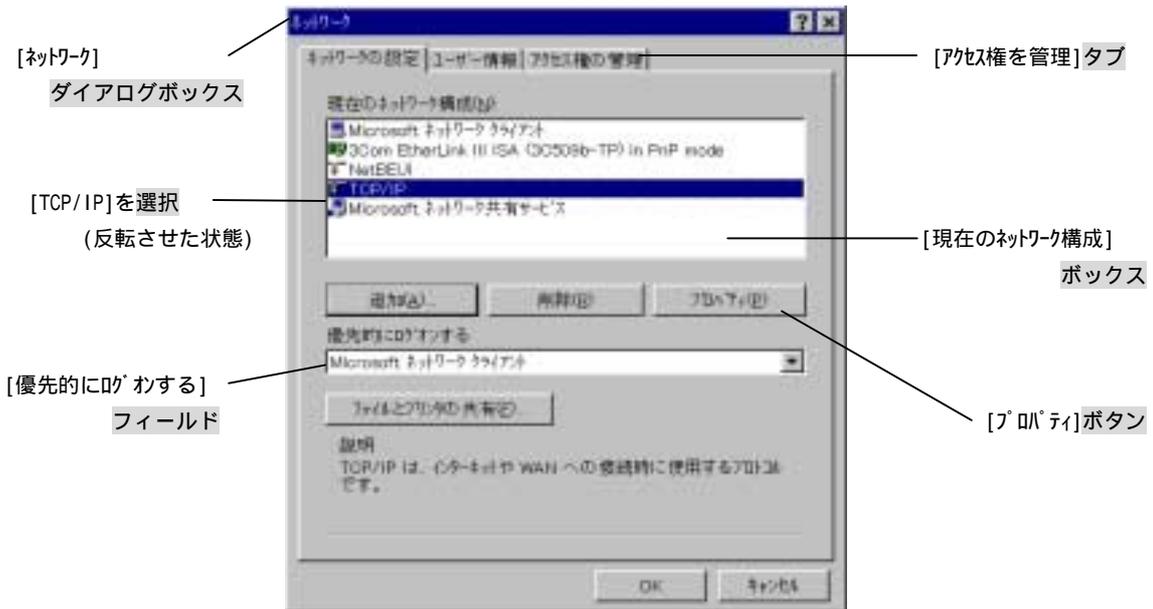


(2) 各部名称

■ [スタート]ボタン

Windows 98/NT 4.0/2000 のタスクバーの左にある  を示します。

■ 以下の図でダイアログボックス関係の各部の名称を示します。



(3) ドライブ、ディレクトリの指定

■ <Drive>:

目的とするドライブ名を示します。

例えば、ハードディスク、CD-ROMドライブがそれぞれ一台ずつ接続されたコンピュータの場合、それぞれのドライブ名は以下ようになります。

	<Drive>:
ハードディスク	C:
CD-ROMドライブ	D:

■ <Installation directory>

ADS 2002 のインストールされているディレクトリを示します。

通常は "C:\%ADS2002" ディレクトリです。

インストール時に任意のディレクトリを指定した場合、そのディレクトリになります。

1 - 5 用語説明

- TCP/IP (Transmission Control Protocol / Internet Protocol)
インターネットで用いられているネットワークプロトコル。
事実上のネットワーク標準プロトコルである。
- DNS (Domain Name Service)
ネットワークのアドレス、ホスト名などを管理するもの。
ホスト名からIPアドレスへの変換などに用いられる。
- DHCP(Dynamic Host Configuration Protocol)
DHCPサーバのあるネットワーク環境では、DHCPサーバがネットワーク内のコンピュータに動的にIPアドレスを指定する。個々のコンピュータでIPアドレスの設定をする必要が無い。
- IRQ (Interrupt ReQuest)
ディスク、ネットワークカード、サウンドカードなど周辺機器が CPU に対してデータの送受信の準備ができたことを知らせる割り込み番号。
各々の周辺機器に異なったIRQ番号を割り当てなければならない。
- DMA (Direct Memory Access)
CPUを介さないデータ転送。
専用のハードウェアが制御するのでCPUへの負荷が小さく、転送速度が速くなる。

第2章 インストール前の準備

2 - 1 梱包物の確認

(1) 付属 CD-ROM

ADS 2002 の製品パッケージ(アップデートパッケージ)には、計5枚の CD-ROM が同梱されています。5枚とも揃っているか、最初に必ず確認してください。また、CD-ROM の内容は以下のようになっています。

- Advanced Design System
Disk 1 Program **UNIX**
Part No.E8900-10137
- Advanced Design System
Disk 2 Program **UNIX**
Part No.E8900-10138
- Advanced Design System
Disk 3 Program **UNIX**
Part No.E8900-10139
- Advanced Design System
PC Disk 1 Program **Windows 98 Windows NT 4.0 Windows 2000**
Part No.E8900-10140
- Advanced Design System
PC Disk 2 Program **Windows 98 Windows NT 4.0 Windows 2000**
Part No.E8900-10141

(2) 付属冊子

ADS Ver.2002 OSB Kit には、以下の計4冊の冊子が付属しています。

- Installation on UNIX System (P/N:E8900-90404)
- Installation on PC System (P/N:E8900-90405)
- Advanced Design System ADS 2002 (1.90 Rev 300)
アップデート/インストール手順書(UNIX版) (技術資料番号:CET-137)
- Advanced Design System ADS 2002 (Ver.1.9 Rev.300)
アップデート/インストール手順書(PC版) (技術資料番号:CET-138)

これらの付属物は、製品(パッケージ)の出荷時期によって予告無く変更される場合がありますので、ご注意下さい。不審な点等ございましたら、弊社窓口までお問い合わせ下さい。

2 - 2 必要なハードウェア/ソフトウェア

ADS 2002 をインストール/実行するために必要なハードウェアの構成を示します。

OS	Microsoft Windows 98 Microsoft Windows NT 4.0 (サービスパック5以上) Microsoft Windows 2000 !注意：Windows 95/Me/XP はサポートしていません
ディスプレイ	ハイレゾリューションカラー (SVGA, 800 × 600, 15インチ) <推奨：1024 × 768, 17インチ>
メモリ (RAM)	128Mバイト以上 <推奨：256Mバイト以上>
仮想メモリ	300Mバイト以上 (大規模なデザインを取り扱う場合は、より多くの仮想メモリが必要となります。NT 4.0 では、メモリの扱いの不具合を回避するため、仮想メモリは常に実メモリより大きくとる必要があります。) <推奨：512Mバイト以上>
ハードディスク容量(最大)	最小インストール時：約 335MB 標準インストール時：約 1.7GB フルインストール時：約 2.7GB
ハードウェアキーID	ノードロックライセンス/ネットワークライセンスのサーバとして使用する場合は、パラレル(プリンタ)ポートに接続するハードウェアキー(Globetrotter社 FLEXid セキュリティキー)か、Ethernet LAN カード ID が必要
プリンタ/プロッタ	OS がサポートするプリンタ/プロッタ(ただし、HP JaserJet 3100 は、ハードウェアキーと競合が起こり使用できない場合があります。)
メディア	ソフトウェアは CD-ROM で提供
CPU	Intel Pentium シリーズ 200MHz以上 <推奨：Pentium III 750MHz以上>
コンパイラ (ユーザモデル開発キット 使用時)	Microsoft Visual C++ Ver.6 をサポート (Windows 98 で使用する場合は、後述の環境変数設定が必要)
HP-IB(GPIB)ボード	Agilent Technologies 社・Hewlett-Packard社・National Instruments社のインターフェイスボードに対応 (対応機種は次節に掲載)

参考 扱うデータ量が大きくなり、RAM の容量では足らなくなると、データがディスクに書き込まれます(スワップ)。ディスクへの書き込み/読み出しに必用な時間(アクセスタイム)は RAM に比べ非常に大きいので、スワップが増えると PC の処理速度が非常に遅くなります。メモリはできれば、ご使用になっているコンピュータの最大まで搭載することをお勧めします。推奨される RAM サイズは 256M バイト以上です。

2 - 3 対応する GPIB(HP-IB)インターフェイス

ADS 2002 では、下記の GPIB(HP-IB) インターフェイスボード / ドライバのみをサポートしています。

Agilent Technologies の GPIB インターフェイスは、Hewlett-Packard 社の HP-IB インターフェイスの同等製品も含まれます。

(1) Windows NT 4.0/2000

- Agilent Technologies LAN/GPIB Gateway Interface / SICL drivers
(Part # E2050A Opt AG6)
- Agilent Technologies GPIB PCI カード / SICL ドライバ
(Part # 82350A)
- Agilent Technologies GPIB EISA カード / SICL ドライバ
(Part # 82341C)
- National Instruments AT-GPIB/TNT カード / NI-488.2M ドライバ
(Part # 776836-01)
- National Instruments PCMCIA-GPIB カード / NI-488.2M ドライバ
(Part # 777332-02)
- National Instruments PCI-GPIB カード / NI-488.2M ドライバ
(Part # 777073-01)

(2) Windows 98

- Agilent Technologies LAN/GPIB Gateway Interface / SICL drivers
(Part # E2050A Opt AG6)
- Agilent Technologies GPIB PCI カード / SICL ドライバ
(Part # 82350A)
- Agilent Technologies GPIB EISA カード / SICL ドライバ
(Part # 82341C , 82341D)
- National Instruments AT-GPIB/TNT カード / NI-488.2M ドライバ
(Part # 777074-01)
- National Instruments PCMCIA-GPIB カード / NI-488.2M ドライバ
(Part # 777156-02)
- National Instruments PCI-GPIB カード / NI-488.2M ドライバ
(Part # 777153-01)

2 - 4 Visual C++ 使用時の環境設定 (Windows 98)

OS が Windows 98 の場合で、Visual C++ を用いて、ユーザモデル開発キットを使用する場合は、以下の作業を行っておく必要があります。

(1) config.sys ファイルの編集

config.sys ファイルを編集して、以下の一行を付け加えます。

```
SHELL=C:¥COMMAND.COM /p /E:4096
```

ただし、4096 という値は必要があれば増やして下さい。

(2) autoexec.bat ファイルの編集

autoexec.bat ファイルに以下の一行を付け加えます。

```
<msvc Installation Directory>¥vcvars32.bat
```

<MSVC Installation Directory> は、Microsoft Visual C++ がインストールされているディレクトリです。

ファイルを編集後、コンピュータを再起動すると、設定が有効になります。

2 - 5 ハードウェアスペックの確認

(1) メモリ(RAM)の確認

最低 128MB のメモリが必要です。快適に作業をするためには、より多くのメモリを用意する必要があります。メモリの大きさはコンピュータが起動するときに画面に表示されます。

コンピュータを再起動させずにメモリの大きさを調べるには、デスクトップ上の「マイコンピュータ」のアイコンをダブルクリックし、メニューから、[ヘルプ] > [バージョン情報] を選択すると、[Windows が使用できる物理メモリ] 欄に搭載メモリがキロバイト単位で表示されています。

(2) ハードディスクのフリーエリアの確認

必要とされるハードディスクの容量は、フルインストールの場合で、約 2.7GB 程度必要になります。ハードディスクはインストールするファイルセットの容量分以外にも、仮想メモリの分として、最低 300MB は必要となります。

ディスクのフリーエリアが少ない場合は、インストールするコンポーネントの選択時に必要なディスク容量が表示されていますので、そちらを参考にしながら必要な最小のシステムをインストールするようにしてください。

コンピュータを再起動せずにハードディスクの容量を調べるには、「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックし、[表示] > [詳細] メニューを選択すると、[空き領域] の項目が見えますのでこちらでご確認ください。

(3) OS のバージョンの確認

現在使用している OS のバージョンを確認する方法です。

デスクトップ上の「マイコンピュータ」のアイコンをダブルクリックし、メニューから、[ヘルプ] > [バージョン情報] を選択すると、確認できます。

(4) 仮想メモリの確認

ADS 2002 では、最低 300Mbyte の仮想メモリが必要となります。また、回路の規模によっては、それ以上の仮想メモリを必要とする場合もありますので、ご注意ください。仮想メモリは最大に設定しても、ハードディスクの残り容量分までしか確保できません。

現在の仮想メモリの大きさを確認するためには、

■ Windows 2000

1. [コントロール パネル] の [システム] アイコンをダブルクリックして [システムのプロパティ] ダイアログボックスを開きます
2. [詳細] タブを選択するし、[パフォーマンス] ボタンをクリックします。
3. [パフォーマンス] ダイアログボックスが開き、[仮想メモリ] の項目に現在の仮想メモリの大きさが表示されています。
4. 変更が必要な場合は、[変更] ボタンを押して、[初期サイズ] のフィールドに、新しい仮想メモリのサイズを入力した後、[設定] ボタンを押します。

■ Windows NT 4.0

1. [コントロール パネル] の [システム] アイコンをダブルクリックして [システムのプロパティ] ダイアログボックスを開きます
2. [パフォーマンス] タブを選択すると、[仮想メモリ] の項目に現在の仮想メモリの大きさが表示されています。
3. 変更が必要な場合は、[変更] ボタンを押して、[初期サイズ] のフィールドに、新しい仮想メモリのサイズを入力した後、[設定] ボタンを押します。

■ Windows 98

1. [コントロール パネル] の [システム] アイコンをダブルクリックして [システムのプロパティ] ダイアログボックスを開きます
2. [パフォーマンス] タブを選択し、[詳細設定] の中の [仮想メモリ] ボタンをクリックします。
3. 自動設定になっている場合は、現在仮想メモリとして使用されるように設定されているディスクの空き容量いっぱいまで、使用されます。
4. 現在のドライブで仮想メモリが不足する場合は、[自分で設定する] をチェックして、空き容量の十分あるドライブを選択してください。

どのドライブを使っても、十分な仮想メモリが確保できない場合は、不要なファイルを削除して容量を確保するか、ドライブを増設する必要があります。

仮想メモリについて詳しいことは、Windows のマニュアルか、ご使用になっている OS のヘルプを参照してください。

3 - 1 概要と旧バージョンの削除について

この章では、ADS 2002 のファイルセットのインストール方法について解説します。一通りお読みになり、内容をよくご理解の上、手順通りに実行してください。

インストールはセットアッププログラムを用いて行われます。CD-ROM からハードディスクにファイルセットがコピーされますので、インストール前にディスクスペースが十分かどうか、もう一度ご確認ください。

古いバージョンの Advanced Design System がインストールされている場合は、その環境変数が残っていないかをご確認ください。環境変数 HPEESOF_DIR に、例えば ADS 2001 の設定 (HPEESOF_DIR=C:\%ads2001 など) が残っていると、インストーラが正しく起動しません。インストール時は、環境変数 HPEESOF_DIR を削除するようお願いいたします。

また、古いバージョンの Advanced Design System をアンインストール(削除)したい場合は、[スタート] > [プログラム] メニュー内の、Advanced Design System のプログラムグループの中に [unInstallShield] がありますので、このメニューを選択すると起動できます。

ADS 2001 の場合は、[スタート] > [プログラム] > [Advanced Design System] > [unInstallShield] を選択することになります。

アンインストールにつきましては、本書の第 8 章に、8 - 5 節「Advanced Design System プログラムの消去(アンインストール)」で詳しく述べていますので、そちらを参照ください。

また、ADS 2002 を起動するにはインストール後、ライセンスの入力が必要です。ADS 2002 からは、新しいライセンスが必要になり、ADS 2001/1.5/1.3/1.1/1.01 のライセンスでは起動できません。ライセンスについては以下の項目に示してありますので、こちらも必ずご覧になってください。

■ 第 4 章 ライセンスの設定

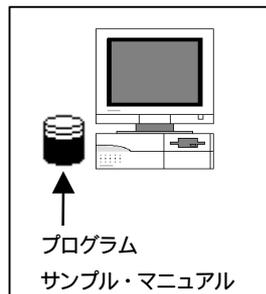
3 - 2 ローカル/ネットワークインストール

(1) ローカルインストールとネットワークインストール

ADS 2002 ファイルセットのインストール方法には大きく分けて、二種類の方法があります。ハードディスクに余裕が無い場合以外は、通常の方法(ローカルインストール)を選びます。

■ ローカルインストール (図A)

通常のインストール方法で、CD-ROM から使用するマシンのハードディスクに全てのファイルセットをコピーします。



図A：ローカルインストール

■ ネットワークインストール

注意 ネットワークインストールの場合、サーバマシンが動いており、かつサーバマシンの ADS 2002 のインストールされているハードディスクが、クライアントマシンから共有接続できなければ、クライアントマシンで ADS を起動することはできません。また、共有ドライブを一度切断した場合は、次の時も同じドライブ名に同じ共有を復元する必要があります。

注意 ネットワークインストールを行う時は、サーバマシンのインストールでコンポーネントを選択する時に、“LAN Server files for Clients” を必ずインストールしておいて下さい。

注意 ネットワークサーバ/クライアントシステムは、ライセンスサーバ/クライアントシステムとは関係ありません。

ネットワークインストールは二つの方法があり、ご使用になっているコンピュータの使用環境によって選択することが出来ます。

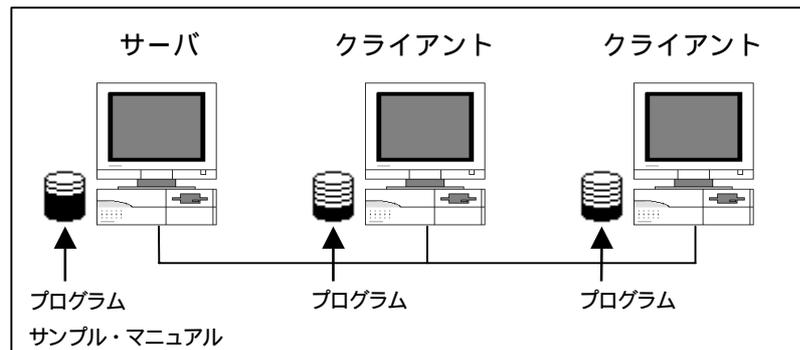
二つの方法とは、部分的ネットワークインストールと、完全ネットワークインストールです。以下の表で違いを示します。次ページには詳しい特徴を述べます。

インストール方法		サーバ	クライアント	特徴
ネットワークインストール	部分的	2.7GB	350MB	実行速度は速い。クライアントのディスク容量の節約が出来る
	完全	2.7GB	10MB	実行速度が遅い。クライアントのディスク使用容量が最小

□ 部分的ネットワークインストール(推奨)

マニュアルとライブラリのみサーバマシンのものを利用し、プログラムファイルは全てのマシンにインストールする方法です。

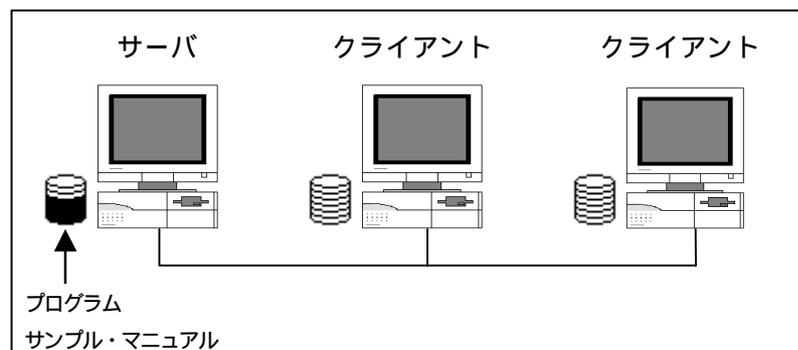
プログラムファイル等の頻繁に使用するファイル群は、ローカルディスクにインストールされています。



□ 完全ネットワークインストール

全てのファイルセットをサーバマシン一台から利用する方法です。

この場合、ADS 2002 の処理速度が非常に遅くなってしまいますので、ディスクの容量不足でインストールができない時以外は、お勧めできません。



3 - 3 セットアップの起動

(1) セットアッププログラムでの操作

セットアップをはじめる前に、セットアッププログラムと、ダイアログボックス中で行える共通の操作を操作を以下に示します。



■ インストールを一時中断するには

セットアップスクリーンの **[Pause]** ボタンをクリックしてください。セットアッププログラムが止まり、ダイアログボックスが現れます。セットアッププログラムを再び動作させるときは **[OK]** をクリックしてください。

■ インストールを中止するには

ダイアログボックス上の **[Cancel]** ボタンか、セットアッププログラム上の **[Exit F3]** ボタンをクリックしてください。キーボードの **[F3]** キーを押しても同様にインストールを中止することができます。ダイアログボックスは、インストールを再び始めるかセットアップを中止するか聞いてきます。セットアップの中止を選ぶとプログラムはインストールされません。

■ ひとつ前のセットアップスクリーンやダイアログボックスに戻るには

ダイアログボックス上の **[Back]** をクリックしてください。

■ 次のセットアップスクリーンに進むには

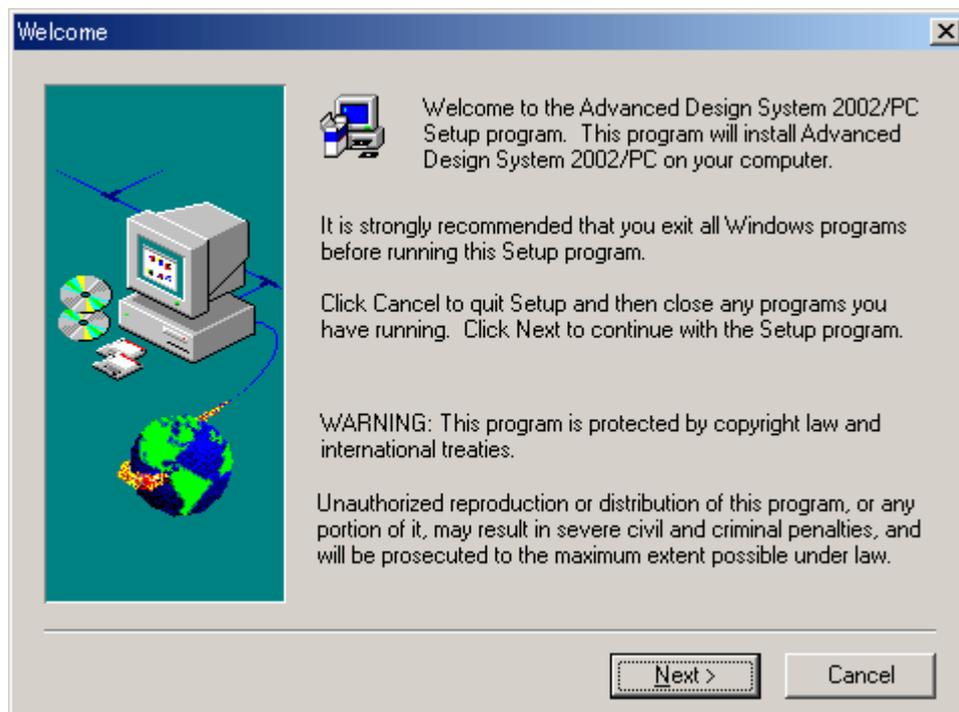
1. 選択を要求されている場合は、目的のボタンをクリックします。
2. ダイアログボックスの **[Next]** をクリックしてください。

(2) セットアッププログラムの起動

セットアッププログラムを起動します。PC 版のセットアッププログラムは、ADS 2002 CD-ROM PC Disk 1 Program に収録されています。

セットアッププログラムは、CD-ROM をドライブに挿入すると自動的に起動するようになっています。オートラン機能を停止しているなどの理由で自動的に起動しない場合は、CD-ROM ドライブのルートディレクトリにある “Setup.exe” を実行することによって起動できます。次の説明は起動方法の一例です。セットアッププログラムの起動はどのような方法で行っても構いません。

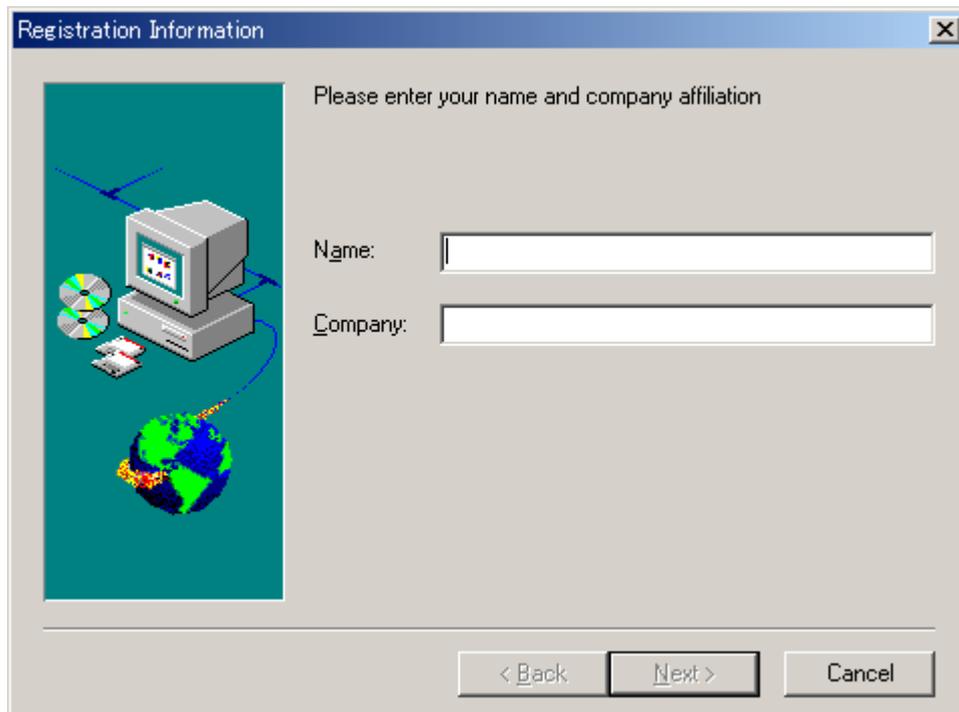
1. コンピュータ上で動作しているアプリケーションプログラムを全て終了させます。
2. ADS 2002 CD-ROM・PC Disk 1 Program (P/N:E8900-10140) を CD-ROM ドライブに挿入します。しばらくすると、セットアッププログラムが自動的に起動しますので、5.の手順に進みます。自動的に起動しない場合は、以下の 3. 4. の手順で起動させます。
3. セットアッププログラムを起動します。ここでは、ファイル名を指定して実行を行います。スタートボタンから、[スタート] > [ファイル名を指定して実行] を選択します。
4. セットアッププログラム名を入力します。CD-ROM のドライブ名が “D:” の時は、“D:¥setup.exe” と入力します。CD-ROM ドライブの接続されたブ名はファイルマネージャーでは  で示されています。
5. ウェルカムボックスが現れますので、[NEXT>] をクリックして先に進みます。



(3) 登録情報入力

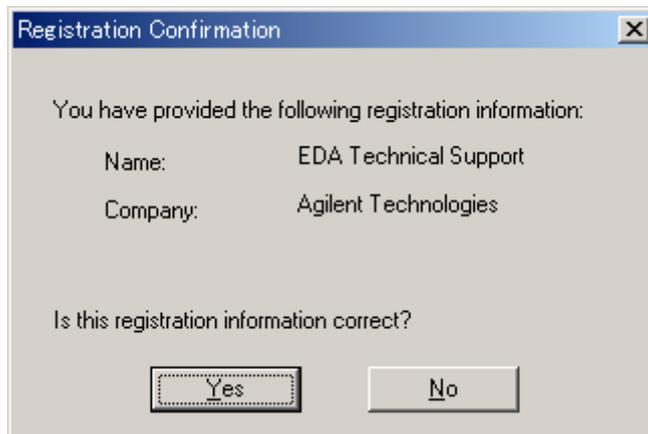
セットアップを起動したら、登録情報の入力を行います。ただし、登録情報の設定画面は最初にインストールを行う時のみしか現れません。

1. 登録情報ボックスが現れます。(これは初めてセットアップを実行した時にだけ現れます。もしこのボックスが現れなかったら、次のページに進んでください。)
2. ユーザ名と会社名を入力し **[Next>]** をクリックします。ここでの入力はライセンス等の情報と関係はありません。好きな名前やイニシャルなどを入力してください)



The image shows a dialog box titled "Registration Information" with a close button (X) in the top right corner. The main text reads "Please enter your name and company affiliation". On the left side, there is a graphic illustration of a computer monitor, a tower PC, a CD-ROM, and a globe. To the right of the graphic are two text input fields: "Name:" and "Company:". At the bottom of the dialog box, there are three buttons: "< Back", "Next >", and "Cancel".

3. 入力確認のためのボックスが現れます。間違いがなければ **[Yes]** をクリックします。間違いがあり、訂正したいときは **[No]** をクリックし、もう一度やり直します。

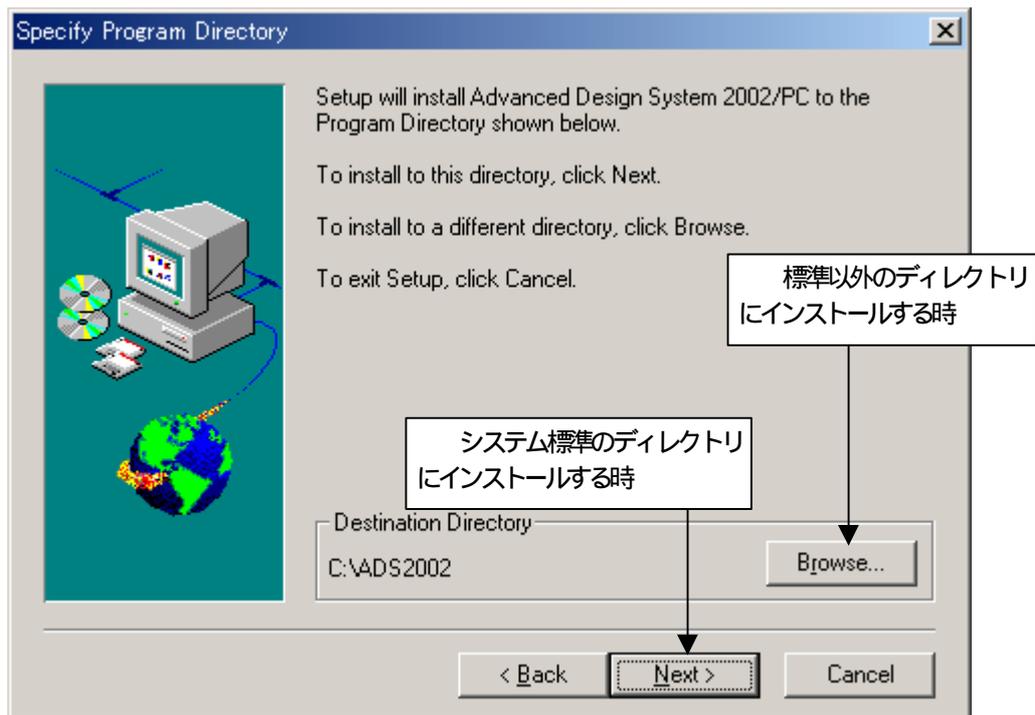


The image shows a dialog box titled "Registration Confirmation" with a close button (X) in the top right corner. The main text reads "You have provided the following registration information:". Below this, the entered information is displayed: "Name: EDA Technical Support" and "Company: Agilent Technologies". At the bottom, the question "Is this registration information correct?" is asked. There are two buttons: "Yes" and "No".

(4) インストールディレクトリの指定

[Specify Program Folder] ボックスが現れます。ここでは、ファイルセットのインストール先を指定します。

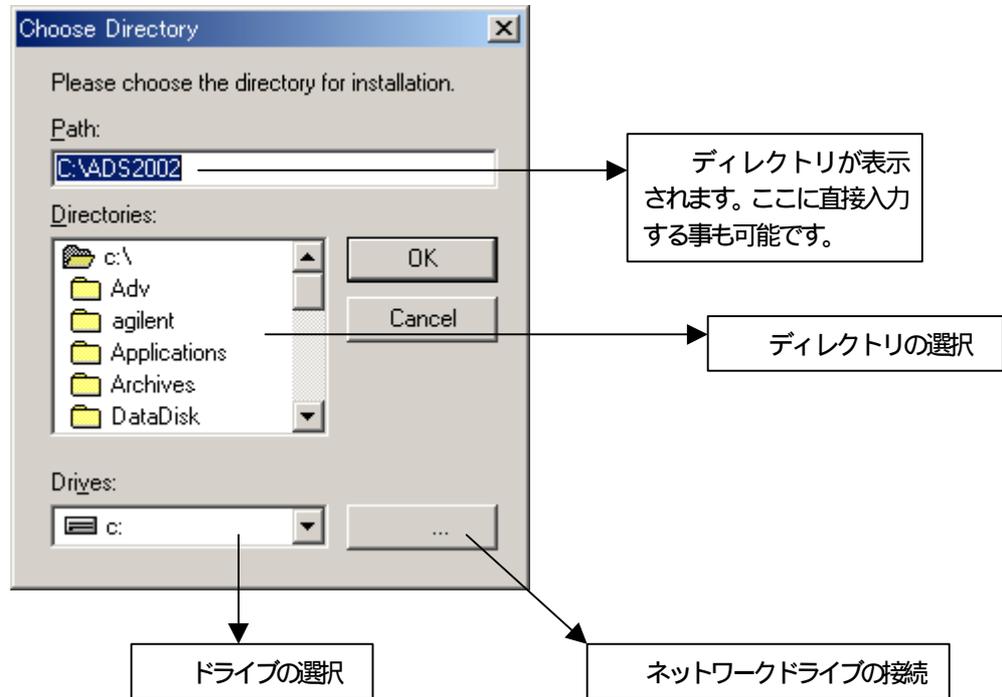
- 1) インストール先のディレクトリを決定します。[Destination Directory] に正しいインストール先が表示されていれば **[Next >]** をクリックしてください。システム標準ディレクトリにインストールする場合はそのまま **[Next >]** をクリックします。



システム標準のディレクトリに、ADS 2002 をインストールする時は、そのまま **[Next >]** をクリックします。標準ディレクトリは “C:\ADS2002” です。

それ以外のディレクトリ(すでに存在するディレクトリ・新規ディレクトリ・ネットワークドライブ)にインストールするには、**[Browse]** をクリックします。[Choose Directory] ダイアログボックスが現れます。詳細は 2) で説明します。

2) 標準以外のディレクトリにインストールする場合の手順は以下のようになります。



まだ、未接続のネットワークドライブにインストールする時は、このボタンを使って、ネットワークドライブへの接続を行うことができます。

[Choose Directory] ダイアログボックス内で選択可能なドライブを表示するには、[Drives:] フィールドで [▼] ボタンをクリックします。ドライブ一覧が表示されたら目的のドライブの場所をクリックしてください。

[Directories:] フィールドのスクロールバーを用いて、インストールしたいディレクトリを探し、ディレクトリ名をクリックして選択します。

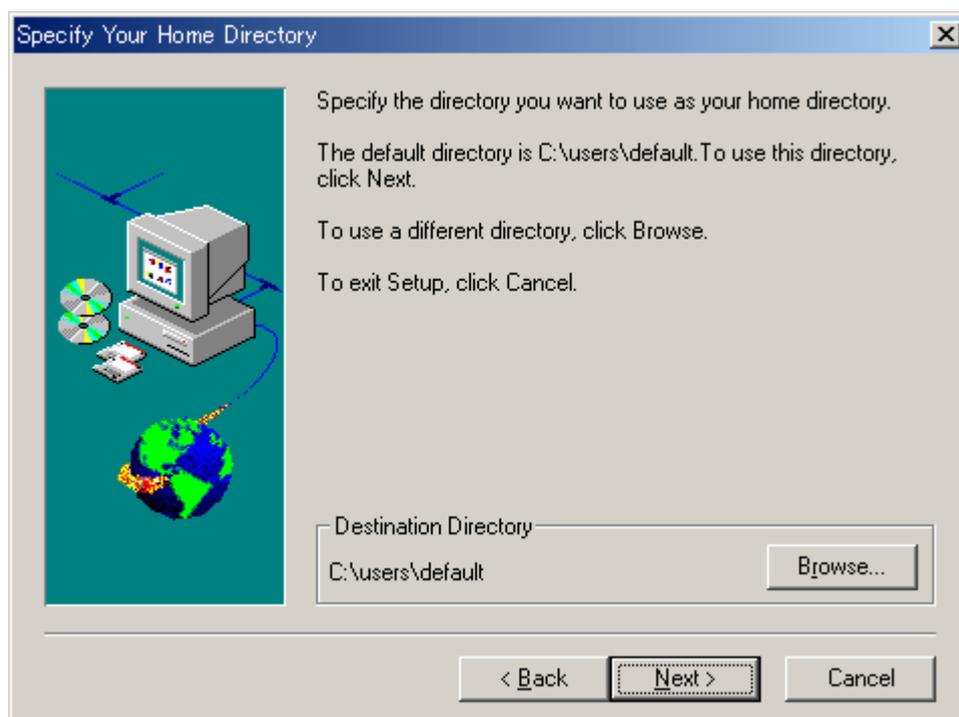
[Path:] フィールドに目的のパス名が現れたら [OK] をクリックします。(もしディレクトリが無い時は、ここにディレクトリ名をキーボードで直接入力してください。その場合ディレクトリは新しく作られます。)

指定したパスがハードディスク上に存在しない時は、フォルダを作成するかどうか確認のためのボックスが現れます。表示されているフォルダを作成してよければ [はい(Y)] をクリックして次に進み、変更したければ [いいえ(N)] をクリックして前の画面に戻り修正します。

(5) ホームディレクトリの指定

次に、ホームディレクトリを指定するために、[Specify Your Home Directory] ボックスが現れます。ホームディレクトリとは、ADS 2002 の設定データを、ユーザ毎に個別に保存するためのディレクトリです。それぞれのユーザが設定したデータはそれぞれホームディレクトリ内の異なったディレクトリに保存されます

システム標準のホームディレクトリとして、“C:\users\default”が表示されています。ここでも、インストール先のディレクトリを指定した時と同じように、ホームディレクトリを指定することができます。[Browse] ボタン等の使い方については、(4)を参照してください。



ホームディレクトリをシステム標準に戻す場合や、任意のディレクトリに設定するには、[< Back] で一つ前に戻って、もう一度手順を繰り返します。

[Next >] をクリックすると、ハードディスクの残り容量の計算が行われ、インストールファイルセットの選択画面に進みます。

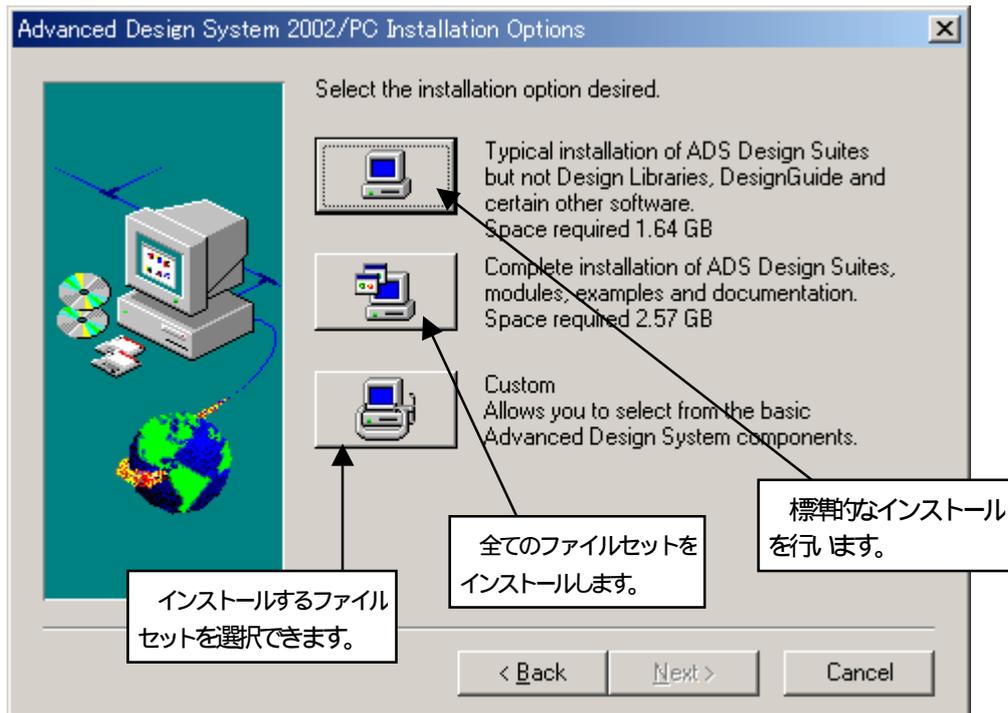
注意 ホームディレクトリには、ネットワークドライブを指定しないことをお勧めします。ネットワークドライブを指定した場合は、ADS 2002 の動作が極端に遅くなる場合があります。

3 - 4 インストール作業

(1) インストール方法の選択

[Advanced Design System 2002/PC Installation Options] ダイアログボックスで、インストール方法の選択を行います。

ここではインストール方法を三つの中から選ぶことができます。



Typical installation of ADS Design Suites

ADS 本体, Momentum electromagnetic simulator, Digital Filter Designer, Vendor Component Libraries などの重要なモジュール群, サンプルファイル, ドキュメントファイルがインストールされます。約 1.64GB 必要です。

インストールされるファイルセットの種類は、(3) 表3-1 を参照してください。

Complete installation of ADS Design Suites

ADS 2002 の全てのファイルセットをインストールします。

約 2.57GB 必要です。

Custom

インストールするファイルセットを自由に選択することができます。

こちらを選んだ場合は、(2)のインストールファイルセットの選択に進んでください。

インストールできるファイルセットの種類は、(3) 表3-2 を参照してください。

注意 どのコンポーネントもインストールすることはできますが、ライセンスをご購入いただいた製品しか使用することはできません。

(2) ファイルセットの選択 (Custom インストールの場合のみ)

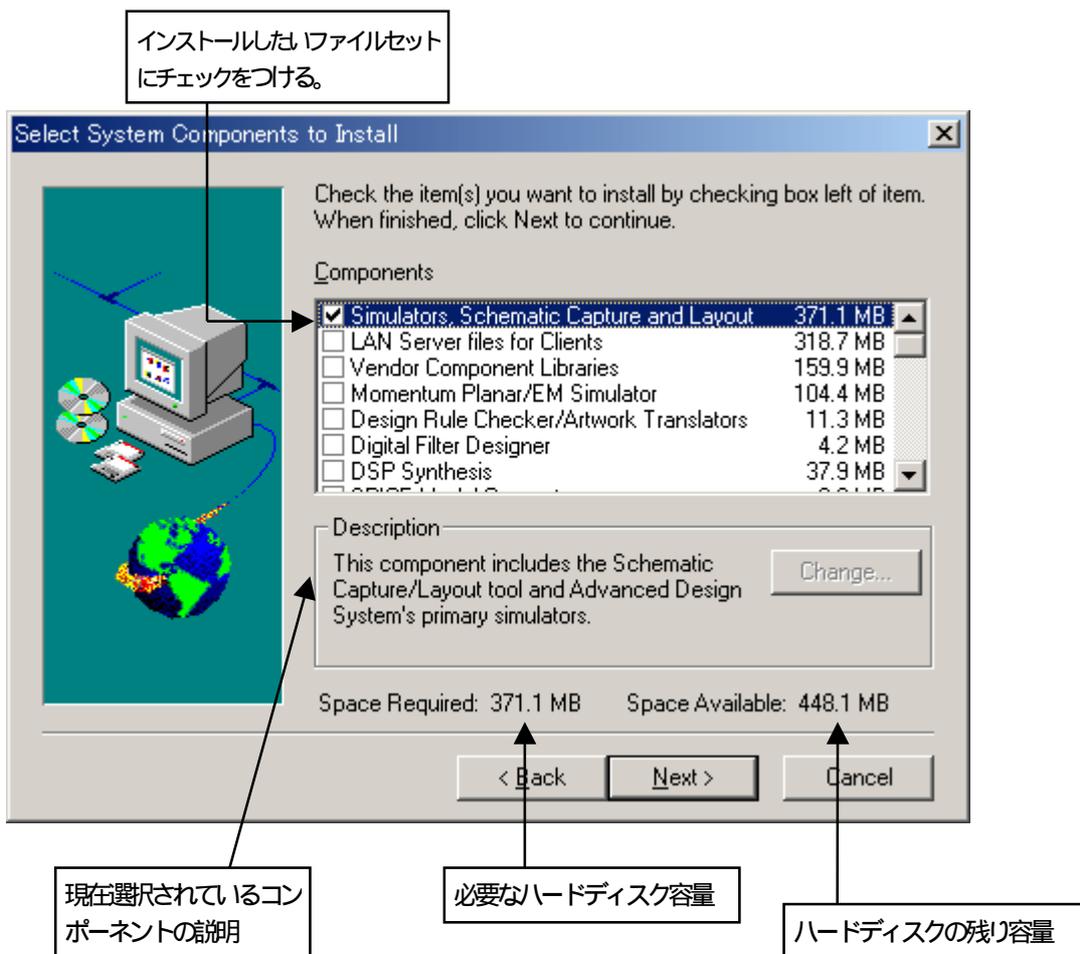
(1) で、Custom を選ぶと、[Select System Components to Install] ダイアログボックスが現れます。

[Components] フィールドに、チェックボックス・コンポーネント名・使用ディスク容量の順に表記されていますので、この中から必要な全てのコンポーネントのチェックボックスをチェックします。(3) 節で各コンポーネントの簡単な説明をします。

[Description] エリアには、[Components] で選択(色が反転)しているコンポーネントの簡単な説明が表示されます。

ダイアログボックス下部には、チェック済みのコンポーネントの使用ディスク容量の合計 [Space Required] と、インストール先のディスクの残り容量 [Space Available] が表示されています。

チェックが全て終了したら、[Next>] をクリックして次に進みます。



注意 “*Simulators, Schematic Capture, and Layout*” がインストールされていない場合は、ADS 2002 を起動することができません。FLEXIm ライセンスサーバのみをインストールしたい場合など特別な場合でなければ、このコンポーネントは必ずインストールしてください。

(3) コンポーネントの種類

表3-1 Typical インストールでインストールされるコンポーネント

コンポーネントの種類	説明
Simulators,Schematic Capture,and Layout	ADS 2002 の基本プログラム群 Design Environment,Data Disply,Analog/RF Systems Signal Processing simulators が含まれます
Design Rule Checker/Art Translators	Design Rule Checker では、レイアウトの検証が行えます。 Art Translators には、MTOOLS(Gerber,DXF),IGES,GDSII などが含まれます。
Digital Filter Designer	
DSP Synthesis	DSP 製品
E-Syn	E-Syn 製品
Examples	サンプルプロジェクト
LineCalc	LineCalc 製品
Model Development Kit	Model 開発キット
Momentum Planar EM Simulator	Momentum Planar シミュレータ
Online Documentaton to Hard Disk	HTML版・オンラインマニュアル(英語版のみ) Webブラウザが必要です。Netscape 4.5以上、Internet Explorer 4.0 以上に対応
SeriesIV & MDS to ADS Translators	SeriesIV,MDS から ADS 2002 への変換ツール
SPICE Model Generator	S-Parameter から SPICE モデル作成
Vendor Component Libraries	RF Transister Library,Analog Parts Library など

表3-2 Custom インストールで選択できるコンポーネント

コンポーネントの種類	説明
Simulators,Schematic Capture,and Layout	ADS 2002 の基本プログラム群 Design Environment,Data Disply,Analog/RF Systems Signal Processing simulators が含まれます
LAN Server Files for Clients	ネットワークサーバとしてインストールする時に必要なファイル 詳細は、xxx をご覧ください
Vendor Component Libraries	RF Transister Library,Analog Parts Library など
Momentum Planar EM Simulator	Momentum Planar シミュレータ
Design Rule Checker/Art Translators	Design Rule Checker では、レイアウトの検証が行えます。 Art Translators には、MTOOLS(Gerber,DXF),IGES,GDSII などが含まれます。
Digital Filter Designer	
DSP Synthesis	DSP 製品
SPICE Model Generator	S-Parameter から SPICE モデル作成
E-Syn	E-Syn 製品
LineCalc	LineCalc 製品
FLEXIm licensing software	FLEXIm(ライセンス管理)ツール
cdma2000-Compliant Design Library	CDMA2000 デザインライブラリ
Digital TV Design Library	Digital TV デザインライブラリ
HDL Cosimulation	HDL コシミュレータ
RFIC Dynamic Link	RFIC ダイナミックリンク

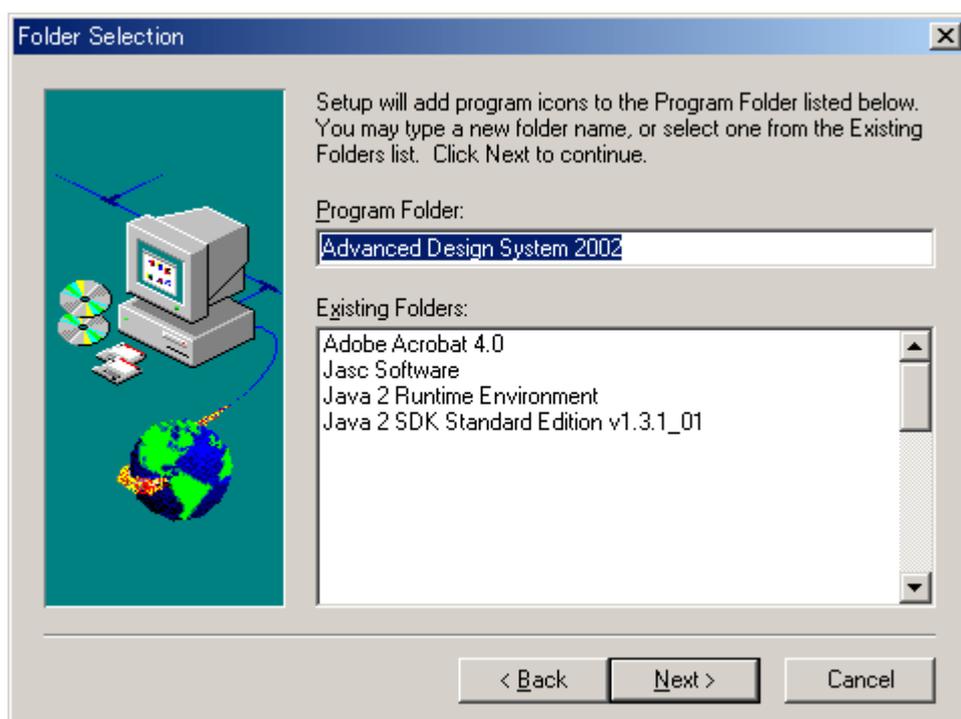
CDMA Design Library	CDMA デザインライブラリ
GSM Design Library	GSM デザインライブラリ
SeriesIV & MDS to ADS Translators	SeriesIV,MDS から ADS 2002 への変換ツール
3GPP W-CDMA Design Library	3GPP W-CDMA デザインライブラリ
EDGE Design Library	EDGE デザインライブラリ
WLAN Design Library	WLAN デザインライブラリ
1xEV Design Library	1xEV デザインライブラリ
Agilent VEE Link	VEE(弊社製品)とリンクツール
ISS Cosimulation	ISS コシミュレータ
Agilent 89600 VSA Link	89600 VSA リンク
Linearization DesignGuide	Linearization デザインガイド
Oscillator DesignGuide	Oscillator デザインガイド
Passive Circuit DesignGuide	Passive Circuit デザインガイド
Phase-Locked Loop DesignGuide	Phase-Locked Loop デザインガイド
Power Amplifier Design Guide	Power Amplifier デザインガイド
Design Kit Tool Set	デザインキットツール
Bluetooth DesignGuide	Bluetooth デザインガイド
CDMA2000 DesignGuide	CDMA2000 デザインガイド
Mixer DesignGuide	Mixer デザインガイド
RF System DesignGuide	RF System デザインガイド
WLAN DesignGuide	WLAN デザインガイド
Filter DesignGuide	Filter デザインガイド
Developer Studio DesignGuide	デザインガイド カスタマイズツール

“LAN Server Files for Clients” は、ネットワークインストールを行うためのファイルセットです。現在インストール中のコンピュータをネットワークインストール・サーバにする場合は、このコンポーネントを選択してください。

ネットワークサーバ/クライアントインストールの概要については、3 - 2 節 「ローカル / ネットワークインストール」を参照してください。

(4) プログラムフォルダの指定

Typical インストールまたは、Complete インストールを選択した場合、Custom インストールで “ *Simulators, Schematic Capture, and Layout* ” をチェックした場合は、[Folder Selection] ダイアログボックスが現れます。ここでは、ADS 2002 プログラムの起動メニューが作成されるフォルダ名を指定します。

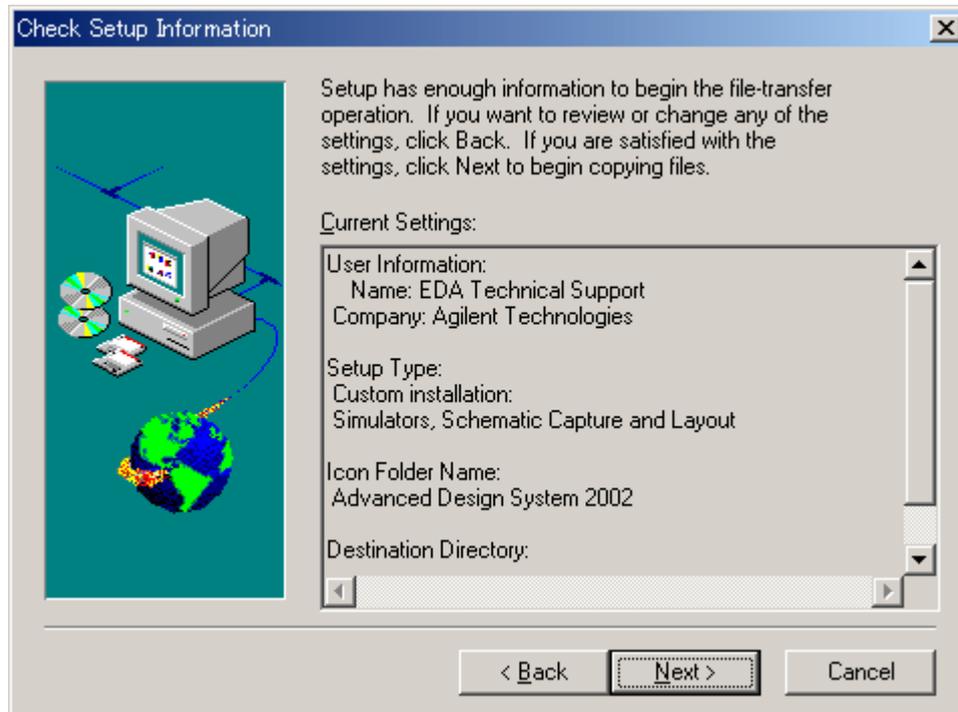


上図の場合は、[スタート] > [プログラム] > [Advanced Design System 2002] フォルダにアプリケーションのショートカットが作成されることとなります。

[Existing Folders:] 欄には、既にプログラムフォルダに入っているショートカットメニューの一覧が出ています。ただし、日本語が表示できないのでその部分は空白になります。

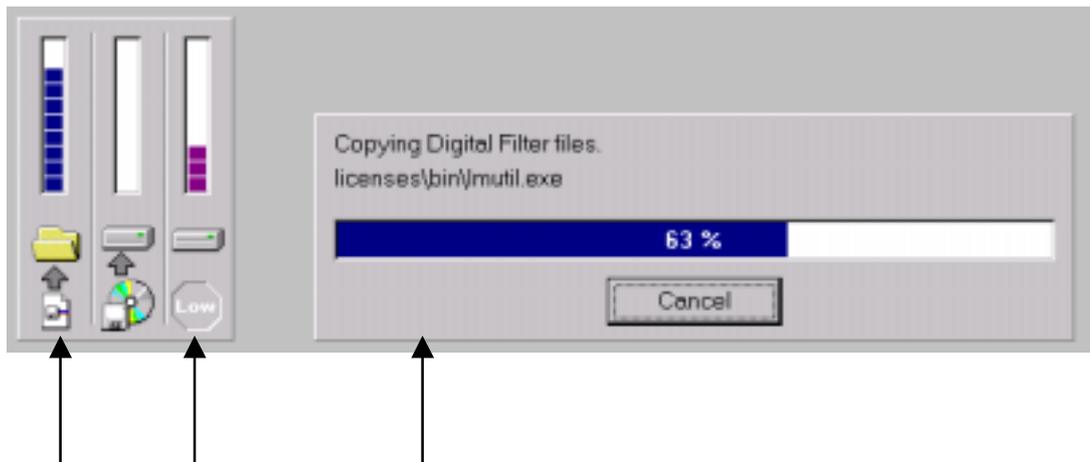
(5) セットアップ情報の確認

コンポーネントの選択が終わると、[Check Setup Information] ダイアログボックスが現れます。ここでは、セットアップ情報の確認を行います。問題が無ければ、[Next>] ボタンをクリックして、インストールを開始します。



(6) インストール作業の開始

以上が終わるとインストールが始まります。セットアップスクリーン左下部に進行状況が二つのインジケータで表示されます。(途中、コマンドプロンプトが立ち上がる場面がありますが、これはインストール作業の正しい動作ですので、ウインドウを消したりせずにそのままにしておいてください。)



左側のインジケータは、

ディレクトリへのファイルコピーの進行状況を示しています。

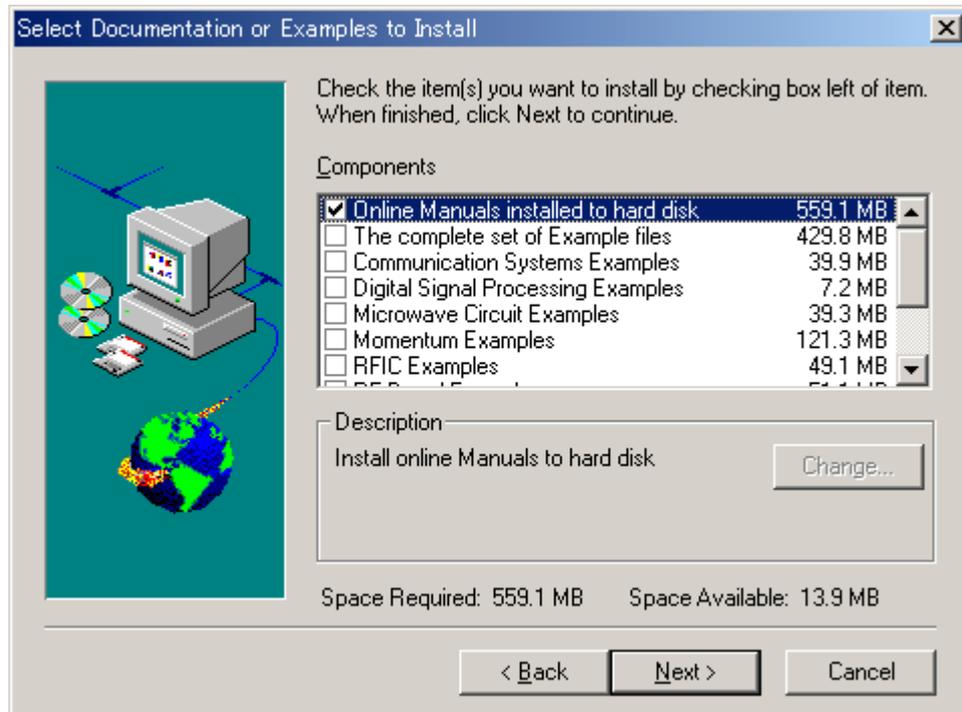
使用可能なディスクスペースを示します。ディスクスペースが不足するときは、下図の様に [Low] 印が赤くなります。



右側に表示されているボックス には、現在インストールされているファイル名と、現在までのインストールの進行状態がパーセンテージで示されています。

(7) マニュアル・サンプルの選択 (custom インストールの場合のみ)

1. custom インストールを選択した場合、[Select Documentation or Examples to Install] 画面が現れます。コンポーネントのインストール時と同様、必要な項目にチェックを入れます。



2. [Next] をクリックすると、入力確認のためのボックスが現れます。間違いがなければ [Yes] をクリックします。訂正したいときは [No] をクリックします。
3. コンポーネントのインストール時と同様に、ディスクチェックが行われ容量が十分な場合は、インストール作業が始まります。

注意 オンラインマニュアルをインストールするには、“ Simulators, Schematic Capture, and Layout ” がインストールされている必要があります。インストールされていない場合は、インストール作業が途中で失敗してしまいますので、ご注意ください。インストールするのを忘れてしまった場合は、前に戻るか、最初からインストールをし直してください。

(8) FLEXid ドライバのインストール

コンポーネントとサンプルプロジェクトのインストールが終了した時点で、FLEXid ドライバが sentinel ドライバがインストールされていない場合は、以下のボックスが現れます。



FLEXid ドライバは、ノードロックライセンス製品やライセンスサーバとして使用する場合は、ハードウェアキー(sentinel key,dallas key)を認識するためのドライバです。

FLEXid ドライバは、ここでインストールをする事もできますが、全てのインストールが終わった後でもインストールをする事ができます。

ここでインストールを行うと、別のインストールプログラムが起動し、作業が複雑になってしまいますので、ここは **【いいえ(N)】** を選び、ADS 2002 本体のインストールが終わった後に、別途インストールする事をお勧めいたします。

なお、ハードウェアキーについては、第4章「ライセンスの設定」 / 4 - 4節「ハードウェアキーの接続と確認」に掲載しています。

【はい(Y)】 を選んだ場合は、ADS 2002 インストールウインドウとは別に [GLOBEtrrotter FLEXid Installation] というタイトルのインストーラが起動します。インストール方法については、4 - 3節「FLEXid ドライバのインストール」の手順に従ってください。

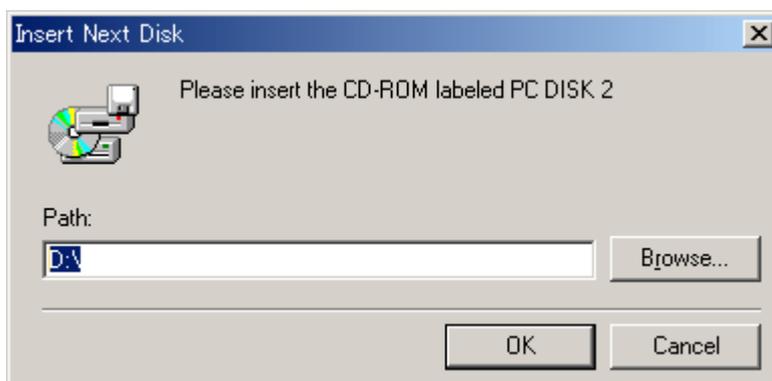
ここで、**【いいえ(N)】** を選ぶと、次のオンラインマニュアルのインストールに進みます。**【いいえ(N)】** を選んだ場合でも、4 - 3節「FLEXid ドライバのインストール」の手順でインストールする事ができます。

(9) マニュアルのインストール

オンラインマニュアルがインストールされる設定の場合は、コンポーネント・サンプルファイルのインストールが終了した時点で、以下のダイアログが現れます。



[OK] ボタンを押すと、下図のダイアログボックスが現れます。



オンラインマニュアルは、CD-ROM Disk 2 に収録されていますので、この画面が現れたら Disk 2 を挿入してください。

CD-ROM のドライブ名が違う場合は、[Path:] 欄に直接正しいパスを入力するか、[Browse...] ボタンで CD-ROM の正しいパスを探してください。

CD-ROM を入れ替えた後、[OK] ボタンを押すと、オンラインマニュアルのインストールが始まります。

3 - 5 インストール作業の完了

全ての作業が終わると、最後に [License Required] ボックスが現れます。ここでは ADS 2002 を使用するためには、コードワードファイルを取得する必要がある旨のメッセージが表示されています。[OK] をクリックすると、インストールが終了します。



- ネットワーク・サーバ/クライアントシステムを構築する場合
3 - 6 節「ネットワークインストール」に進んでください。
- インストールを完了する場合
3 - 7 節「インストール後の注意と手順」に進んでください。

3 - 6 ネットワークインストール

ADS 2002 では、ネットワーク・サーバ/クライアントシステムを構築することができます。この場合の、インストール作業について説明します。

(1) ネットワークインストール・サーバの確認

ネットワークインストールのサーバマシンになるには以下の二つの条件が必要となります。

- ADS 2002 がインストールされていて、インストールオプションで “LAN Server files for clients” が選択されている。

サーバマシンには、ADS 2002 が既にインストールされている必要があります。まだ、インストールが終了していない場合は、第3章のはじめに戻って、インストールを行ってください。

インストールオプションに “Custom Install” を選んだ場合は、インストールするファイルの選択画面で (3 - 4 節(2)参照) で、上から 2 番目のオプション、“LAN Server files for clients” を必ず選択してください。

このオプションを選択すると、“<Installation Directory>%setup” (通常は “C:%ADS2002%setup”) ディレクトリに、クライアントマシン用のセットアッププログラムがインストールされます。

- ADS 2002 がインストールされたディレクトリを共有接続することが可能になっている。

ネットワークインストールを行うには、サーバマシン上で ADS 2002 のインストールされているディレクトリが、共有接続可能になっている必要があります。ディレクトリの共有については、本手順書の 8 - 1 節「ファイルシステムの共有」も参照してください。より詳しいことは、お使いになっている Windows OS のヘルプを参照してください。

以上の手順が終了していない場合は、クライアント側へのインストールは行えません。サーバ側での、全ての手順を終わらせてから、次の節に進んでください。

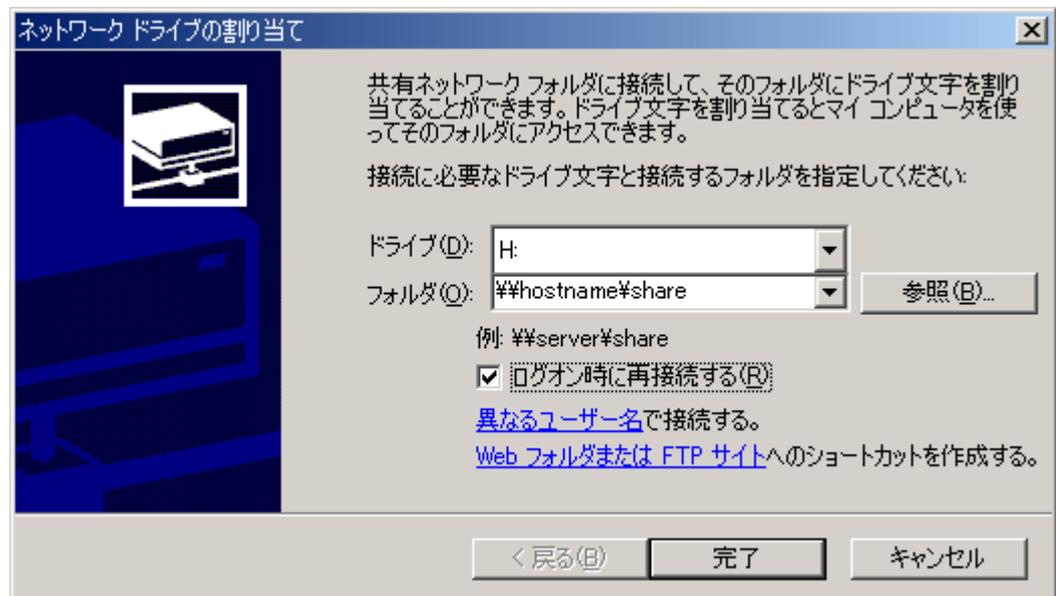
(2) クライアント側のインストール準備

(1) のサーバシステムの構成が終わっていることを確認してください。そしてサーバマシン上の ADS 2002 がインストールされているディレクトリが共有可能になっていることを確認してください。(ディスクの共有についての詳細は本手順書 8 - 1 節を参照してください)

クライアントマシンへのインストールは、サーバマシン上のインストーラ(setup.exe)を用いて行われます。そのため、クライアントマシンから、サーバマシンの共有ディスクへの接続を行います。

- Windows NT 2000

[スタート] メニューの、[プログラム] > [アクセサリ] > [エクスプローラ] を選択して、エクスプローラを起動します。[ツール] メニューの [ネットワークドライブの割り当て] を選択します。



- Windows NT 4.0
[スタート] メニューの、[プログラム] > [Windows NT エクスプローラ] を選択して、エクスプローラを起動します。[ツール] メニューの [ネットワークドライブの割り当て] を選択します。
- Windows 98
[スタート] メニューの、[プログラム] > [エクスプローラ] を選択して、エクスプローラを起動します。[ツール] メニューの [ネットワークドライブの割り当て] を選択します。



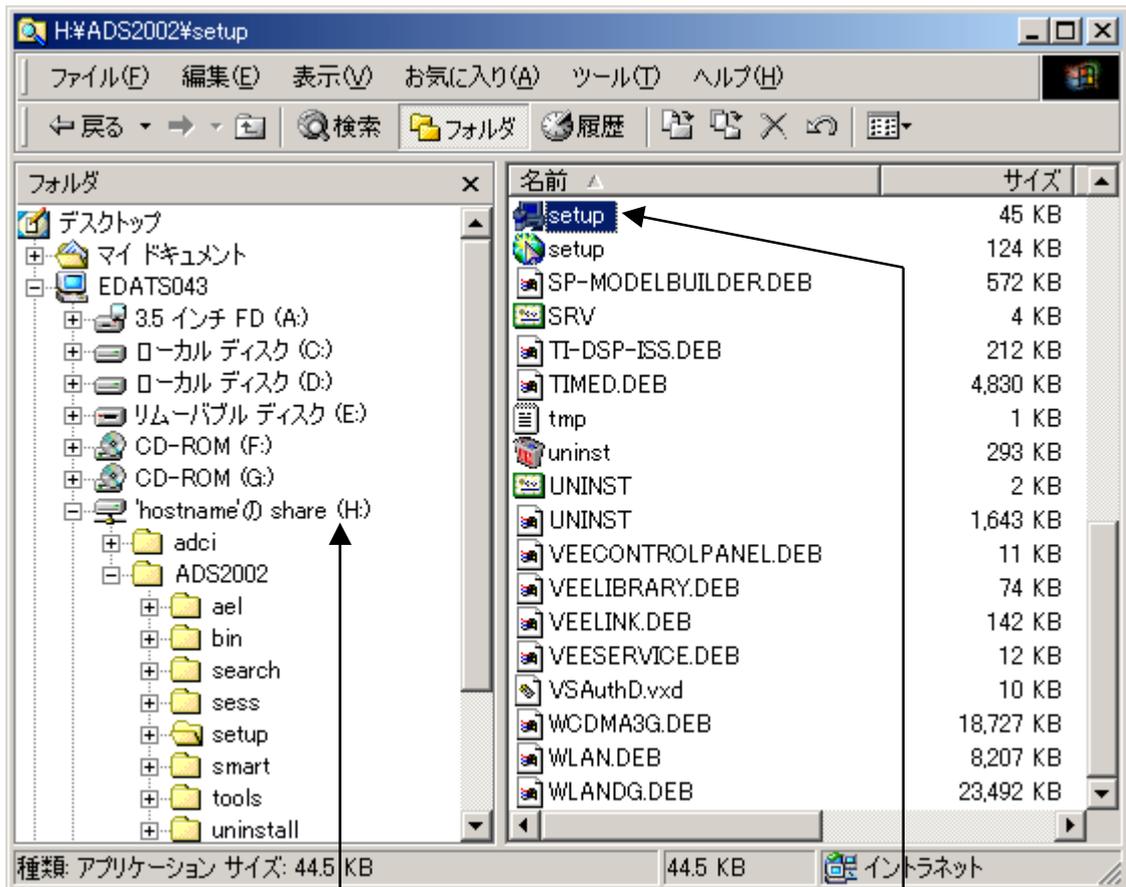
クライアントマシンで、サーバマシン上の ADS 2002 がインストールされているドライブに接続します。

ここでは、サーバマシンの “D:¥share” ディレクトリ(共有名 “share”)を、クライアントマシンの “G:” ドライブに割り当てたとします。また、サーバマシンには、“D:¥ADS2002” ディレクトリに ADS 2002 がインストールされているとします。

(3) セットアップの起動

クライアントマシンで、接続したドライブの“setup”ディレクトリにある“setup.exe”を実行します。

エクスプローラを起動し、共有ドライブの“%ADS2002%setup”ディレクトリの、“setup.exe”もしくは、“setup”を起動します。



共有ドライブ(H)
この場合は、コンピュータ名が
“hostname”、共有名が“share”

アプリケーションアイコンのついてい
る、“setup”をダブルクリックします

“Advanced Design System/PC LAN Client Setup” というタイトル画面に、“Welcome to Advanced Design System/PC LAN Client Setup” というウインドウが現れます。

ウェルカムボックスの説明を読んでから、[Next] をクリックして、次に進みます。

(4) 登録情報の入力

1. 登録インフォメーションボックスが現れますので、ユーザ名と会社名を入力します。(これらの入力はライセンスファイルと関係はありません。好みの名前、イニシャル等を入力してください。)
2. **[Next]** をクリックすると、入力確認のためのボックスが現れます。間違いがなければ **[Yes]** をクリックします。訂正したいときは **[No]** をクリックします。

(5) ホームディレクトリの指定

[Specify Your Directory] ボックスが現れ、システム標準のホームディレクトリとして、“C:\users\default” 表示されます。ホームディレクトリとは、個々のユーザ毎の設定ファイルを保存するためのディレクトリです。このディレクトリは、クライアント側固有の設定ですので、クライアントPCのローカルディスク上に作成する事をお勧めします。

(6) インストール方法の選択

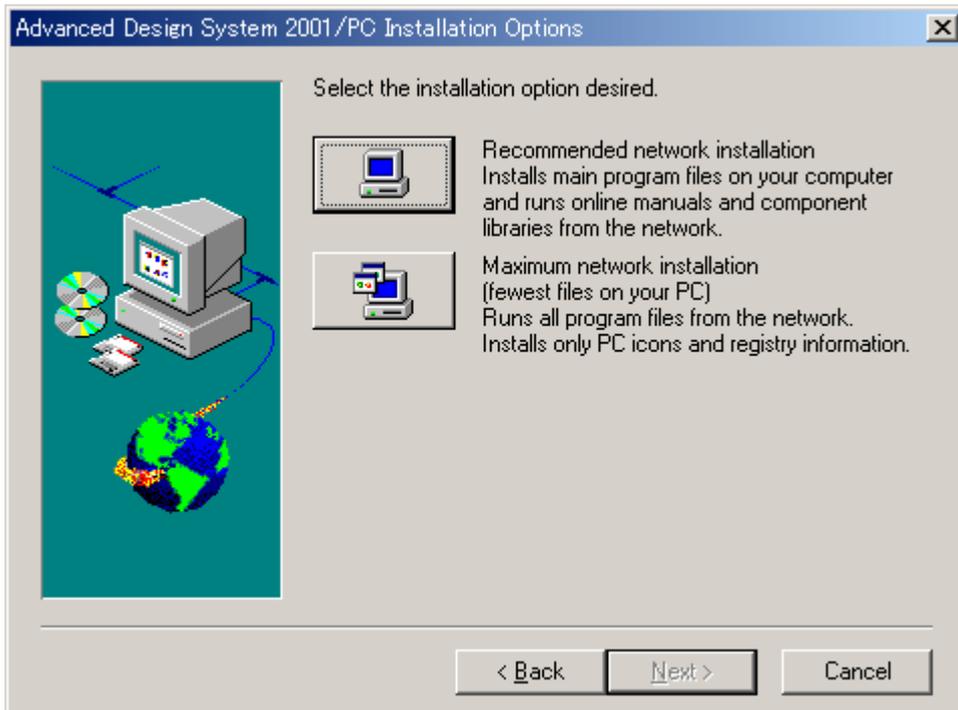
ADS 2002 のネットワークインストールには、二通りの方法があります。

■ Recommend network installation (307572 KB)

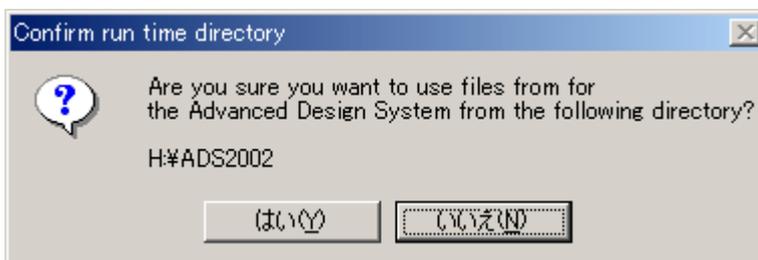
オンラインマニュアル・ライブラリはサーバ上のものを使い、実行形式ファイルは、ローカルのディスクにインストールします。実行形式ファイルがネットワーク上にある場合、プログラムの起動が極端に遅くなる場合がありますので、この問題を回避するために推奨されるインストール方法です。

■ Maximum network installation

アイコンとレジストリエントリの作成のみを行い、ファイルセットは全てサーバ上のものを使用します。ディスク容量はほとんど必要無くなりますが、シミュレータの実行速度が極端に遅くなる場合があります。



インストール方法を選択すると、ネットワークドライブのパスの確認が行われます。



クライアントマシンで ADS 2002 を起動するときは、常にこの共有接続が確立されている必要があります。

このままでいい時は、**[(はい(Y))]** を押して次に進みます。

パスを変えたい時は、**[(いいえ(N))]** を押して、ネットワークドライブの接続からやり直してください。

(7) インストール先の指定

Recommended client installation を選択した場合は、ファイルセットのインストール先をここで指定します。

指定方法は、3 - 3 節(4) と同様ですので、詳細はそちらを参照してください。

(8) プログラムフォルダの指定

ADS 2002 起動用のプログラムフォルダを作成するために、プログラムフォルダ名を指定します。

指定方法は、3 - 4 節(4) と同様ですので、詳細はそちらを参照してください。

(9) セットアップ情報の確認 / インストールの開始

“Check Setup Information” ボックスが現れます。インストール方法・インストール先等が正しければ、**[Next >]** を押してください。インストールが開始されます。

参考 インストール途中で、“Repaintind while Draggind Turned OFF” というウインドウが出る場合があります。**[はい]** , **[いいえ]** のどちらを選んでも、インストールには差し支えありません。どちらかを選択して、インストールを続行してください。**[いいえ]** を選択した場合は、最後の “status” ウインドウのタイトル表示がおかしくなる場合があります。

(10) ネットワークインストール・セットアップの終了

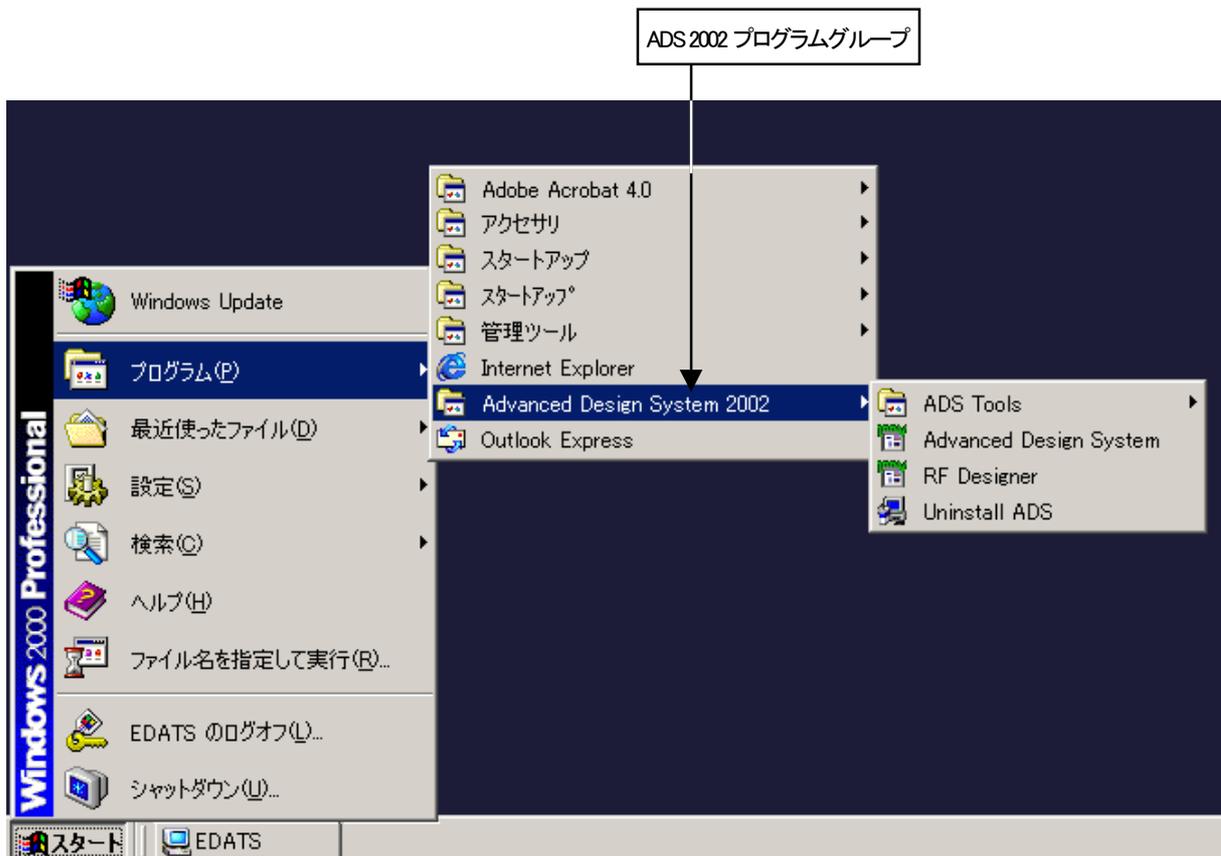
インストールが完了すると、“Session Complete” ウィンドウが現れます。**[OK]** ボタンを押すと、インストールは終了します。



以上でネットワーククライアントの構築が終了しました。クライアントマシンが複数台ある場合は、全てのコンピュータで、3 - 6 節(2) ~ (10) までの手順を繰り返してください。

3 - 7 セットアップの終了

ファイルセットのインストール作業が終わっても、プログラムを正しく起動するためにはライセンスの入力を行う必要があります。ライセンスの入力については、第4章で詳しく述べていますので、こちらの作業も必ず行ってください。3 - 8 節までの状態では ADS 2002 は起動できません。



第4章 ライセンスの設定

4 - 1 はじめに

ソフトウェアのインストールが終了したら、ライセンスの入力および設定を行う必要があります。ADS 2002 では、ライセンス管理に FLEXIm が用いられています (FLEXIm は GLOBEtrouter Software 社のライセンス管理用ソフトの名称です)。

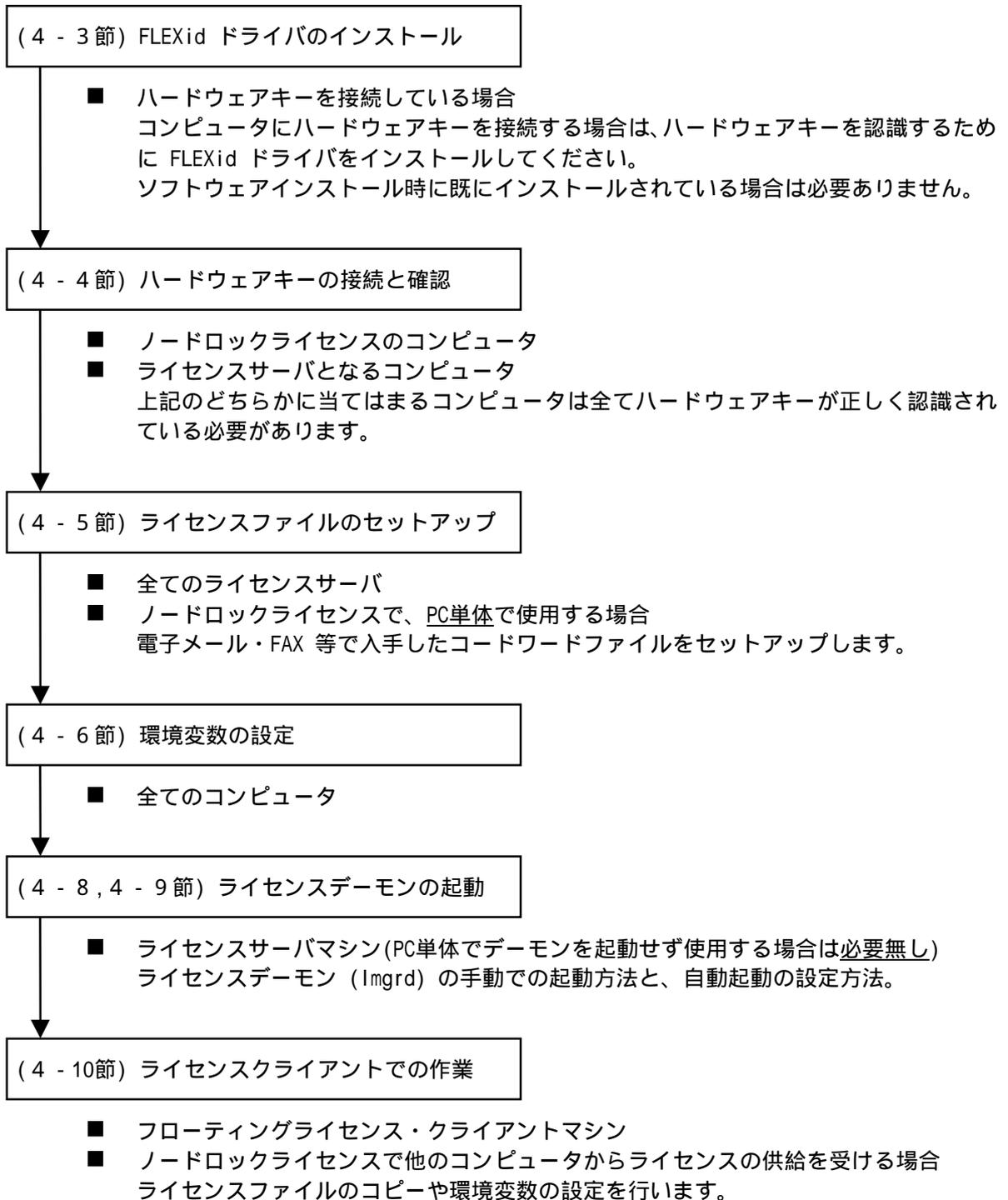
ライセンス形態には二種類存在し、それぞれ以下のような特徴を持っています。

- ノードロックライセンス
ある限定したコンピュータでアプリケーションを実行することができます。
アプリケーションを使用できるコンピュータを特定するために、PC の場合はハードウェアキーが接続されている必要があります。
- フローティングライセンス (ネットワークライセンス)
ライセンスの個数までなら、任意のマシンでアプリケーションを実行することができます。
ライセンスサーバとなるコンピュータが必要になります。サーバマシンが停止している時は、全てのコンピュータでアプリケーションを使用することができません。
ライセンスサーバがPCの場合は、サーバコンピュータを特定するために、ハードウェアキーが接続されている必要があります。

注意 ネットワークライセンスは、第3章で説明した“ネットワークインストール”とは関係ありません。例えばネットワークサーバ/クライアントシステムを構築したクライアントマシンは、ノードロック、フローティングライセンスのどちらでも利用できます。

4 - 2 セットアップの手順

ライセンス関連のセットアップの手順について示します。



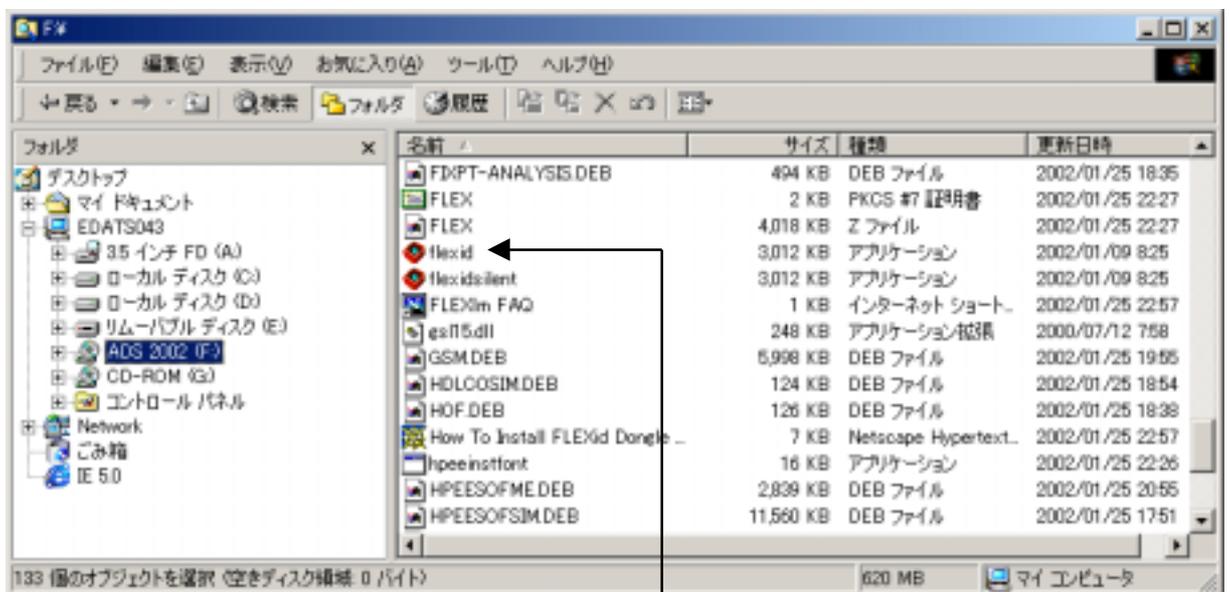
4 - 3 FLEXid ドライバのインストール

ハードウェアキーを使用する場合は、ハードウェアキー検出のために、PC に FLEXid ドライバをインストールする必要があります。FLEXid ドライバは、Advanced Design System / PC Disk 1 Program CD-ROM に入っています。

重要 旧式のハードウェアキー(sentinel キー; 水色でキー番号が“ FLEXID=7- ”で始まるもの)を利用しているお客様で、既に sentinel ドライバが PC にインストールされている場合でも、今回は新たに FLEXid ドライバをインストールする必要があります。ADS 2002 を使用する場合は、必ずインストールしてください。FLEXid ドライバをインストールしても、旧バージョンの ADS は問題なく利用できます。

FLEXid ドライバのセットアッププログラムは、PC Setup Program Disk 1 CD-ROM に収録されている、“flexid.exe” を実行することによって起動できます。下記の手順は起動方法の一例です。

- (1) Advanced Design System / PC Disk 1 Program を CD-ROM ドライブに挿入します。
- (2) エクスプローラを起動します。
- (3) CD-ROM ドライブの “flexid.exe” を起動します。“flexid.exe” はエクスプローラの設定によって、“flexid” と表示される場合があります。



ここをダブルクリック

- (4) インストーラが起動します。[Next >] をクリックすると、インストールが始まります。



- (5) インストールが終了すると下図のウィンドウが現れますので、すぐにコンピュータの再起動をするならそのまま [Finish] ボタンをクリックします。後で行う場合は "No, I will restart my computer later." を選択して [Finish] ボタンをクリックしてください。これで FLEXid ドライバのインストールは終了です。



4 - 4 ハードウェアキーの接続と確認

ハードウェアキーを装着するコンピュータは次の2つの場合があります。

- ノードロックライセンスの場合
- フローティング（ネットワーク）ライセンスのサーバマシンの場合

(1) まず、ハードウェアキーを装着します

ハードウェアキーをコンピュータの平行ポートに取り付けます。外れないようにしっかりと差し込み、ネジを締めてください。接続した後、PC を再起動する必要はありません。

注意 ハードウェアキーには IDナンバー（例：FLEXID=7-B2858B77）が記載されています。コンピュータへ取り付ける前にナンバーを控えておいてください。コードワードを確認するときに必要になります。

図4 - 1：ハードウェアキーの見本
(ハードウェアキーの形状は異なる場合があります)



ハードウェアキーの認識テストをします。

ハードウェアキーのテストをしたい時や、ハードウェアキー取り付け後にキーの ID ナンバーを調べたいときは、コマンドプロンプトから次のコマンドを入力します。

注意 ハードウェアキーを利用するためには、FLEXid Driver がインストールされている必要があります。FLEXid Driver については、前節 4 - 3 を参照して下さい。
2002年4月現在、ハードウェアキーは Dallas キー(黒いハードウェアキー; “FLEXID=8- ”で始まるもの)が採用されていますが、これ以前の古いキー(緑色のハードウェアキー; “FLEXID=7- ”で始まるもの)を利用されている方で、sentinel ドライバをインストールして利用できている場合でも、今回は新たに FLEXid ドライバをインストールする必要がありますのでご注意ください。

1. コマンドプロンプトを起動します。

- Windows 2000
[スタート] > [プログラム] > [アクセサリ] > [コマンドプロンプト] をクリックしてコマンドプロンプトを起動します。
- Windows NT 4.0
[スタート] > [プログラム] > [コマンドプロンプト] をクリックしてコマンドプロンプトを起動します。
- Windows 98
[スタート] > [プログラム] > [MS-DOSプロンプト] をクリックしてコマンドプロンプトを起動します。

2. プロンプトで次のコマンドを実行します。

<書式> cd <installation directory>%licenses%bin

<例> cd C:%ADS2002%licenses%bin

<installation directory> は ADS 2002 をインストールしたディレクトリを示します。
<例>は、ADS 2002 が “C:%ADS2002” にインストールされている場合です。

3. 次に、ハードウェアキーの ID を読み取るコマンドを実行します。

```
> Imutil Imhostid -flexid
```

(正しい結果) 以下のようなコマンドの結果が得られます。

```
Imutil - Copyright (C) 1989-2001 Globetrotter Software, Inc.
The FLEXIm host ID of this machine is "FLEXID=8-5E700060D1B0"
Only use ONE from the list of hostids.
```

二行目の最後の、“FLEXID=8-5E700060D1B0”の部分がハードウェアキーの番号にです。

(誤った結果 1)

```
Imutil - Copyright (C) 1989-2001 Globetrotter Softwa
The FLEXIm host ID of this machine is "00a0c90355bf"
```

この場合ハードウェアキーではなく、LAN の ID が出力されています。コマンドに入力間違いが無いかどうか、もう一度お確かめ下さい。

(誤った結果 2)

```
Imutil - Copyright (C) 1989-2001 Globetrotter Software, Inc.
The FLEXIm host ID of this machine is ""
Imhostid: Can't read dongle: check dongle or driver (-110,511:42 "Illegal byte s
equence")
```

この場合は、ハードウェアキーが認識されていません。以下の項目をもう一度お確かめ下さい。

- ハードウェアキーがパラレルポートにきちんと接続されているでしょうか？
もう一度お確かめください。
- FLEXid ドライバのインストールを行いましたか？行っていない場合は、4 - 3 節を参考に行ってください。
- ハードウェアキーにさらにプリンタを接続していますか？接続している場合は一度プリンタを外してもう一度チェックしてみてください(プリンタは電源を切るだけでなくケーブルをコネクタから外してお試しください)。
- PC 本体の BIOS でのパラレルポートの設定は入出力が可能な状態になっているでしょうか？通常パラレルポートにはプリンタ等、出力専用の周辺装置を接続することが多く、出力のみの設定になっている場合があります。コンピュータ起動時の BIOS 設定のメニューを起動し、パラレルポートの設定を確認してください。この設定はコンピュータの機種に依存しますので、詳細はご使用になられているコンピュータのマニュアル等を参照してください。

注意 パラレルポートにハードウェアキーを取り付け、さらにプリンタもつないだ場合に、OS/プリンタ/ドライバの組み合わせによっては、ハードウェアキーを認識できなかったり、プリンタが動作しなかったりする場合があります。この場合、もう1枚別にパラレルポート増設ボードを用意し、こちらにプリンタを接続する方法があります。

4. “exit”と入力すると、コマンドプロンプトを終了することができます。

4 - 5 ライセンスファイルの作成と設置

ADS 2002 では ライセンス管理に FLEXIm が用いられています。FLEXIm では、ライセンスの情報を license.lic (または、license.dat) ファイルで管理しています。license.lic ファイルは決められたディレクトリに存在する必要があります。これはノードロックライセンス下でもフローティングライセンス下でも同様です。license.lic ファイルの標準インストール先は “<installation directory>%licenses” ディレクトリ (例えば、C:%ADS2002%licenses) です。

この節では、この license.lic ファイルの作成を行います。

参考 FLEXImは、アメリカ合衆国 GLOBEtrouter 社が開発した、ライセンス管理ソフトウェアの名称です。

ライセンスファイルのセットアップ方法は、ライセンスデーモンを起動する場合/しない場合・既存のサーバを使用する場合に、作業が若干異なってきます。ライセンスデーモンとは、ソフトウェアがライセンスの数だけ正しく使用されるように管理を行うソフトウェアを指します。それぞれの場合に必要な作業を以下にまとめています。

- ライセンスデーモンを起動しない場合 次ページ(1)の作業を行ってください
PC単体で、ノードロックライセンスの製品のみを使用する場合は、この方法をとります。

ライセンスファイルを受け取ったら、license.lic ファイルを所定のパスに保存するだけで終了です。次ページの(1)の手順のみを行ってください。

- ライセンスデーモンを起動する場合 次々ページ(2)の作業を行ってください
フローティングライセンスの場合は、ライセンスデーモンを起動する必要があります。また、ノードロックライセンスの場合で、他のコンピュータからライセンスの供給を受ける場合もライセンスサーバの起動が必要です。

サーバマシンに license.lic ファイルを設置し、ライセンスデーモンを起動します。クライアントマシンでの作業は、サーバで作成した license.lic ファイルをコピーするだけです。詳細は 4 - 8 節を参照してください。

- 他のライセンスサーバからライセンスの供給を受ける場合

既に ADS 2002 のライセンスサーバが他のコンピュータで動いている場合は、この方法を選択することができます。ライセンスの請求時に、既存のサーバの情報をお知らせしていただく必要があります。

受け取ったライセンスファイルをサーバ側の既存のライセンスファイルに追加し、再読み込みを行います。

サーバはPCだけでなく、UNIX サーバからもライセンスを取得することができます。

(1) license.lic ファイル作成 (PC一台でノードロックライセンスを使用する)

送られてきたライセンスファイルを所定のディレクトリに置きます。ライセンスファイルは通常、“<Installation Directory>¥licenses” ディレクトリに “license.lic” という名前で作ります。ADS 2002 がインストールされているディレクトリを、“C:¥ADS2002” とすると、“C:¥ADS2002¥licenses¥license.lic” となります。

- ライセンスファイルを受け取ったら、所定の場所にライセンスファイルを置きます。

license.lic ファイルの内容は以下のようになります。

```
INCREMENT ads_datadisplay agileesof 2.0 20-sep-2003 uncounted ¥
    VENDOR_STRING=7-36C70F19 HOSTID=FLEXID=7-36c70f19 SIGN="02F8 ¥
    DBCA 211B EE72 D3D3 C778 87CE BA94 0369 D304 6F03 2032 659D ¥
    5BE0 1C70 11E8 2C83 197B A594 3A03 7E6D"
INCREMENT ads_layout agileesof 2.0 20-sep-2003 uncounted ¥
    VENDOR_STRING=7-36C70F19 HOSTID=FLEXID=7-36c70f19 SIGN="0365 ¥
    C9D3 CFC6 CBED F4A5 B1C7 76E1 0F0D 9A9A EB6F CB02 OAC6 F2EE ¥
    58E9 4ED2 2110 BD8E 3D69 18A7 9151 9659"
    (以下省略)
```

注意 現在、PC単体でのノードロックライセンスの場合は、以前と違いライセンスファイルの最初に SERVER, DAEMON などの行が入っていません。
INCREMENT 行のみのライセンスファイルが正しい形ですので、SERVER, DAEMON 行などを特に付け加えずご利用になれます。

重要 ライセンスファイルの設置ディレクトリ (例 C:¥ADS2002¥licenses¥) には 最新の有効なライセンスファイル以外のファイルは絶対に置かないでください。
ADS 2002 では、ライセンスの設置ディレクトリの中のファイルを自動的に検索してライセンスを探す機能があります。よって、このディレクトリに無効なライセンスファイルや、バックアップ用のライセンスファイル (例えば、license.lic.backup など) があると、正しいライセンスセットアップを行っても、ADS 2002 が起動しない場合があります。

ノードロックライセンスの場合は、以上で license.lic ファイルの設定は終了です。
4 - 6 節 「環境変数の設定/確認」に進んでください。

(2) license.lic ファイル作成 (ライセンスサーバが必要な場合)

送られてきたライセンスファイルを所定のディレクトリに置きます。ライセンスファイルはどこに置いて構いませんが、混乱を避けるために通常は “<Installation Directory>%licenses” ディレクトリに “license.lic” という名前で置きます。ADS 2002 がインストールされているディレクトリを “C:%ADS2002” とすると、“C:%ADS2002%licenses%license.lic” となります。

送付されてきた、license.lic ファイルの内容は以下のようになります。

```
SERVER unknown FLEXID=7-36c70f19
VENDOR agileesof

INCREMENT ads_datadisplay agileesof 2.0 20-sep-2003 2 ¥
    VENDOR_STRING=7-36C70F19 HOSTID=FLEXID=7-36c70f19 SIGN="02F8 ¥
    DBCA 211B EE72 D3D3 C778 87CE BA94 0369 D304 6F03 2032 659D ¥
    5BE0 1C70 11E8 2C83 197B A594 3A03 7E6D"
INCREMENT ads_layout agileesof 2.0 20-sep-2003 2 ¥
    VENDOR_STRING=7-36C70F19 HOSTID=FLEXID=7-36c70f19 SIGN="0365 ¥
    C9D3 CFC6 CBED F4A5 B1C7 76E1 0F0D 9A9A EB6F CB02 0AC6 F2EE ¥
    58E9 4ED2 2110 BD8E 3D69 18A7 9151 9659"
(以下省略)
```

次は license.lic ファイルの編集を行います。

(3) SERVER行の編集

ライセンスサーバが必要な場合は、license.licファイルの最初の SERVER から始まる行をご使用になっているコンピュータの設定に合わせて編集する必要があります。SERVER 行の書式および、その設定例を以下に示します。その次に各項目の詳しい説明を示しますので、各パラメータをご使用になっている環境に合わせて設定してください。

<書式> SERVER ホスト名 FLEXID=ホストID [TCPポート番号]
 <例 1 > SERVER edapc01 FLEXID=7-36c70f19 27000
 <例 2 > SERVER edapc02 FLEXID=7-36c70f19

1. ホスト名の入力

ホスト名には、フローティングライセンスの「ライセンスサーバマシンのホスト名」を入力してください。ホスト名がわからない場合は、以下の手順で調べてください。不安であればネットワーク管理者にたずねるのが一番確実です。

以下の作業は、ライセンスサーバマシン上で行います。

■ Windows 2000

1. [スタート] > [設定] > [コントロールパネル] をクリックして開きます。
2. [システム] アイコンをダブルクリックして、[システムのプロパティ] ダイアログボックスを開きます。
3. [ネットワークID] タブを選択すると [フルコンピュータ名] が書かれています。

■ Windows NT 4.0

1. [スタート] > [設定] > [コントロール 板] をクリックして開きます。
2. [ネットワーク] アイコンをダブルクリックして、[ネットワーク] ダイアログボックスを開きます。
3. [識別] タブを選択すると [コンピュータ名] が書かれています。

■ Windows 98

1. [スタート] > [設定] > [コントロール 板] をクリックして開きます。
2. [ネットワーク] アイコンをダブルクリックして、[ネットワーク] ダイアログボックスを開きます。
3. [ユーザ 情報] タブを選択すると [コンピュータ名] が書かれています。

2. host-id の確認

ホスト名の次は “FLEXID=host-id” の書式で host-id が書かれています。PC版の場合はこの値は、ハードウェアキーのIDナンバーのことを指しています。送付されてきたコードワードファイルには、サーバマシンに接続されているハードウェアキーの ID ナンバーが既にかかれているはずですので同じかどうか確認してください。なお、ID ナンバーを忘れてしまった時は 2 - 2 節を参照して ID ナンバーを調べてください。

発行されたライセンスシートに載っている “host-id” と、ハードウェアキーの “host-id” (調べる方法は 4 - 4 節参照) が異なっている場合は、コードワードが間違っ
て発行された可能性があります。お手数ですがコードワード発行受付の方までお問い合わせください(お問合せ先に関しては、9 - 1 節を参考にしてください)。

3. TCPポートアドレス(省略可)

SERVER行の最後で TCPポートアドレスと指定することができます。

何も書かれていない場合はシステムの規定値(27000)が使用されます。

もし別のFLEXIm デーモンが他のアドレスを使用する場合や、その他のプロセスがこのアドレスを使用している場合は、この番号を変更します。もし詳しいことが分からなければ、送付されてきたままの状態でご使用ください。

(4) VENDOR行の編集(ベンダーデーモンの設定)

VENDOR行の書式および、その例を以下に示します。各パラメータの詳しい内容をその次に示してあります。

**<書式> VENDOR ベンダーデーモン名 [<ベンダーデーモンのパスと名前>] ¥
[オプションファイルのパスと名前]**

<例 1 > VENDOR agileesof c:¥ADS2002¥licenses¥vendors¥agileesof ¥
c:¥ADS2002¥licenses¥options¥local.option

<例 2 > VENDOR agileesof

1. ベンダーデーモン名

DAEMON の次のフィールドにはベンダーデーモンの名前が入ります。このフィールドには配布時に “agileesof” と書き込まれているはずで、これは変更できません。

2. ベンダーデーモンパス(省略可)

次のフィールドはベンダーデーモンの実行ファイルのパスとファイル名を示しています。省略されている場合は、ADS 2002 がインストールされているディレクトリの、

<Installation Directory>%licenses%vendors%agileesof が使用されます。

ADS 2002 がインストールされているディレクトリ以外の場所の FLEXIm を利用したい場合は、ここでベンダーデーモンのパスを指定してください。ただし、ADS 2001 以前の弊社製品の FLEXIm には、agileesof は同梱されておりませんのでご注意ください。

注意 弊社製品 IC-CAP 2001 には agileesof が同梱されていますが、ADS 2002 では使用できません。ADS 2002 ライセンスサーバには ADS 2002 に同梱されているものをご使用ください

3. 改行マーク

次の“*”は、DAEMON行が次の行にまだ続くということを表しています。

4. オプションファイルパス(省略可)

次(二行目)はオプションファイルのパスとファイル名を示しています。オプションを付けることによりソフトウェアをどのマシンで誰が使用できるか等の制限を設けたりすることができます。特に使わない場合は消してしまっても問題ありません(ただし、<例 1 >の場合は、この行を消した時に前の行の最後の“*”も消しておいてください)。

(5) SEVER, VENDOR 行以外の行について

INCREMENT 行など、SERVER, VENDOR 以外の行については、ユーザが編集することはできません。これらの行を編集するとライセンスを正しく取得できなくなりますので、ご注意ください。

ADS 2001 以前の弊社製品の FLEXIm ライセンスファイルには、VENDOR 行の代わりに DAEMON 行が用いられています。ライセンスファイルをマージする場合などは、VENDOR 行、DAEMON 行が混在しても問題はありせん。

4 - 6 環境変数の設定/確認

環境変数 “AGILEESOF_LICENSE_FILE” の設定/確認を行います。環境変数 “AGILEESOF_LICENSE_FILE” は、ライセンスの所在を表す文字列型の変数です。ファイルのパスを指定する方法と、ネットワーク上の所在を指定する方法があります。

■ ファイルの設置場所を指定する方法

PC単体でノードロックライセンスを使用する場合はこの方法を使います。

また、ライセンスサーバが起動してそこからライセンスを得る場合でも、使用するクライアントPC上にライセンスファイルがある場合は、この方法が使用できます。

環境変数 “AGILEESOF_LICENSE_FILE” に、license.lic ファイルの場所をフルパスで指定します。ADS 2002 がインストールされているディレクトリが “C:¥ADS2002” の場合は、通常 “C:¥ADS2002¥licenses¥license.lic” になります。

■ ライセンスのネットワーク上の所在を指定する方法

ライセンスサーバからライセンスを取得する場合は、“ポート番号@ホスト名” で指定することもできます。この方法で指定すると、ライセンスファイルをクライアントのPCにコピーする必要がないため、ライセンスファイルがサーバで変更された時に便利です。

例えば、サーバホスト名 “edasvr”、ポート番号 “27000” の場合は、“AGILEESOF_LICENSE_FILE=27000@edasvr” と指定します。

ポート番号に 27000 ~ 27009 を使用している場合は、ポート番号を省略する事ができます。先程の例では、“AGILEESOF_LICENSE_FILE = @edasvr” と指定する事もできます。

注意 以前はライセンスファイルの所在は、環境変数 “LM_LICENSE_FILE” で行っていましたが、ADS 2002 からは “AGILEESOF_LICENSE_FILE” で行います。“LM_LICENSE_FILE” も使用できますが、両方存在する場合は “AGILEESOF_LICENSE_FILE” の方が優先されます。また “AGILEESOF_LICENSE_FILE” 環境変数を設定した場合で “LM_LICENSE_FILE” を使用しない場合は、混乱を避けるため “LM_LICENSE_FILE” 環境変数を削除しておくことをお勧めします。

(1) Windows 98

autoexec.bat ファイルを書き換えて、環境変数 AGILEESOF_LICENSE_FILE を設定します。AGILEESOF_LICENSE_FILE の内容は、license.lic ファイルのパスとファイル名です。例えば、license.lic ファイルを、“C:¥ADS2002¥licenses¥license.lic” に置いてあるとすると、以下の内容を autoexec.bat ファイルに書き加えます。この時、ADS 2002 を起動するために必要になる環境変数 HPEESOF_DIR も設定しておきます。

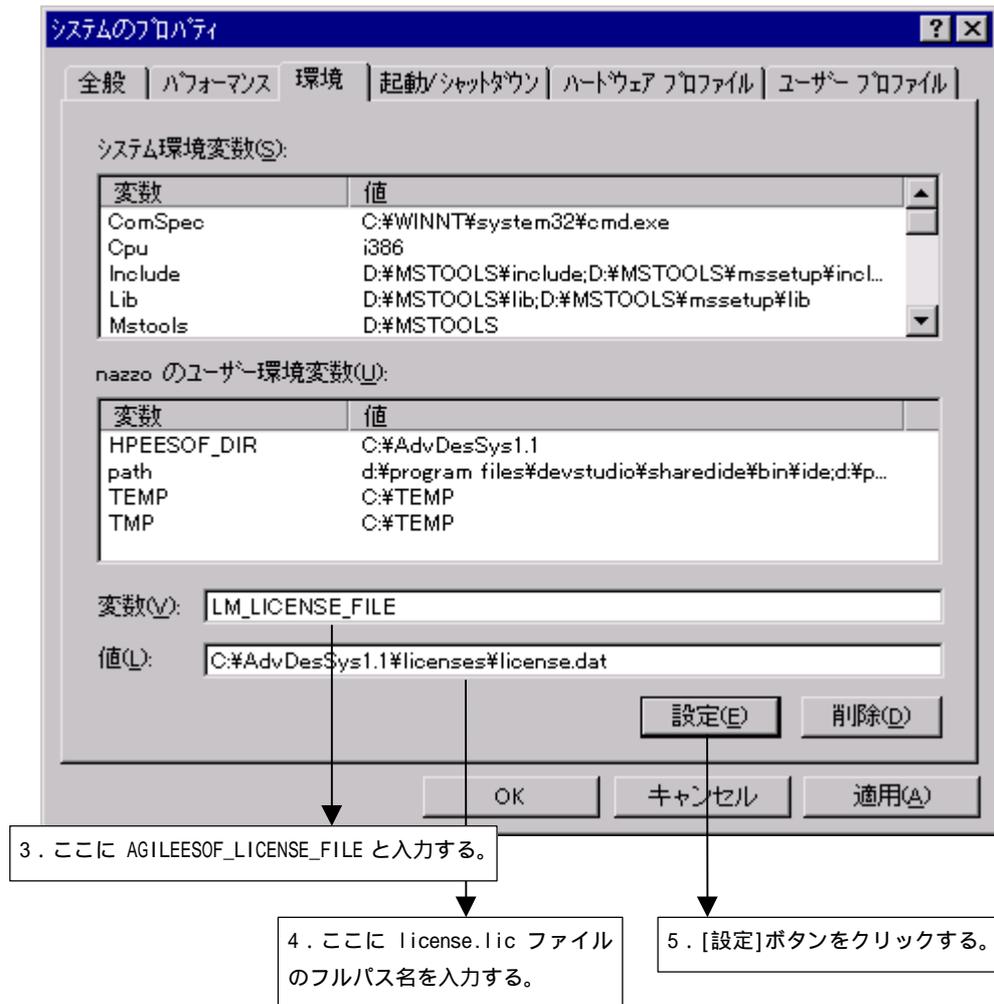
```
set AGILEESOF_LICENSE_FILE=C:¥ADS2002¥licenses¥license.lic
```

具体的方法の一例を以下で説明します。

1. エディタを起動し、autoexec.bat ファイルを開きます。autoexec.bat ファイルは、Windows OS をインストールしたドライブ(例えば、“C:¥autoexec.bat”)にあります。
2. 上記の一行をファイルに書き加えます。
3. ファイルをセーブしてエディタを終了します。
4. Windows OS を再起動します。

(2) Windows NT 4.0

1. [スタート] > [設定] > [コントロール パネル] アイコンを選択します。[コントロール パネル]中の [システム] アイコンをダブルクリックし、[システムのプロパティ] ダイアログボックス(下図)を開きます。
2. [環境] タブをクリックして選択します。
3. [変数] フィールドをクリックして、フィールド内に “AGILEESOF_LICENSE_FILE” と、キーボードから入力します。
4. 次に [値] フィールドをクリックして、フィールドに “license.lic” ファイルのパスとファイル名を入力します。4 - 6 節で行った設定と同じものを入力してください。



5. [設定] ボタンをクリックして、入力した内容を登録し、[OK] で終了します。

(3) Windows 2000

1. [スタート] > [設定] > [コントロール パネル] アイコンを選択します。[コントロール パネル]中の [システム] アイコンをダブルクリックし、[システムのプロパティ] ダイアログボックスを開きます。
2. [詳細] タブをクリックして選択します。
3. **[環境変数]** ボタンをクリックすると下図のように環境変数ダイアログボックスが開きます。
4. システム環境変数フィールドの**[新規]**ボタンをクリックし、変数名に“AGILEESOF_LICENSE_FILE”と、[変数値] 欄に“license.lic” ファイルのパスとファイル名を入力します。
5. **[OK]** ボタンをクリックして設定を完了します。

ネットワークライセンスの場合は、この後、サーバマシンでライセンスデーモン(lmgrd)を起動する必要があります。次の4 - 7節に進んでください。

4 - 7 ライセンスデーモン (lmgrd) とは？

フローティング(ネットワーク)ライセンスの場合と、ノードロックライセンスを供給する必要がある場合は、ここでライセンスデーモン (lmgrd) を起動する必要があります。PC 一台でノードロックライセンスを使用する場合は必要ありませんので、第 5 章に進んでください。

(1) ライセンスデーモンとは？

ライセンスデーモンは、本製品を正当に使用していただくための、ライセンスを管理するソフトウェアのことを指します。ADS 2002 では、FLEXIm というライセンス管理ソフトウェアを使用しています。

フローティング(ネットワーク)ライセンスを利用するためには、ライセンスデーモン (License ManaGeR Daemon = lmgrd) をサーバマシンで起動する必要があります。

参考 デーモンとは常時動作している監視用プログラムのことです。FLEXIm の場合、クライアントからの要求に対して常に備えており、要求があればライセンスを与えてよいかどうかを判断して結果を送り返すプログラムです。

(2) ライセンスサーバを立ち上げる場合において必要なもの

FLEXIm を利用するときは次の条件が必要です。

- TCP/IP, IPX/SPX プロトコルがインストールされていること。
確認方法は、第 8 章 8 - 2 節「TCP/IP, IPX/SPX プロトコルのインストール」に示してありますので、そちらを参照してください。IPX/SPX プロトコルは、ライセンスが LAN アドレスで発行されているときに必要です。
- FLEXIm のソフトウェアがライセンスサーバにインストールされていること。
“<Installation directory>%licenses%bin” ディレクトリの中に、“lmgrd.exe” と “lmutil.exe” というファイルがあることを確認してください。
- license.lic ファイルにライセンスサーバの ハードウェア ID (PC ではハードウェアキーの ID) が含まれていること。
ライセンスデーモンは、license.lic ファイルの SERVER 行に記載されているハードウェアキー ID を持ったコンピュータで起動します。もし、お持ちのコンピュータのハードウェアキー ID と、license.lic ファイルに記載の ID が異なる場合は、コードワード発行元までお問い合わせ下さい。

(3) コードワードファイルの種類

ライセンスの形態によって、コードワードファイルが違ってきます。ここではその見分け方について説明しています。

■ ノードロックライセンス

```
INCREMENT ads_datadisplay agileesof 2.0 20-sep-2003 uncounted ¥
VENDOR_STRING=7-36C70F19 HOSTID=FLEXID=7-36c70f19 SIGN="02F8 ¥
DBC A 211B EE72 D3D3 C778 87CE BA94 0369 D304 6F03 2032 659D ¥
```

②host-id

①ライセンス数

ライセンス数のフィールドが uncounted は無制限を意味しています。PC単体で使用するノードロックライセンスの場合は uncounted になっています。

ここがライセンスの本数を表す数字になっている場合は、PCでもライセンスサーバを起動する必要があります。

無制限の場合は “ uncounted ” の他に、 “ uncount ” , “ 0 ” の場合もあります。host-id のフィールドがあります。

■ フローティングライセンス

```
INCREMENT ads_datadisplay agileesof 2.0 20-sep-2003 1 ¥
VENDOR_STRING=7-36C70F19 SIGN="02F8 DBC A 211B EE72 ¥
D3D3 C778 87CE BA94 0369 D304 6F03 2032 659D ¥
```

①ライセンス数

ライセンス数のフィールドは 1 以上の整数(ライセンスの数)になっています
host-idのフィールドはありません

コードワードファイルはサーバマシン・クライアントマシンの両方で必要となります。最初にサーバマシンでライセンスファイルのセットアップを行ったら、クライアントマシンにも同じライセンスファイルをコピーしてください。(ただし、“ AGILEESOF_LICENSE_FILE = ポート番号@ホスト名 ” 形式で指定する場合は、コピーは必要ありません)

4 - 8 Imgrd の起動および停止の方法

この節ではフローティングライセンス（ネットワークライセンス）を利用するために必要な、Imgrdを手動で起動する方法、および Imgrd を停止する方法について説明します。

(1) Imgrd の手動での起動法

Imgrd デーモンを起動する方法です。

1. コマンドプロンプトを立ち上げて次の命令を実行し、ディレクトリの移動を行います。

<書式> cd <Installation directory>%licenses%bin

< 例 > cd C:%ADS2002%licenses%bin

例は、<Installation Directory> (ADS 2002 がインストールされているディレクトリ) が、“C:%ADS2002” の場合です。

2. 次にライセンスデーモンを起動します。

<書式> Imgrd -app -c <license_file path>

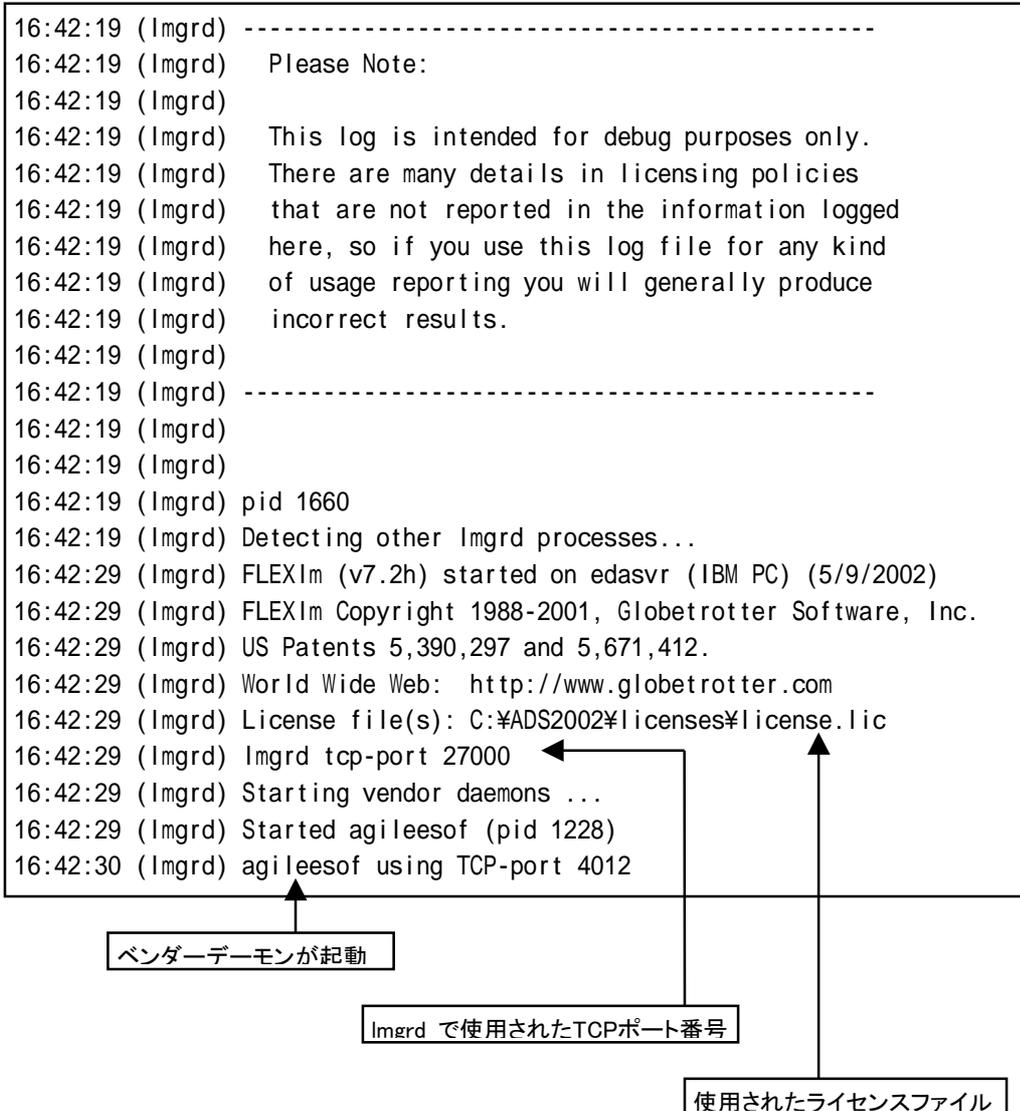
< 例 > Imgrd -app -c C:%ADS2002%licenses%license.lic

と、入力します。ただし、“-c”から後の部分 (<license_file path>) は、license.lic ファイルのある場所の絶対パスを表しています。例は、最も標準的なインストールを行った場合のものであります。

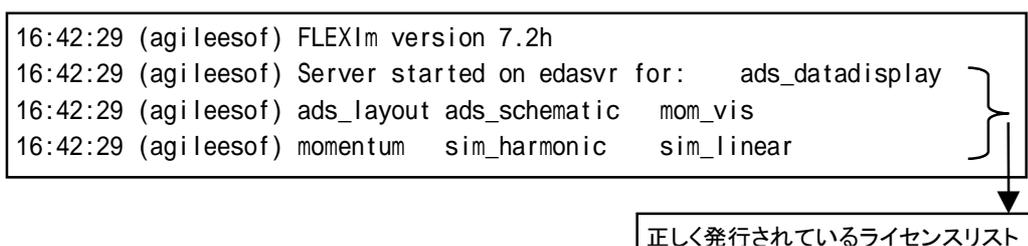
ライセンスファイルは“license.lic”というファイル名である必要はありませんが、混乱を避けるためにこの名前を使用することをお勧めします。

コマンド実行後少しすると、正しくライセンスデーモンが起動した場合は、コマンドプロンプト画面が他に二つ現れます。

一つ目は “Imgrd: FLEXIm license server” ウィンドウで、ここにはライセンスデーモン Imgrd のログが表示されます。



二つ目は “agileesof: FLEXIm vendor daemon” ウィンドウで、ここにはベンダーデーモン agileesof のログが表示されます。



ライセンスデーモンの起動に失敗した時は、他のコマンドプロンプト画面が一瞬現れた後、lmgrd を実行したコマンドプロンプト画面に以下のメッセージが残ります。

```
C:¥ADS2002¥licenses¥bin>lmgrd -app -c C:¥ADS2002¥licenses¥license.lit
16:55:01 (lmgrd) -----
16:55:01 (lmgrd) Please Note:
16:55:01 (lmgrd)
16:55:01 (lmgrd) This log is intended for debug purposes only.
16:55:01 (lmgrd) There are many details in licensing policies
16:55:01 (lmgrd) that are not reported in the information logged
16:55:01 (lmgrd) here, so if you use this log file for any kind
16:55:01 (lmgrd) of usage reporting you will generally produce
16:55:01 (lmgrd) incorrect results.
16:55:01 (lmgrd) -----
16:55:01 (lmgrd)
16:55:01 (lmgrd)
16:55:01 (lmgrd) Running lmgrd in dedicated windows ...
16:55:01 (lmgrd) Use -z to run in foreground in this window
```

この時、一瞬現れてすぐ閉じたウィンドウにエラーメッセージが出ていますので、それを確認するために、-z オプションをつけて、再度 lmgrd コマンドを実行します。

```
C:¥ADS2002¥licenses¥bin>lmgrd -app -c C:¥ADS2002¥licenses¥license.lit -z
16:55:01 (lmgrd) -----
16:55:01 (lmgrd) Please Note:
16:55:01 (lmgrd)
16:59:44 (lmgrd) (中略)
16:59:44 (lmgrd)
16:59:44 (lmgrd) pid 1352
license manager: can't initialize: Cannot find license file ←
The license files (or server network addresses) attempted are
listed below. Use LM_LICENSE_FILE to use a different license file,
or contact your software provider for a license file.
Filename: C:¥flexlm¥license.dat
License path: C:¥flexlm¥license.dat
FLEXlm error: -1,359. System Error: 2 "No such file or directory"
For further information, refer to the FLEXlm End User Manual,
available at "www.globetrotter.com".
16:59:44 (lmgrd) Using license file "C:¥flexlm¥license.dat"
```

ライセンスファイルが見つからないというメッセージ

ライセンスファイルが見つからないというメッセージが出ています。コマンドを確認してみると、license.lic の場所が license.lit と間違えているのがわかります。

(2) Imgrd の停止方法

Imgrd デーモンを止めるための手順を以下に示します。

1. コマンドプロンプトで、次のコマンドを実行し、ディレクトリを移動します。

```
> cd <Installation directory>%licenses%bin
```

<Installation Directory> (ADS 2002 がインストールされているパス)が、“C:%ADS2002” の場合は、“cd C:%ADS2002%licenses%bin”と入力することになります。

2. 次に以下のコマンドを実行してライセンスデーモンを停止します。

```
> Imutil lmdown -c <license_file path>
```

と、入力します。約10秒ほどで、デーモンプロセスは終了します。ただし、“-c” から後の部分 (<license_file path>) は、license.lic ファイルのある場所の絶対パスを表しています。

このコマンドで終了しない時は、起動した時の license.lic ファイルと止める時の license.lic ファイルが違っている可能性があります。license.lic ファイルのパスとファイル名をもう一度ご確認ください。

4 - 9 Imgrd の自動起動 (Windows NT 4.0/2000)

Windows NT/2000 では、コンピュータの起動時に自動的に Imgrd デーモンが起動するように設定できます。この節では Imgrd デーモンを自動起動させる設定の方法と、その設定の解除の方法について説明します。

注意 以前のバージョンの ADS(ベンダーデーモン名が hpeesofd のもの) や、他の FLEXIm 製品のライセンスも同じPCで起動したい時は、ライセンスファイルをマージする方法があります。ライセンスファイルのマージについては、4 - 12節をご覧ください。

マージしないで、同時に二つの Imgrd を自動起動したい時は、8 - 3節をご覧ください。

なお Windows 98 では Imgrd デーモンを自動起動させることはできませんので、4 - 8節の通りに手動で起動してください。

注意 この操作は、Administrator 等のサービスを変更できる権限のあるユーザでログインして行ってください。

(1) ライセンスデーモンの自動起動

ここでは、ライセンスデーモンの自動起動の設定方法について説明します。ただし、ライセンスデーモンの自動起動は、Windows NT/2000 のみのサポートとなります。

Imgrd をサービスとして登録します。登録手順を以下で説明します。

1. コマンドプロンプトで次のコマンドを実行しディレクトリの移動を行います。

```
> cd <Installation directory>%licenses%bin
```

ただし、<Installation Directory> は、ADS 2002 がインストールされているディレクトリを指します。標準的なインストールを行った場合は、上記のコマンドは、“cd C:%ADS2002%licenses%bin” と入力することになります。

更に次のコマンドを実行し、サービスのインストールを行います。

```
> install -e <Imgrdのパス> -c <license.licのパス> -l <ログのパス>
```

ただし、<Imgrdのパス> は Imgrd.exe のフルパスを、<license.licのパス> は license.lic ファイルのフルパスを、<ログのパス>は FLEXIm のログファイルのパスを表します。ADS 2002 がインストールされているディレクトリが “C:%ADS2002” の場合は、以下のようになります。

```
C:¥> cd C:¥ADS2002¥licenses¥bin
C:¥ADS2002¥licenses¥bin> install -e C:¥ADS2002¥licenses¥bin¥lmgrd.exe -c
C:¥ADS2002¥licenses¥license.lic -l C:¥ADS2002¥licenses¥flex.log
FLEXlm License Server is successfully installed as one of your Windows NT
Services. Some handy tips:

    * To start FLEXlm License Server, use the Services icon
      from the Control Panel.
    * FLEXlm License Server will be automatically started
      every time your system is booted.
    * FLEXlm service log file is lmgrd.log in your NT system
      directory.
    * To remove FLEXlm License Server, type 'install remove'

*****
The permissions of one of the files that you just installed seems
to have the correct settings.
C:¥ADS2002¥licenses¥bin>
```

サービスインストールの実行例

2. サービスを確認します。

- Windows 2000 の場合
[スタート] > [設定] > [コントロールパネル] で、コントロールパネルを開きます。
[管理ツール] アイコンをダブルクリックして開きます。
[サービス] アイコンをダブルクリックすると、[サービス] ダイアログが現れます。
- Windows NT 4.0 の場合
[スタート] > [設定] > [コントロールパネル] で、コントロールパネルを開きます。
[サービス] アイコンをダブルクリックすると、[サービス] ダイアログが現れます。

- ダイアログボックス中の一覧から [FLEXIm License Manager] を選び、[開始] ボタンをクリックします。

注意 このときもし、エラーメッセージが表示されてサービスが開始されなかった場合は、インストール時の “Imgrd.exe” ファイルのパスが間違っている可能性があります。次の「Imgrd デーモンの自動起動サービスの削除」を参考に、一度サービスを削除した後、“Imgrd.exe” のパスを確認のうえ、再度インストールを行ってください。

■ Windows 2000 の場合

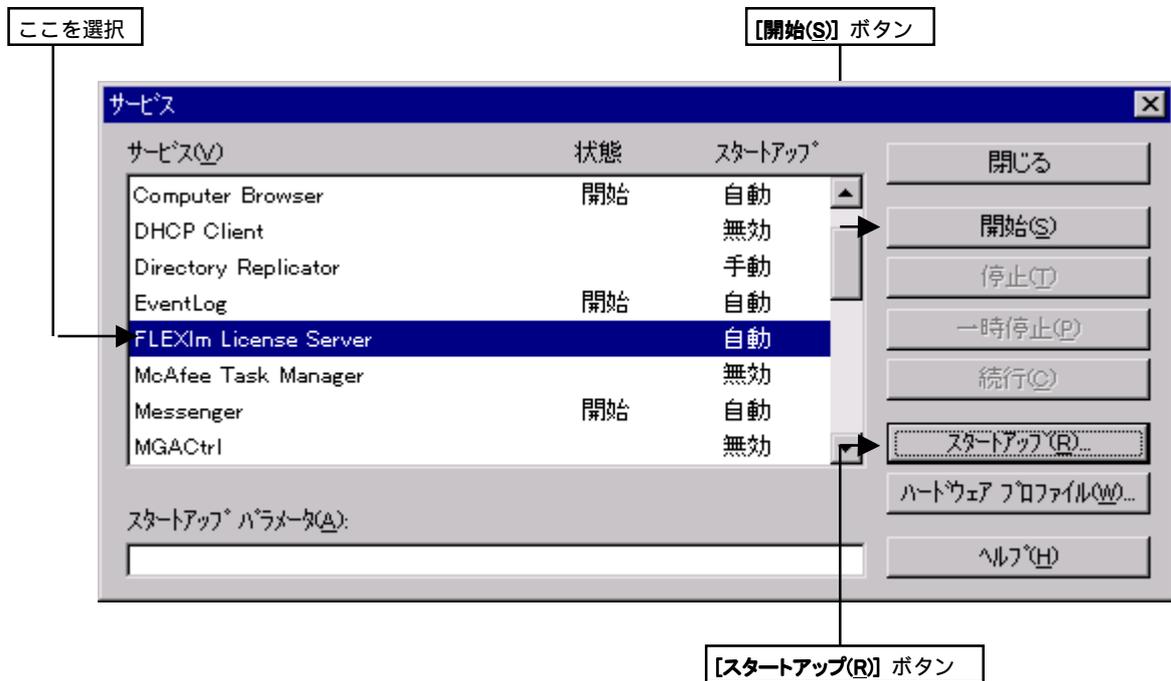
FLEXIm License Manager をダブルクリックします。下記のウィンドウが現れます。



スタートアップの種類が「自動」になっていれば、次回PC起動時から Imgrd が自動起動します。

[OK] をクリックして、サービスウィンドウを閉じます。

■ Windows NT 4.0 の場合



[スタートアップ] ボタンをクリックします。スタートアップの種類の中で自動を選び、**[OK]** をクリックします。これで、次回からはコンピュータを起動すると、自動的にライセンスデーモン (Imgrd) が起動します。

[終了] をクリックして、サービスウインドウを閉じます。

4. ここで一度コンピュータをリブートします。
5. “flex.log” ファイルを確認します。ログファイルは、install コマンドを実行した時に -l オプションで指定したファイルです。

設定が完了すれば、次からはコンピュータが立ち上がると自動的に Imgrd が起動するようになります。もし、この設定を行わない場合は、コンピュータを起動するたびに手動で、Imgrd を起動し直す必要があります。

(2) ライセンスデーモンの自動起動サービスの削除方法

(i) サービスの削除

1. コマンドプロンプトで次のコマンドを入力し、ディレクトリの移動を行います。

```
> cd <Installation Directory>%licenses%bin
```

2. そして次のコマンドで、サービスを削除します。

```
> install -r
```

3. 以上で、次にライセンスサーバマシンを起動した時には自動的に Imgrd は起動しなくなります。同時に次からライセンスサーバマシンで Imgrd を起動しなければ、ライセンスクライアントマシンの方でも ADS 2002 の起動はできなくなりますので、ご注意ください。

(ii) 環境変数の削除

設定した環境変数 “AGILEESOF_LICENSE_FILE” も必要なくなる場合は次の手順で削除します。

1. [スタート] > [設定] > [コントロール ① ②] を選択します。
2. [コントロール ① ②] 中の [システム] アイコンをダブルクリックし [システムの ③ ④] ダイアログボックスを開きます。
3. [環境] タブをクリックして選択します。
4. [システム環境変数] ボックスの中から “AGILEESOF_LICENSE_FILE” を選択します。下の [変数]・[値] の両ウインドウに選択した内容が表示されます。
5. 右側の [削除] ボタンをクリックして、削除します。
6. [終了] ボタンをクリックして終了します。

4 - 10 ライセンスクライアントの設定

ライセンスクライアントでは、lmgrdを起動する必要はありません。

ライセンスクライアントでは、下記の(1)か(2)の設定を行う必要があります。また、この手続きは全てのクライアントマシンで行ってください。環境変数の設定方法は、4 - 6 節で説明した方法と同じです。

(1) license.licファイルをコピーする方法

クライアントマシンでもサーバマシンと同じ内容の license.lic ファイルを読みこむ必要があります。クライアントマシンから license.lic ファイルを読むには以下の二通りの方法があります。

- クライアントマシンのローカルディスクに、サーバマシンの license.lic ファイルをコピーします。
- 二つ目は、サーバマシンの license.lic ファイルの存在するドライブ・ディレクトリを共有し、サーバマシン上のファイルを直接読む方法です。この場合は次に ADS 2002 をクライアントで起動する時も同じドライブに license.lic ファイルのあるドライブ・ディレクトリが共有されている必要があります。

クライアントマシンで、環境変数 “AGILEESOF_LICENSE_FILE” の内容をコピーした license.lic ファイルのパスに合わせて設定します。設定方法は4 - 6 節を参照してください。

(2) ポート番号@ホスト名形式で指定する方法

環境変数 “AGILEESOF_LICENSE_FILE” を “ポート番号@ホスト名” 指定します。

例えば、サーバホスト名 “edasvr”、ポート番号 “27000” の場合は、“AGILEESOF_LICENSE_FILE = 27000@edasvr” と指定します。ポート番号に 27000 ~ 27009 を使用している場合は、ポート番号を省略する事ができます。先程の例では、“AGILEESOF_LICENSE_FILE = @edasvr” と指定する事もできます。

(3) 以上で設定は終わりです。この手続きを全てのクライアントマシンで行ってください。

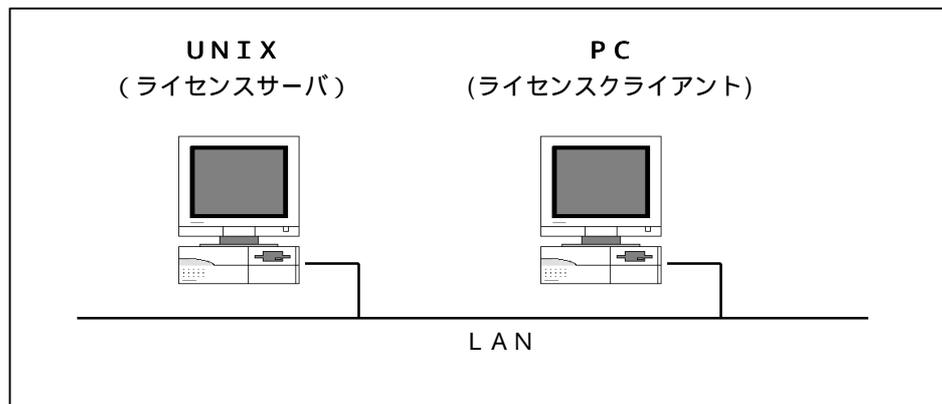
4 - 11 UNIXライセンスサーバの利用

前節までは PC のライセンスサーバの構築について説明してきましたが、PC で ADS 2002 を使用する際、UNIX マシンのライセンスサーバからライセンスの供給を受けることも可能です。UNIX マシンが既にある場合は、この方法を取ることをお勧めします。ただし、既にコードワード発行の申請を行っている場合は、サーバの変更(プラットフォームチェンジ)には別途費用が必要となりますので、ご注意ください。

(1) UNIX ライセンスサーバの設定

UNIX ライセンスサーバを利用する場合は、コードワード取得時に UNIX 用のライセンスファイルを取得する必要があります。

UNIX のライセンスサーバの設定については、UNIX版のインストールマニュアルをご覧ください。



(2) PC 側での設定

4 - 10「ライセンスクライアントの設定」と同様の設定を行う必要があります。以下の二通りの方法を使用することが出来ます。

- UNIX ライセンスサーバから license.lic ファイルを PC にコピーして使う。

UNIX ライセンスサーバの license.lic ファイルを、PC 上にコピーします。ライセンスファイルは、混乱をさけるため <Installation Directory>%licenses に置いておく事をお勧めします。

コピーが終わったら、環境変数 AGILEESOF_LICENSE_FILE に license.lic ファイルのパスを設定します。方法は既に 4 - 6 節で述べていますので、そちらをご参照下さい。

- 環境変数 AGILEESOF_LICENSE_FILE を以下のように設定する。

<書式> set AGILEESOF_LICENSE_FILE=<port>@<hostname>

<例 1 > set AGILEESOF_LICENSE_FILE=27000@edasvr

<例 2 > set AGILEESOF_LICENSE_FILE=@edasvr

この時の <port> は、UNIX ライセンスサーバの license.lic ファイルの SERVER 行の最後に書いたポート番号です。ポート番号が省略されている場合は、通常 27000 が使用されます。

ポート番号に 27000 ~ 27009 が使用されている場合は、例 2 のようにポート番号を省略することができます。

<hostname> は、UNIX ライセンスサーバのホスト名となります。

これらの設定も 4 - 6 節で説明と同じ方法で、Windows 98 の場合は、autoexec.bat に、Windows NT はシステム環境変数として一度設定しておく、次回からは設定は不要になります。

4 - 12 ライセンスを追加する方法

この節では、既に使用しているライセンスファイルに、ライセンスを追加する方法を説明します。ただし、ライセンスの追加は、二つの license.lic(または license.dat) ファイルの全ての SERVER 行が完全に一致している必要があります。この方法は、ライセンスを追加購入したときや、既に動作しているサーバで別のコンピュータのライセンスも供給する場合等にも用います。

ライセンスを結合する場合、新しいコードワードをライセンスファイルに加える作業が必要となります。そして、ライセンスサーバが起動している場合は、ライセンスデーモン (Imgrd) にライセンスファイルを再読み込みさせます。

ノードロックライセンスで、PC 一台のみで使用している場合 (Imgrd を起動していない場合) は、ライセンスファイルへのコードワードの追加のみ行えば、新しいライセンスを使用することができるようになります。

次ページから具体的作業について説明します。

- (1) 既存のライセンスファイルに追加ライセンスを加える。

メモ帳等のエディタを用いて、すでに使用しているライセンスファイル（例：
C:\%ADS2002%\licenses\license.dat）に購入したライセンスの INCREMENT 行を加えます。

ノードロックライセンスの場合は、(1)の作業が終われば、設定作業は終了です。

ベンダーデーモンが複数種ある場合は、VENDOR 行（または DAEMON 行）も加えます。

ファイル・1

```
SERVER edasvr FLEXID=7-36c70f19 1700
DAEMON hpeesofd /eesof/licenses/vendors/vendors/hpeesofd ¥
/eesof/licenses/options/local.options

INCREMENT analog_lib hpeesofd 7.000 10-Feb-2003 1 FC708E7192CBE931172E ¥
"s=36C70F19"
```

ファイル・2

```
SERVER edasvr FLEXID=7-36c70f19
VENDOR agileesof

INCREMENT ads_datadisplay agileesof 2.0 20-sep-2003 2 ¥
  VENDOR_STRING=7-36C70F19 HOSTID=FLEXID=7-36c70f19 SIGN="02F8 ¥
  DBCA 211B EE72 D3D3 C778 87CE BA94 0369 D304 6F03 2032 659D ¥
  5BE0 1C70 11E8 2C83 197B A594 3A03 7E6D"
```

結合後のファイル

```
SERVER edasvr FLEXID=7-36c70f19
DAEMON hpeesofd /ads2001/licenses/vendors/hpeesofd ¥
/ads2001/licenses/options/local.options
VENDOR agileesof

INCREMENT analog_lib hpeesofd 7.000 10-Feb-2003 1 FC708E7192CBE931172E ¥
"s=36C70F19"
INCREMENT ads_datadisplay agileesof 2.0 20-sep-2003 2 ¥
  VENDOR_STRING=7-36C70F19 HOSTID=FLEXID=7-36c70f19 SIGN="02F8 ¥
  DBCA 211B EE72 D3D3 C778 87CE BA94 0369 D304 6F03 2032 659D ¥
  5BE0 1C70 11E8 2C83 197B A594 3A03 7E6D"
```

(2) ライセンスファイルの再読み込み (ライセンスデーモンが起動している場合)

ライセンスサーバが起動している場合は、ライセンスサーバでライセンスデーモン(lmgrd)に新しいライセンスを読み込ませなければなりません。いったんライセンスデーモン(lmgrd)を停止させた後にライセンスデーモンを再起動する方法と、ライセンスデーモンを停止させずにライセンスを再読み込みさせる方法があります。

- ライセンスデーモンを停止させ、再起動させる
4 - 8 節(2)の手順にしたがって、ライセンスデーモン(lmgrd)を停止させ、再起動してください。
- ライセンスデーモンを停止させずにライセンスを再読み込みさせる
この方法は、“license.lic”ファイルのパスとファイル名が更新前・更新後で変更が無い場合のみ可能です。パス名・ファイル名が変わってしまった場合は一度ライセンスデーモンを停止した後、再度ライセンスデーモンを起動してください。

前ページ(1)の手続きをライセンスサーバ行って、license.lic ファイルを新しくします。また、クライアントマシンの license.lic ファイルも、新しい license.lic ファイルに置き換えます。

1. サーバマシンでMS-DOSプロンプトを立ち上げ、

<書式> lmutil lmreread -c <Installation Directory>%licenses%license.lic

<例> lmutil lmreread -c C:%ADS2002%licenses%license.lic

を実行し、サーバマシン上のライセンスデーモン(lmgrd)に license.lic ファイルを再読み込みさせます。

2. 次のコマンドを用いると現在使用できるライセンスの一覧が表示されます。ライセンスサーバが新しいライセンス情報を読み込んだか確認します。

<書式> lmutil lmstat -a -c <Installation Directory>%licenses%license.lic

<例> lmutil lmstat -a -c C:%ADS%licenses%license.lic

もし正常に動作しなければ、4 - 8 節(2)を参考にライセンスデーモン(lmgrd)を一度止め、4 - 8 節(1)の手順に従ってもう一度ライセンスデーモン(lmgrd)を起動し直してください。

第5章 プリンタの設定

ADS 2002 でプリンタを使う場合、あらかじめ Windows OS 上でプリンタの設定が終了している必要があります。そして、Windows 側で設定が終わってさえいれば、HP Advanced Design System 側ではどのプリンタを使うかを指定するだけでプリントアウトを行うことができます。

以下で、Windows でのプリンタの設定方法について簡単に解説します。詳しいことはマイクロソフト社 Windows のマニュアルや、オンラインヘルプを参考にしてください。

注意 プリンタの登録/使用方法は、マイクロソフト社、またはご使用になっているコンピュータ/プリンタのメーカーにお問い合わせください。

5 - 1 プリンタの設定

(1) Windows NT 2000

1. [スタート] > [設定] > [プリンタ]を選択します。
2. [プリンタ] フォルダ中の [プリンタの追加] をダブルクリックします。
3. [プリンタの追加ウィザード] が現れます、プリンタの種類を指定します。プリンタがローカルプリンタか、ネットワークプリンタかで手続きが異なります。
 - ローカルプリンタを使用する場合
 - 1) [ローカルプリンタ] を選択して、次に進みます。
 - 2) 使用するプリンタのポートを聞いてきますので、該当するポートを選択し、[次へ >]をクリックします。
 - 3) プリンタの製造元を選び、その後プリンタ名を選択します。プリンタに付属のディスクを使用する場合は、[ディスク使用] をクリックして画面の指示に従います。
 - ネットワークプリンタを使用する場合
 - 1) ネットワークパスを直接入力するか、またはそのまま [次へ] をクリックして[プリンタの参照] ダイアログボックスで目的のプリンタを探し、選択してから[次へ] をクリックします。
 - 2) プリンタのドライバが必要な場合は、ローカルにドライバをインストールします。プリンタの種類ダイアログが現れるので、製造元を選び、その後プリンタ名を選択します。プリンタに付属のディスクを使用する場合は、[ディスク使用] をクリックして画面の指示に従います。
4. 「通常のプリンタとして使いますか？」のチェックボックスが現れますので、通常使うプリンタにする場合は [はい] をチェックして、[次へ >] をクリックします。
5. テスト印刷をするかどうか決定して、[完了] をクリックします。

(2) Windows NT 4.0

1. [スタート] > [設定] > [プリンタ]を選択します。
2. [プリンタ] フォルダ中の [プリンタの追加] をダブルクリックします。
3. [プリンタのインストール] が現れます、プリンタの種類を指定します。プリンタがローカルプリンタか、ネットワークプリンタかで手続きが異なります。
 - ローカルプリンタを使用する場合
 - 4) [このコンピュータ] を選択して、次に進みます。
 - 5) 使用するプリンタのポートを聞いてきますので、該当するポートを選択し、[次へ >]をクリックします。
 - 6) プリンタの製造元を選び、その後プリンタ名を選択します。プリンタに付属のディスクを使用する場合は、[ディスク使用] をクリックして画面の指示に従います。
 - ネットワークプリンタを使用する場合
 - 3) [ネットワークプリンタ] をチェックします。次へ進みます。
 - 4) ネットワークパスを直接入力するか、または [参照] をクリックして [プリンタの参照] ダイアログボックスで目的のプリンタを探し、選択します。
 - 5) プリンタのドライバが必要な場合は、ローカルにドライバをインストールします。プリンタの種類ダイアログが現れるので、製造元を選び、その後プリンタ名を選択します。プリンタに付属のディスクを使用する場合は、[ディスク使用] をクリックして画面の指示に従います。
4. プリンタの名前を変更する場合は、[プリンタ名] ックスの中を変更します。「通常のプリンタとして使いますか？」のチェックボックスの [はい] をチェックして、[次へ >] をクリックします。
5. テスト印刷をするかどうか決定して、[完了] をクリックします。

(2) Windows 98

1. [スタート] > [設定] > [プリンタ]を選択します。
2. [プリンタ] フォルダ中の [プリンタの追加] をダブルクリックします。
3. [プリンタのインストール] が現れますので、[次へ>] をクリックして進みます。
4. プリンタの種類を指定します。プリンタがローカルプリンタか、ネットワークプリンタかで手続きが異なります。
 - ローカルプリンタを使用する場合
 - 7) [ローカルプリンタ] を選択して、次に進みます。
 - 8) プリンタの製造元を選び、その後プリンタ名を選択します。プリンタに付属のディスクを使用する場合は、[ディスク使用] をクリックして画面の指示に従います。
 - 9) 使用するプリンタのポートを聞いてきますので、該当するポートを選択し、

[次へ >]をクリックします。

■ ネットワークプリンタを使用する場合

- 1) [ネットワークプリンタ] をチェックします。次へ進みます。
 - 2) ネットワークパスを直接入力するか、または [参照] をクリックして[プリンタの参照] ダイアログボックスで目的のプリンタを探し、選択します。
 - 3) プリンタの製造元を選び、その後プリンタ名を選択します。プリンタに付属のディスクを使用する場合は、[ディスク使用] をクリックして画面の指示に従います。
5. プリンタの名前を変更する場合は、[プリンタ名]ボックスの中を変更します。「通常のプリンタとして使いますか？」のチェックボックスの [はい] をチェックして、[次へ >] をクリックします。
6. テスト印刷をするかどうか決定して、[完了] をクリックします。

第 6 章 ネットワークアナライザの設定

6 - 1 サポートしている GPIB(HP-IB) ボード

ADS 2002 では、以下の GPIB(HP-IB) ボードをサポートしています。

Windows NT 4.0/2000

製品名 / ドライバ	Part #
Agilent Technologies LAN/GPIB Gateway Interface / SICL ドライバ	E2050A Opt AG6
Agilent Technologies GPIB PCI カード / SICL ドライバ	82350A
Agilent Technologies GPIB EISA カード / SICL ドライバ	82341C
National Instruments AT-GPIB/TNT card / NI-488.2M ドライバ	776836-01
National Instruments PCMCIA-GPIB card / NI-488.2M ドライバ	777332-02
National Instruments PCI-GPIB/TNT card / NI-488.2M ドライバ	777073-01

Hewlett-Packard 社製の弊社製品と同等の HP-IB 製品も含まれます。

Windows 98

製品名 / ドライバ	Part #
Agilent Technologies LAN/GPIB Gateway Interface / SICL drivers	E2050A Opt AG6
Agilent Technologies GPIB PCI カード / SICL ドライバ	82350A
Agilent Technologies GPIB EISA カード / SICL ドライバ	82341C,82341D
National Instruments AT-GPIB/TNT card / NI-488.2M Drivers	776836-01
National Instruments PCMCIA-GPIB card / NI-488.2M Drivers	777332-02
National Instruments PCI-GPIB card / NI-488.2M Drivers	777073-01

Hewlett-Packard 社製の弊社製品と同等の HP-IB 製品も含まれます。

6 - 2 GPIB(HP-IB) ボードのインストール

ネットワークアナライザを使用するためには、GPIB(HP-IB) の設定をする必要があります。

GPIB(HP-IB) ボードを使用する場合は、ボードを PC に接続した後にそれぞれのドライバのインストールを行ってください。ドライバのインストールについては 8 - 4 節に例を掲載していますので、そちらをご覧ください。

インストールの詳細については、各 GPIB(HP-IB) ボードに付属のインストール手順書を参考にしてください。

- National Instruments 社の GPIB ボードのインストールについては、National Instruments GettingStarted マニュアルを参照してください。
- アジレント・テクノロジー社の GPIB インタフェースをインストールする場合は、Agilent Technologies GPIB Installation Guide を参照してください。

LAN/GPIB(LAN/HP-IB) ゲートウェイを使用する場合は、PC に SICL ドライバ(10 Libraries for Windows)インストールする必要がありますのでご注意ください。 10 Libraries for Windows は、弊社 WEB サイト(<http://www.agilent.com/>) からダウンロードできます。

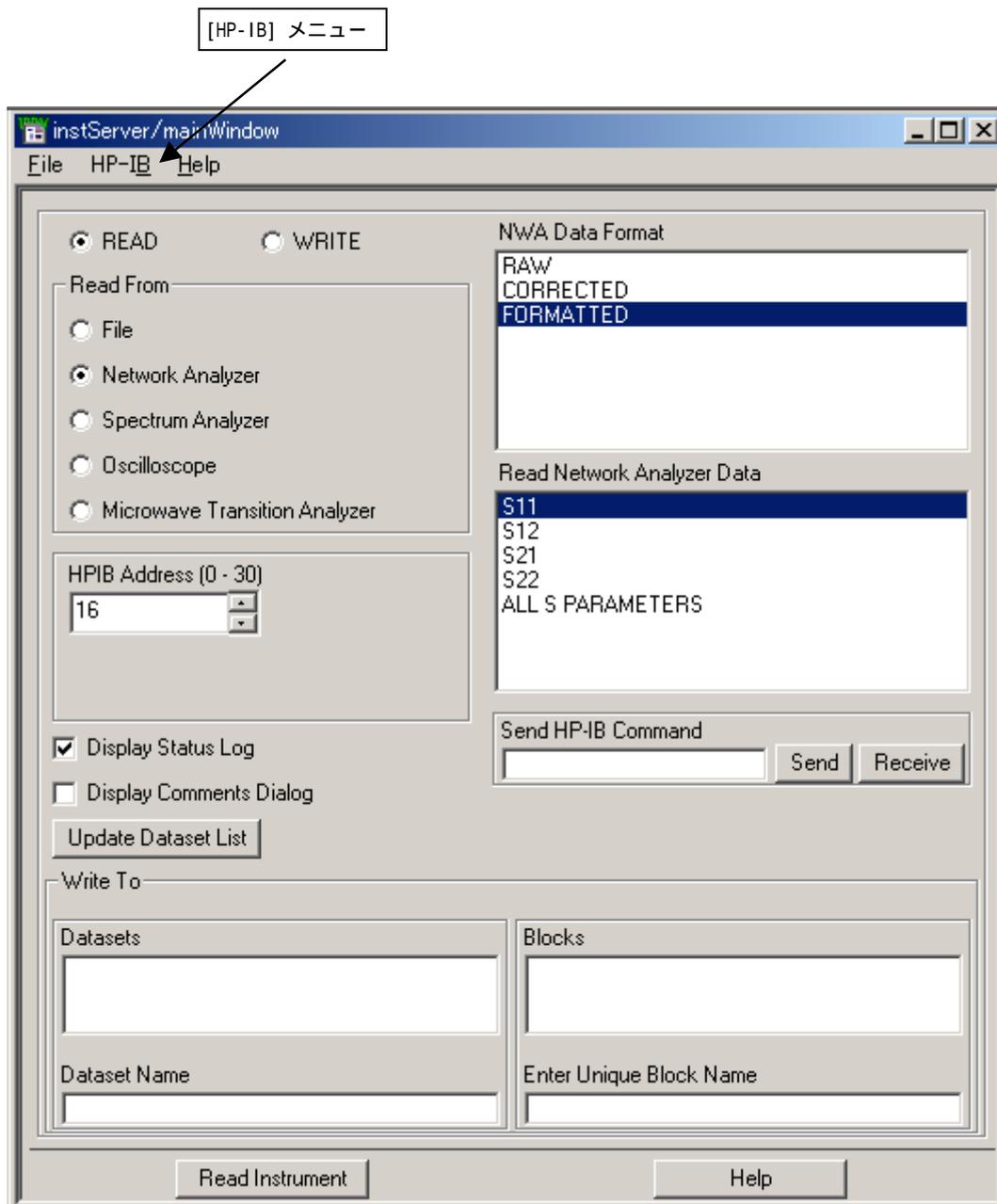
注意 インストール中に、カードの symbolic name の設定があります。この項目は、後で Instrument Server の設定を行うときに使用しますので、忘れないようにしてください。LAN/GPIB ゲートウェイを使用する場合は、lan[(LAN/GPIB GW の IPアドレス)]:hpib という表記になります。(例 : lan[192.168.0.10]:hpib)

6 - 3 測定セットアップ (Instrument Server の設定)

ADS 2002 では Instrument Server を介して、各測定器へのデータの書きこみ・読み込みを行います。

Instrument Server は、Schematic ウィンドウの、[Window] > [File/Instrument Server] メニューから開くことができます。

[InstServer/mainWindow] ウィンドウの [HP-IB] メニューで、Symbolic name と、Timeout の設定をします。LAN/GPIB ゲートウェイを使用する時の Symbolic name は、lan[192.168.0.10]:hpib のようになります。

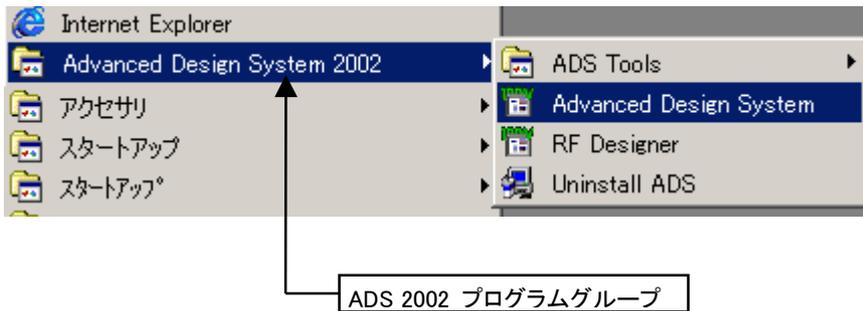


第7章 動作確認

7 - 1 アプリケーションの起動

ADS 2002 を起動します。

[スタート] メニューから、[プログラム] > [Advanced Design System 2002] を選択していくと、ADS 2002 プログラムグループが作成されています。



目的のメニューを選択してマウスをクリックすると、それぞれのプログラムが起動します。

メニュー中の“Advanced Design System”が、通常の ADS 2002 の起動メニューとなります。

メニューの中に“RF Designer”がありますが、これは Designer 製品(Lite版)専用の起動メニューです。Designer を起動する場合は、専用のコードワードが必要ですので、コードワードをお確かめの上、ご使用下さい。Designer 製品の場合は、コードワードに“lite”という文字がついています。(例：Ads Schematic lite 等)

ADS 2002 プログラムグループには以下のショートカット/フォルダが作成されています。

■ ADS Tools

“ Digital Filter Designer ” , “ E-Syn ” , “ License Information Tool ” , “ LineCalc ” , “ Microwave Design System Import ” , “ Ptolemy Modelbuilder Shell ” , “ Series IV Import ” , “ SPICE Model Generator ” 等のショートカットが作成されています。ただし、インストール時にこれらを選択していなかった場合は、作成されていません。

■ ADS Documentation

オンラインマニュアルを開きます。

■ Advanced Design System

ADS 2002 の起動メニューです。通常はこのメニューから ADS 2002 を起動します。シミュレータ等の使い方については、各 User's Guide の方を参照してください。

■ RF Designer

RF Designer の起動メニューです。RF Designer製品(Lite版)を起動する時に使用します。詳しくは、Advanced Design System の User's Guide をお読みください。

■ Uninstall ADS

アンインストーラが起動します。ADS 2002 を削除するときに使用します。

7 - 2 ADS 2002 が起動しない時

ADS 2002 が起動しない時の対処方法を説明します。ADS 2002 が起動しない場合の原因の殆どは、ライセンスのセットアップの誤りです。まず、ライセンスが正しく取得できているかをお確かめ下さい。ライセンスの確認方法を含めた対処方法を以下に挙げます。

(1) 環境変数は正しく設定されているか？

環境変数 “AGILEESOF_LICENSE_FIE” は正しく設定されているでしょうか？ “AGILEESOF_LICENSE_FILE” は、実際に設定された場所に、license.lic ファイルがあるかどうかをもう一度ご確認ください。環境変数は「ユーザーの環境変数」ではなく、「システム環境変数」の欄に設定するようにしてください。環境変数の詳細について 4 - 6 節をご覧ください。

(2) ライセンスファイルは正しく設定されているか？

- (i) “license.lic” ファイル中の SERVER の行は正しいですか？(フローティングライセンスの場合) ホストネーム・host-id(FLEXid) をもう一度ご確認ください。詳しいことは 4 - 5 節(3)を参照してください。
- (ii) “license.lic” ファイル中の VENDOR の行は正しいですか？(フローティングライセンスの場合) サーバマシン上の正しいベンダーデーモンのパスを入力してください。詳細は 4 - 5 節(4)をご覧ください。
- (iii) ライセンスファイルは正しいディレクトリにおかれているでしょうか？ 環境変数 AGILEESOF_LICENSE_FILE の内容と、実際の license.lic ファイルのおかれている場所を確認してください。環境変数については 4 - 6 節を参照してください。
- (iv) 正式なライセンスファイル以外のテキストファイルが置かれていないでしょうか？ 例えば、以前のライセンスファイル(license.dat)などがライセンス設置フォルダにあると、ADS 2002 はそちらも認識し、ライセンス取得に失敗する場合があります。ライセンスフォルダ(C:\%ADS2002%\licenses)には、現在有効なライセンスファイル以外のファイルはバックアップ用も含めて置かないようにお願いいたします。

(3) ハードウェアキーは正しく接続されていますか？

ハードウェアキーの接続 / 確認方法については 4 - 4 節を参照してください。

(4) サーバマシンでライセンスデーモンは動作していますか？(ライセンスサーバでの設定)

PC 一台だけでノードロックライセンスを使用している場合は、ライセンスデーモンを起動する必要はありません。フローティングライセンス及び、ノードロックのライセンスを他のコンピュータから供給している場合は、この項目をお確かめ下さい。デーモンを起動していない場合は 4 - 8 節を参考にデーモンの起動を行ってください。

ライセンスデーモンの動作確認については、9 - 10 節を参照してください。

(5) コンピュータの時間は正確に合っているか？

コンピュータの時刻が正確でないと ADS 2002 が起動しない場合があります。コンピュータの時刻を正しく設定しなおしてください。

[スタート] メニューから、[設定] > [コントロール 板] を開き、[日付と時刻] のアイコンをダブルクリックすると調べることができます。

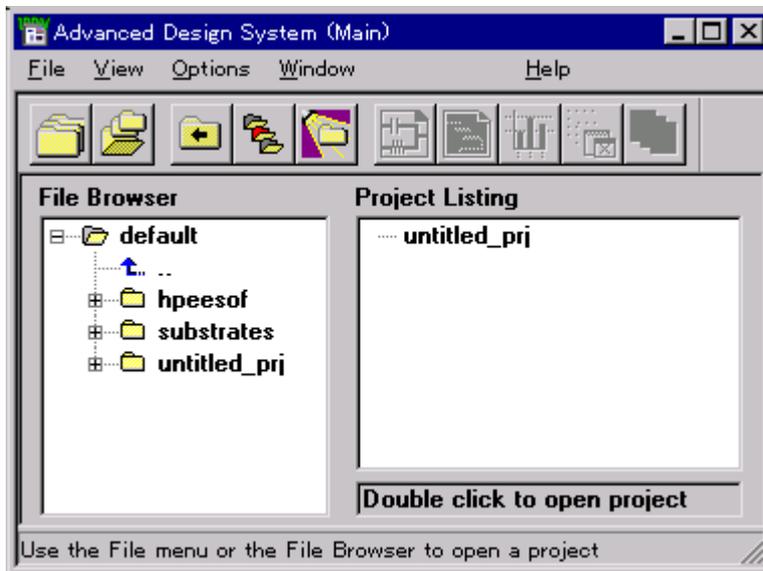
以上の項目を調べても原因が分からない時は、サポートセンターにご連絡を下さい。原因を特定するために、ソフトウェアのバージョン・OS のバージョン・エラーメッセージ等の症状をあらかじめ整理して、正しくお伝え下さい。また、ログファイルの作成をお願いする場合がございますので、8 - 9 節「デバッグモードでの起動」の方も目を通しておいてください。また、ご質問の際は、この手順書の最後に付属している、「サポート依頼 FAX 用紙」をご利用いただくと便利です。

7 - 3 サンプルファイルでの動作確認

次にサンプルファイルを使って、ADS 2002 が正しくインストールされたかを確認します。インストール時にサンプルファイルのインストールを行わなかった場合は、ここでの手順(2)以降は進められません。また、お持ちのライセンスの種類によって、シミュレーションを実行できない場合がありますので、ご注意ください。

(1) ADS 2002 の起動

[スタート] > [プログラム] > [Advanced Design System 2002] > [Advanced Design System] を選択して、アプリケーションを起動します。ADS 2002 のバージョン等が表示されたタイトルウインドウ表示され、左上に Advanced Design System のメインウインドウが現れます。



(2) サンプルプロジェクトの読みこみ

ここでは、すでにインストールされているサンプルファイルを読み込みます。メインウインドウから [File] > [Example Project] を選択すると、サンプルファイルのあるディレクトリから、開きたいプロジェクトを選択することができます。

適当なプロジェクトを選択します。ただし、サンプルプロジェクトで使用されているライセンスが揃っていない場合は、この後のシミュレーションを行うことができませんので、ご注意ください。

(3) プリンタに回路図を出力してみます。Schematic ウインドウ(右上のウインドウ)で [File] > [Print] を選択しプリントの設定をした後、[OK] をクリックすると回路図がプリントされます。

(4) シミュレーションを実行してみます。Schematic ウインドウで、[Simulate] > [Simulate]

を選択すると、シミュレーションが実行されます。ステータスウィンドウが現れ、時間などが表示されます。正しく、シミュレーションが行えるか確認してください。

注意 この時お持ちのライセンスの種類によっては、ライセンスエラーが発生する場合があります。

参考 シミュレーションの実行時にメモリ不足エラーが出た場合は、仮想メモリを増やす必要があります。本ソフトウェアでは仮想メモリは最低 125Mbyte/推奨 256Mbyte以上となっています。仮想メモリの設定についての詳細は 1 - 3 節(3)の方に掲載されています。こちらをご覧ください。

- (5) メインウィンドウで [File] > [Exit Advanced Design System] を選択して ADS 2002 を終了します。

第 8 章 付録

8 - 1 ファイルシステムの共有

[1] はじめに

この節では、Windows によるファイルシステムの共有について、説明します。ファイルシステムの共有とは、あるマシン(ファイルサーバマシン)に搭載されているドライブ上のファイルをネットワークを通じて他のマシンからも利用することができるようにするシステムのことです。

[2] 共有ファイルシステムを開始するには

共有ファイルシステムを使うには、まず接続される側のマシン(ファイルサーバマシン)側での設定を行っておく必要があります。ただし、Windows NTの場合は、administrator等の設定変更のできる権限のあるユーザでログインして作業を行ってください。

1. Windows NT 4.0/98 の場合は、共有サービスを使える状態になっているかを確認します。共有を行えるようにするには、以下の手続きが行われている必要があります。

- Windows NT 4.0

[スタート] > [設定] > [コントロール パネル] > [サービス] で、[サービス] ダイアログボックスを開きます。[サービス] ボックスの中の [Server] サービスを開始します。

- Windows 98

[スタート] > [設定] > [コントロール パネル] > [ネットワーク] で、[ネットワーク] ダイアログボックスを開きます。[ネットワークの設定] タブを選択して、[ファイルとプリンタの共有] ボタンをクリックします。[ファイルを共有できるようにする] チェックボックスをチェックします。

2. 次に、目的のドライブのディレクトリを共有可能にします。

- Windows 2000 / NT 4.0 / Windows 98

- 1) [スタート] > [プログラム] > [アクセサリ] > [エクスプローラ] (Windows NT 4.0 では、[スタート] > [プログラム] > [Windows NT エクスプローラ] , Windows 98 では [エクスプローラ])で、エクスプローラを起動します。
- 2) 共有を行いたいディレクトリを選択し、マウスの右ボタンをクリックして [プロパティ] を選択し、ディレクトリのプロパティを表示します。
- 3) [共有] タブを選択して、[共有する] チェックボックスをチェックします。この時、共有名を覚えておいてください。クライアント側で接続を行う時に必要となります。
- 4) [OK] をクリックして、終了します。

共有が可能になっているディレクトリやドライブは、ファイルマネージャーやエクスプ

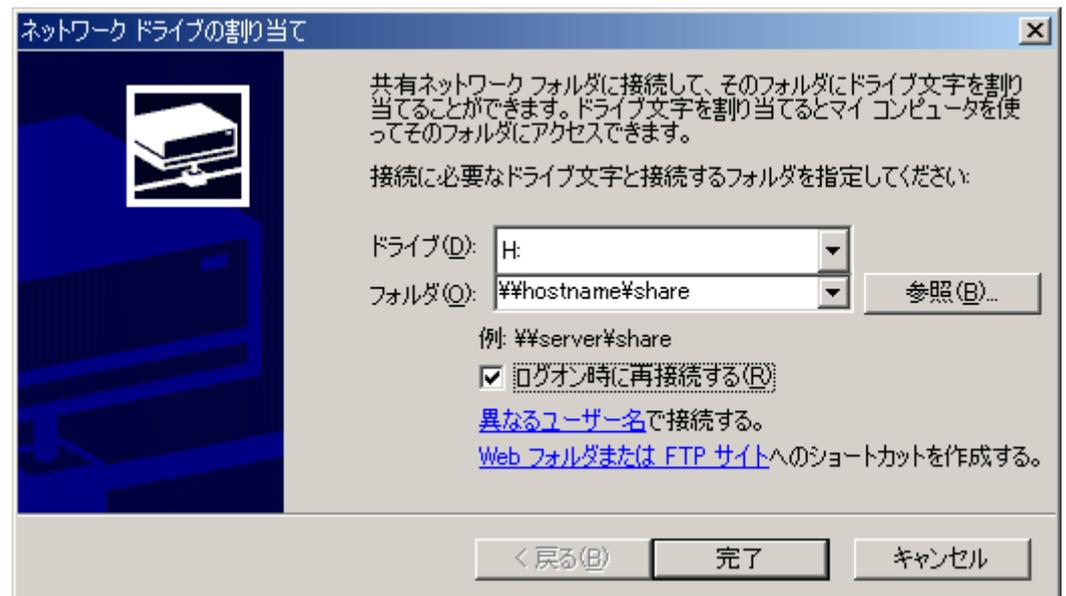
ローラに表示されている名前の横のアイコンに手のマークがついています。

[3] 共有ドライブに接続を行うには

クライアント側の設定は次の様な手順になります。

■ Windows NT 2000

[スタート] メニューの、[プログラム] > [アクセリ] > [エクスプローラ] を選択して、エクスプローラを起動します。[ツール] メニューの [ネットワークドライブの割り当て] を選択します。



- Windows NT 4.0
[スタート] メニューの、[プログラム] > [Windows NT エクスプローラ] を選択して、エクスプローラを起動します。[ツール] メニューの [ネットワークドライブの割り当て] を選択します。
- Windows 98
[スタート] メニューの、[プログラム] > [エクスプローラ] を選択して、エクスプローラを起動します。[ツール] メニューの [ネットワークドライブの割り当て] を選択します。



クライアントマシンで、サーバマシン上の ADS 2002 がインストールされているドライブに接続します。

1. [ドライブ]フィールドでローカルのどのドライブに割り当てるかを選択します。
2. [パス]フィールドに接続したい共有名を入力します。
3. [自動的に再接続]にチェックを入れ、[OK] をクリックします。

共有のパスは “¥¥(ホスト名)¥(共有名)” というフォーマットになっています。(ホスト名)はファイルサーバマシンのホスト名で、(共有名)は、サーバ側で設定した共有名です。例えばサーバのホスト名が “hostname”、共有名が “share” とすると、パスは “¥¥hostname¥share” となります。

8 - 2 TCP/IP, IPX/SPXプロトコルのインストール

[1] はじめに

TCP/IP プロトコルがインストールされていない場合は、ADS 2002 の一部機能が正しく動作しません。TCP/IP プロトコルは必ずインストールしてください。
また、ライセンスを LAN-ID で取得している場合は、IPX/SPX プロトコルがインストールされている必要があります。該当する場合はインストールしてください。

[2] TCP/IP が正しく構成されているか確認する方法

1. コマンドプロンプトを起動します。

■ Windows NT 2000

[スタート] > [プログラム] > [アクセサリ] > [コマンドプロンプト] をクリックします。

■ Windows NT 4.0

[スタート] > [プログラム] > [コマンドプロンプト] をクリックします。

■ Windows 98

[スタート] > [プログラム] > [MS-DOS プロンプト] をクリックします。

2. 次のコマンドを実行して、TCP/IP が正しく動作しているかの確認を行います。

> ping [hostname]

1) 最初に自分自身に ping コマンドをかけてみます。

ここでは、使用しているコンピュータのホスト名を myhost、その IP アドレスを 192.168.0.10 とした時の実行例で示していますので、実際にはご使用になられているコンピュータ固有の値が出力されます。

```
C:¥> ping myhost

Pinging myhost.jpn.hp.com [192.168.0.10] with 32 bytes of data:
Reply from 192.168.0.10: bytes=32 time<10ms TTL=32
Reply from 192.168.0.10: bytes=32 time=1ms TTL=32
Reply from 192.168.0.10: bytes=32 time=1ms TTL=32
Reply from 192.168.0.10: bytes=32 time=1ms TTL=32
```

ping コマンドの実行例 (1)

- 2) 次に、別のコンピュータのホスト名を入力して確認します。

ここでは、別のコンピュータのホスト名に `anotherhost` を使っています。実際には、存在するホスト名で試してください。

```
C:¥> ping anotherhost

Pinging anotherhost.jpn.hp.com [192.168.0.11] with 32 bytes of data:
Reply from 192.168.0.11: bytes=32 time=1ms TTL=255
```

ping コマンドの実行例 (2)

TCP/IPが正しく動作していれば、上記の実行例の様に

Reply from

という表示が返ってきます。何も表示が返ってこなかったり、違う表示が現れた場合は、LANケーブルがきちんとつながっているか、TCP/IPの構成が正しく行われているかをご確認ください。

なお、使用しているコンピュータのホスト名がわからない時は以下の手順で調べてください。

[3] 使用しているコンピュータのホスト名の調べ方

■ Windows 2000

1. [スタート] > [設定] > [コントロールパネル] をクリックして開きます。
2. [システム] アイコンをダブルクリックして、[システムのプロパティ] ダイアログボックスを開きます。
3. [ネットワークID] タブを選択すると [フルコンピュータ名] が書かれています。

■ Windows NT 4.0

1. [スタート] > [設定] > [コントロールパネル] をクリックして開きます。
2. [ネットワーク] アイコンをダブルクリックして、[ネットワーク] ダイアログボックスを開きます。
3. [識別] タブを選択すると [コンピュータ名] が書かれています。

■ Windows 98

1. [スタート] > [設定] > [コントロールパネル] をクリックして開きます。
2. [ネットワーク] アイコンをダブルクリックして、[ネットワーク] ダイアログボックスを開きます。
3. [ユーザ情報] タブを選択すると [コンピュータ名] が書かれています。

[4] TCP/IP(IPX/SPX) プロトコルのインストールと設定

設定を行う前に、ご利用になっているネットワークの管理者に相談して、DHCP および DNS が利用できるかどうか、マシンの IPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ等の情報・パラメータを確かめておいてください。

■ Windows 2000

1. [スタート] > [設定] > [コントロール パネル] をクリックし、その中の [ネットワークとダイヤルアップ] アイコンをダブルクリックします。
2. [ローカル接続] アイコンをダブルクリックします。
3. チェックマークのついたリストボックス内に「インターネット プロトコル(TCP/IP)」があれば、それを選択し、[プロパティ] ボタンをクリックします。
もしも、なかった場合は、[追加] ボタンをクリックし、[ネットワーク プロトコル] フィールドの中から [TCP/IP] プロトコルを選択して、[OK] をクリックします。
4. [インターネット プロトコル(TCP/IP)のプロパティ] ダイアログボックスで、ネットワーク環境に合った設定を行ってください。

■ Windows NT 4.0

5. [スタート] > [設定] > [コントロール パネル] をクリックし、その中の [ネットワーク] アイコンをダブルクリックします。
6. [プロトコル] タブを選択し、[ネットワーク プロトコル] フィールドに [TCP/IP] プロトコルがあれば、それを選択し、[プロパティ] ボタンをクリックします。
もしも、なかった場合は、[追加] ボタンをクリックし、[ネットワーク プロトコル] フィールドの中から [TCP/IP] プロトコルを選択して、[OK] をクリックします。
7. [Microsoft TCP/IPのプロパティ] ダイアログボックスで、ネットワーク環境に合った設定を行ってください。

■ Windows 98

1. [スタート] > [設定] > [コントロール パネル] をクリックし、その中の [ネットワーク] アイコンをダブルクリックします。
2. [ネットワークの設定] タブを選択し、[現在のネットワーク] フィールドに [TCP/IP] があれば、それを選択し [プロパティ] ボタンをクリックします。
もしも、なかった場合は、[追加] ボタンをクリックし、[インストールするネットワーク構成ファイル] フィールドの中から [プロトコル] を選択して、さらに [追加] をクリックします。[製造元] フィールドから [Microsoft] を選択すると、[ネットワーク プロトコル] フィールドに [TCP/IP] があるはずですので、それを選択して [OK] ボタンを押すと、TCP/IP が追加され、[ネットワーク] ダイアログボックスに戻ります。
3. [TCP/IPのプロパティ] ダイアログボックスで、ネットワーク環境に合った設定を行ってください。

以上が終わったら [2]の TCP/IP の構成されているかの確認を行います。

IPX/SPX プロトコルが必要な場合は、上記 TCP/IP と同様の手順で、プロトコルの中から IPX/SPX を選択してインストールしてください。

8 - 3 複数の Imgrd を自動起動する方法

[1] はじめに

Windows NT 4.0/2000 で複数の Imgrd を自動起動する方法を解説します。

これは、ADS 2002 と、それ以前のバージョンの ADS のライセンスサーバを別々に起動するための方法です。ライセンスファイルの一つにまとめて、一つの Imgrd で使用する場合は、4 - 12節の作業のみを行ってください。

参考 Imgrd を別々に起動する場合は、旧バージョンと新バージョンのコードワードファイルを別々に管理できるため、違うバージョンのライセンスサーバに影響を与えないでコードワードの更新作業を行えるなどの利点があります。

[2] 二つ目の Imgrd 自動起動のサービスをインストールします

ここでは、既に x - x x 節の作業手順で、一つ目の ADS 2002 用ライセンスサーバが起動しているものとして説明します。ここでは、二つ目の ADS 2001 以前のライセンスサーバを起動する方法を示します。

1. コマンドプロンプトを起動します。
2. コマンドラインから以下のコマンドを実行します。

<書式> cd <Installation directory>%licenses%bin

<例 1 > cd C:%ADS2001%licenses%bin

<Installation Directory> は、ADS 2001 がインストールされているディレクトリを指します。標準的なインストールを行った場合は、上記のコマンドは、“cd C:%ADS2001%licenses%bin” と入力することになります。

更に次のコマンドを実行し、サービスのインストールを行います。

**<書式> install -n <サービス名> -e <Imgrdのパス> -c <license.datのパス>
-l <ログのパス>**

<例 1 > install -n "FLEXlm for hpeesofd" -e C:%ADS2001%licenses%bin%Imgrd.exe
-c C:%ADS2001%licenses%license.dat -l C:%ADS2001%licenses%flex2.log

<Imgrdのパス> は Imgrd.exe をフルパスで記述します。

<license.datのパス> は license.dat ファイルのフルパス指します。この場合は、ADS 2001 用の、ベンダデーモンが hpeesofd のファイルです。

<ログのパス>は FLEXlm のログファイルのパスを表します。

下記が実際のコマンドを実行したときの実行例です。

```
C:¥> cd C:¥ADS2001¥licenses¥bin
C:¥ADS2002¥licenses¥bin> install -n "FLEXIm for hpeesofd" -e C:¥ADS2001¥licenses¥
bin¥lmgrd.exe -c C:¥ADS2001¥licenses¥license.dat -l C:¥ADS2002¥licenses¥flex2.log
FLEXIm License Server is successfully installed as one of your Windows NT
Services. Some handy tips:

    * To start FLEXIm License Server, use the Services icon
      from the Control Panel.
    * FLEXIm License Server will be automatically started
      every time your system is booted.
    * FLEXIm service log file is lmgrd.log in your NT system
      directory.
    * To remove FLEXIm License Server, type 'install remove'

*****
The permissions of one of the files that you just installed seems
to have the correct settings.
C:¥ADS2002¥licenses¥bin>
```

サービスインストールの実行例

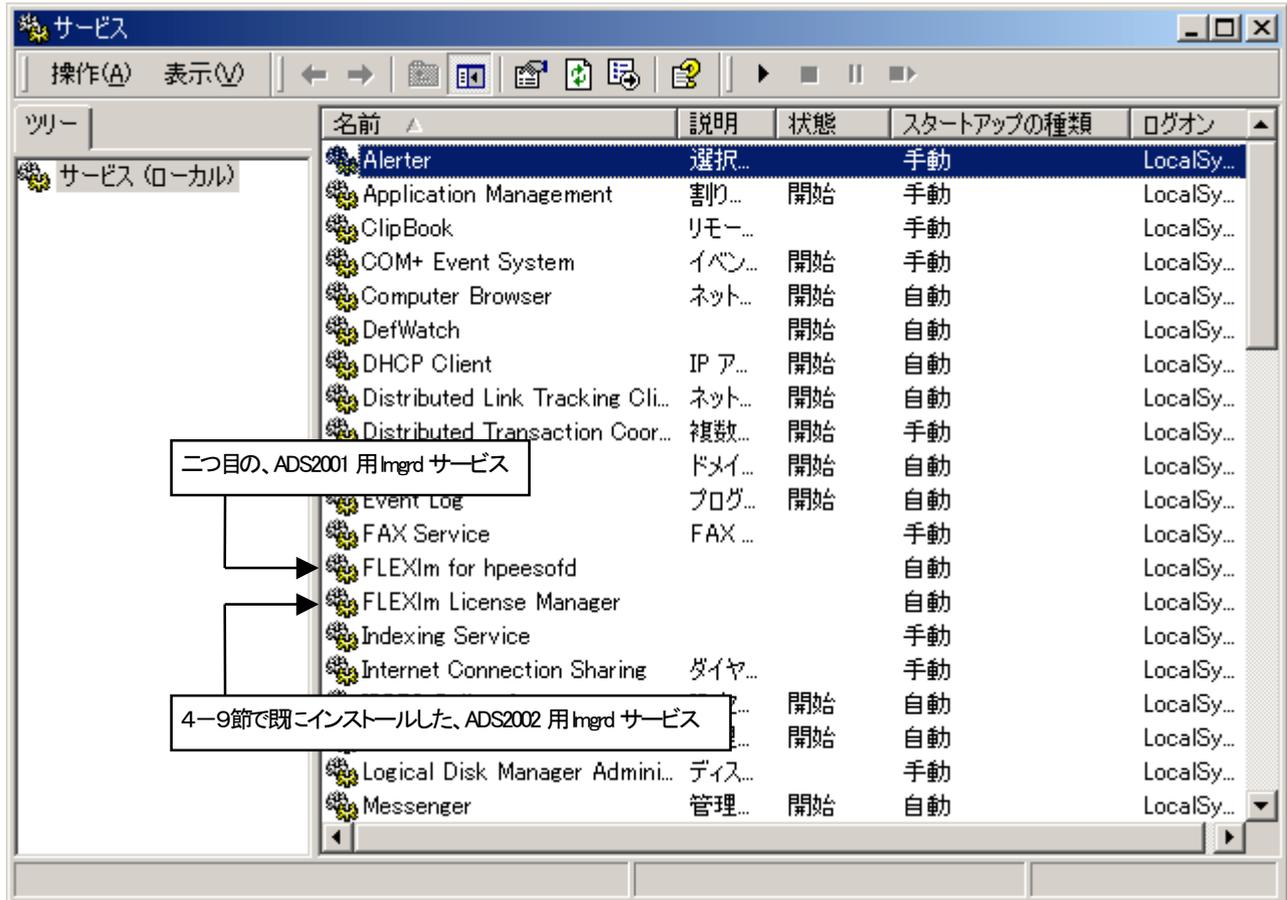
3. サービスを確認します。

■ Windows 2000 の場合

[スタート] > [設定] > [コントロールパネル] で、コントロールパネルを開きます。

[管理ツール] アイコンをダブルクリックして開きます。

[サービス] アイコンをダブルクリックすると、[サービス] ダイアログが現れます。



■ Windows NT 4.0 の場合

[スタート] > [設定] > [コントロールパネル] で、コントロールパネルを開きます。

[サービス] アイコンをダブルクリックすると、[サービス] ダイアログが現れます。

4. サービスの開始と、自動起動の設定

install コマンドを実行した段階ではサービスがインストールされただけでまだ実行はされていません。実行するには、サービスを選択して、**[開始]**ボタンをクリックします。

注意 開始ボタンをクリックした時にもし、エラーメッセージが表示されてサービスが開始されなかった場合は、インストールに失敗している可能性があります。“Imgrd.exe” ファイルやライセンスファイルのパスを今一度ご確認ください。エラーが出た場合は、次の「Imgrd デーモンの自動起動サービスの削除」を参考に、一度サービスを削除した後、“Imgrd.exe” のパスを確認のうえ、再度インストールを行ってください。

■ Windows 2000 の場合

FLEXIm License Manager をダブルクリックします。下記のウィンドウが現れます。[サービスの状態]フィールドに**[開始(S)]** ボタンがありますので、ここをクリックします。

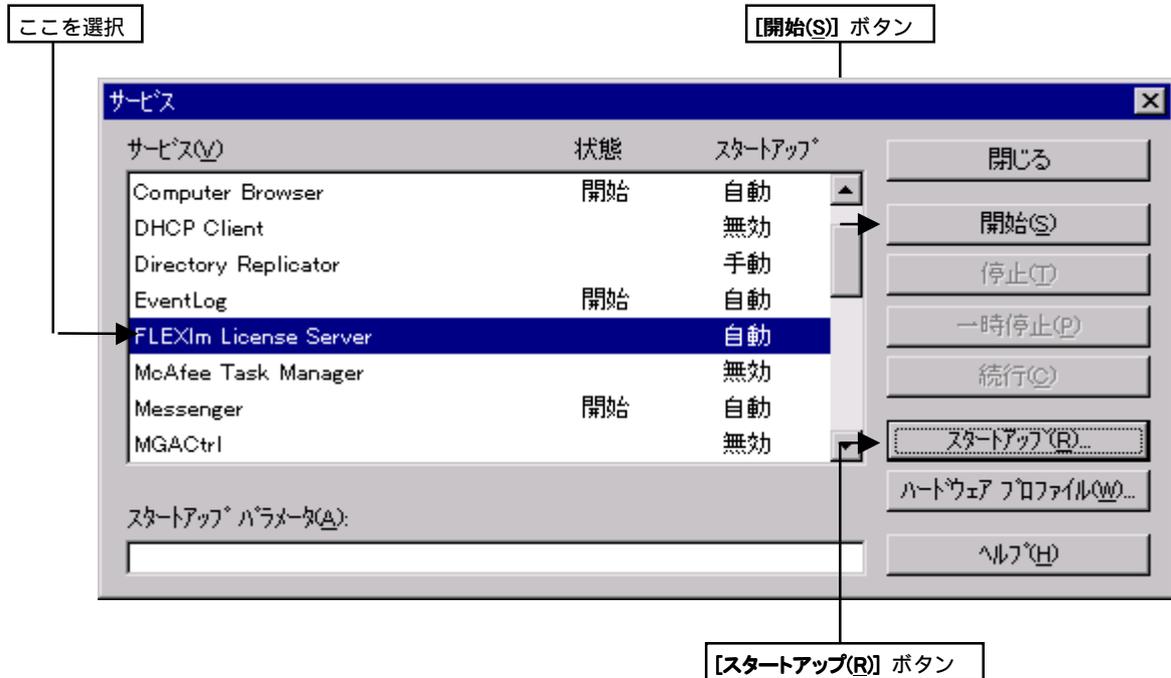


スタートアップの種類が「自動」になっていれば、次回PC起動時から Imgrd が自動起動します。

[OK]をクリックして、サービスウィンドウを閉じます。

■ Windows NT 4.0 の場合

[FLEXIm for hpeesofd](インストール時にサービス名で指定した名前)を選択し、**[開始(S)]** ボタンをクリックします。



[スタートアップ] ボタンをクリックします。スタートアップの種類の中で自動を選び、**[OK]** をクリックします。これで、次回からはコンピュータを起動すると、自動的にライセンスデーモン (Imgrd) が起動します。

[終了] をクリックして、サービスウインドウを閉じます。

5. ここで一度コンピュータをリブートします。
6. ログファイルを確認します。ログファイルは、install コマンドを実行した時に -l オプションで指定したファイルです。

[3] ライセンスデーモンの自動起動サービスの削除方法

1. コマンドプロンプトを起動します。
2. コマンドラインから以下のコマンドを実行します。

<書式> cd <Installation directory>\licenses\bin

<例 1 > cd C:\ADS2001\licenses\bin

3. 以下のコマンドでサービスを削除します
この時、サービス名を忘れずにつけてください。サービス名が指定されていない場合は、
x - x x 節で先にインストールした ADS 2002 用の自動起動サービスが削除されてしま
います。

<書式> install -n <サービス名> -r

<例 1 > install -n "FLEXlm for hpeesofd" -r

4. 以上で、次にライセンスサーバマシンを起動した時には自動的に lmgrd は起動しなくな
ります。同時に次からライセンスサーバマシンで lmgrd を起動しなければ、ライセ
ンスクライアントマシンの方でも ADS 2002 の起動はできなくなりますので、ご注意く
ださい。

8 - 4 GPIB(HP-IB)ボードのインストール

[1] はじめに

PC 用の GPIB(HP-IB)インターフェイスのインストール方法について説明します。

[2] インターフェイスボードのインストール

ボードのマニュアルを参考にして、インターフェイスボードの各パラメータの設定を行います。この時、他のボードと重複しないように I/O アドレス、メモリアドレス、IRQ、DMAを設定してください。設定方法はボードによって異なり、ボード上のスイッチで変更するもの、ソフトウェアで設定するものなどがあります。

設定が終了したら、ボードを PC のスロットに差し込みます。

注意 パラメータの設定方法の詳細については、各ボードのハードウェアマニュアルを参照してください。

[3] HP-IB(GPIB)インターフェイスのドライバのインストール

HP-IB(GPIB)インターフェイス付属のドライバを PC にインストールします。ドライバはボードに付属のマニュアルにしたがってインストールを行います。

例えば、ドライバの入ったフロッピーディスクの 1 枚目の "setup.exe" を実行するようであった場合は、

■ Windows NT 4.0 / Windows 98

1. フロッピーディスクの一枚目をドライブに入れます。
2. [スタート] > [ファイル名を指定して実行] を選択します。
3. フィールド内で次のコマンドを、実行します。
 > a:%setup
4. 起動したセットアッププログラムの指示にしたがってインストールを行います。
5. ドライバは必ず、ご使用になっている OS・ハードウェアに合ったものインストールしてください。

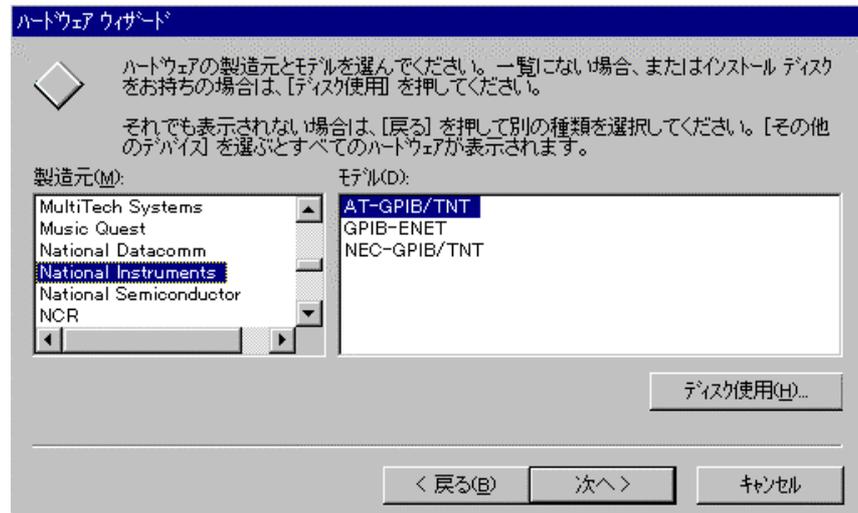
参考 National Instruments 社のホームページが <http://www.natinst.com/> にあります。こちらから AT-GPIB カードの最新のドライバを入手することができますので、ご利用ください。

[4] ハードウェアの設定 (Windows 98 の場合)

Windows 98 ではハードウェアの設定を行う必要があります。

1. [コントロールパネル] を開き、[ハードウェア] アイコンをダブルクリックして、ハードウェアウィザードを起動します。
2. ハードウェアウィザードが起動すると、ハードウェアの自動検出を行うか否か問われます。ここでは自動検出をおこないませんので、[いいえ] を選んで次に進みます。

- 次に [ハードウェアの種類] ボックスの中から [その他のデバイス] を選び、[次へ] をクリックします。
- ここで HP-IB(GP-IB)インターフェイスボードの [製造元] と [モデル] を選びます。次図の例では [National Instruments] の [AT-GPIB/TNT] を選んでいます。



- I/O アドレス、IRQ、DMA が表示されます。インターフェイスボード上で設定した値と同じであるか確認します。値が異なってもここでは変更できないので、次へ進み、ハードウェアウィザードを完了します。

- [5] OS 上での I/O アドレス、IRQ、DMA の設定 (Windows 98の場合)
初期に設定されている I/O アドレス、IRQ、DMA のいずれかが値がほかのボードで使われている場合、別の値に変更する必要があります。

1. [コントロールパネル] を開き [システム] アイコンをダブルクリックします。
2. [システムのプロパティ] ダイアログボックス(下図)が現れますので、[デバイスマネージャ] タブを選択して、その中の HP-IB インターフェースの機種名の項目を選び、[プロパティ] ボタンをクリックします。



3. [インターフェイスボードのプロパティ] ダイアログボックスが現れますので、[リソース] タブを選びます。
4. 変更したい項目を選んでから [設定の変更] をクリックして、I/O アドレス、IRQ、DMA を全てボードの設定と同じものに変更します。

注意 変更後に [競合するデバイス] ボックスに他のデバイス名が表示された場合は、別の値を使う必要があります。この場合は、ボックスの設定値を変えるだけでなく HP-IB(GP-IB) ボードのスイッチも同じ設定になるように忘れずに変更してください。

8 - 5 Advanced Design System プログラムの消去 (アンインストール)

[1] はじめに

この節では、必要のなくなった Advanced Design System をハードディスクから消去するときの手順について説明します。

[2] ライセンスファイルのバックアップ

Advanced Design System を消去する前に、ライセンスファイルのバックアップをとります。ライセンスファイルのバックアップは必ずとってください。バックアップをとる方法、使用するメディアは問いませんが、ここではフロッピーに MS-DOS コマンドを用いて行う方法について説明します。

1. フロッピーをフロッピードライブに入れます。
2. コマンドプロンプトを起動します。
3. ライセンスファイル(license.lic または license.dat)のあるディレクトリへ移動します。
(ここでは、C:¥ADS2001¥licensesにあるとします。)

```
> cd c:¥ADS2001¥licenses
```

4. 次に license.lic ファイルをフロッピーにコピーします。

```
> copy license.lic a:¥
```

5. exit と入力して、コマンドプロンプトを終了します。

[3] アンインストーラの起動

Advanced Design System を消したいときは、セットアップ時に自動的にインストールされている “Uninstall ADS ” メニューで実行します。起動方法は、Advanced Design System のアプリケーションを起動するときと同じように起動します。

[スタート] > [プログラム] > [Advanced Design System 2001] > [Uninstall ADS] をクリックします。(インストールされている ADS のバージョンによって、プログラムグループ名 “Advanced Design System 2001 ” は異なります。)

後は、アンインストーラの指示にしたがって、作業を進めていきます。

アンインストーラは[コントロールパネル]の[アプリケーションの追加と削除]からも行えます。どちらを起動しても同じようにアンインストールが行えます。

上記手順でアンインストーラが起動しなかった場合は、アンインストールしたい ADS のフォルダ毎削除してください。この場合、ライセンスファイルのバックアップを忘れないようお気をつけください。

8 - 6 複数のバージョンの ADS を使用する方法

[1] はじめに

この節では、複数のバージョンの ADS (例えば、ADS2001 と ADS 2002) を起動する方法について解説します。

[2] 複数のバージョンの ADS を使用するには？

複数のバージョンの ADS を使用する場合は、インストール時のホームディレクトリを設定を異なったパスに設定する必要があります。これはそれぞれのバージョンの ADS が使用する設定ファイルなどが、同じディレクトリで共有されることによる不具合を防ぐためです。

例えば、ADS 2001 と ADS 2002 を同じ PC で使用したい場合を考えます。ADS 2001 が既にインストールされており、ホームディレクトリが “C:\users\%edats%\ads2001” に設定されているとすると、ADS 2001 はこのディレクトリの下にプロジェクトファイルなどを保存します。よって、同じ PC に ADS 2002 をインストールしたい場合は、ADS 2002 のホームディレクトリを、ADS 2001 用のディレクトリと異なるディレクトリ (例えば “C:\users\%edats%\ads2002”) に設定します。

この場合は、ADS 2001 と ADS 2002 をどちらも正しく使用することができます。

[3] ホームディレクトリを設定を変更するには？

ホームディレクトリを設定を ADS のバージョン毎に設定しなおすには、レジストリを変更する方法と、各 ADS 毎の起動用のバッチファイルを記述する方法があります。

以下にその方法を説明します。

■ レジストリを変更する方法

まず、古いバージョンの ADS のホームディレクトリを設定します。ここでは、ADS 2001 の場合で説明します。(ADS 2001 は、ADS Version.1.7 にあたります)

1. [スタート] > [ファイル名を指定して実行] を選択します。
2. [名前] 欄に、“regedit” と入力し、[OK] ボタンをクリックします。
3. レジストリエディタが起動しますので、HKEY_LOCAL_MACHINE > SOFTWARE > Agilent > ADS > 1.7 > eeenv を選択します。
4. HOME という名前のキーがありますので、これをホームディレクトリ (例えば、“C:\users\%edats%\ads2001”) に変更します。
5. レジストリエディタを終了します。

次に、新しいバージョンの設定を同様に行います。ここでは、ADS 2002 の場合で説明します。(ADS 2002 は、ADS Version.1.9 にあたります)

1. [スタート] > [ファイル名を指定して実行] を選択します。
2. [名前] 欄に、“regedit” と入力し、[OK] ボタンをクリックします。
3. レジストリエディタが起動しますので、HKEY_LOCAL_MACHINE > SOFTWARE > Agilent > ADS > 1.9 > eeenv を選択します。

4. HOME という名前のキーがありますので、これをホームディレクトリ(例えば、 “C:\users\edats\ads2001 ”)に変更します。
5. レジストリエディタを終了します。
6. ホームディレクトリを変更したら、起動時にそのフォルダが開かれるように、ADS 起動用ショートカットの作業フォルダを変更します。この作業は 8 - 7 節を参考にしてください。

■ バッチファイルを作成する方法

バッチファイルで環境変数 “ HOME ” の値を切り替えることによって、複数のバージョンの ADS を使用することができます。ここでは、そのバッチファイルのサンプルを掲載します。

1. ADS 2001 起動用バッチファイル

```

REM *****
REM * ADS 2001 Startscript
set HOME=C:\users\edats\ads2001
set LM_LICENSE_FILE=27000@edasvr
set HPEESOF_DIR=C:\ADS2001
set COMPL_DIR=%HPEESOF_DIR%
set DOCS_DIR=%HPEESOF_DIR%
set TCL_LIBRARY=%HPEESOF_DIR%\hptolemy\tools\tcltk\lib\tcl8.0
set TK_LIBRARY=%HPEESOF_DIR%\tools\tcltk\lib\tk8.0
set
WBMLANGPATH=. \;%HOME%\custom\bitmaps\;%HPEESOF_DIR%\custom\bitmaps\;%HOME%\hpeesof\esy
n\bitmaps\;%HOME%\hpeesof\lapi\bitmaps\;%HOME%\hpeesof\dfilter\bitmaps\;%HOME%\hpeesof\dsynthe
sis\bitmaps\;%HOME%\hpeesof\circuit\bitmaps\;%HOME%\hpeesof\hptolemy\bitmaps\;%HOME%\hpeesof
\de\bitmaps\;%HPEESOF_DIR%\lapi\bitmaps\;%HPEESOF_DIR%\esyn\bitmaps\;%HPEESOF_DIR%\dfilter
\bitmaps\;%HPEESOF_DIR%\dsynthesis\bitmaps\;%HPEESOF_DIR%\circuit\bitmaps\;%HPEESOF_DIR%\
hptolemy\bitmaps\;%HPEESOF_DIR%\de\bitmaps\
cd %HOME%
%HPEESOF_DIR%\bin\h pads
REM * end script
REM *****

```

2. ADS 2002 起動用バッチファイル

```

REM *****
REM * ADS 2002 Startscript
set HOME=C:\users\edats\ads2002
set AGILEESOF_LICENSE_FILE=27000@edasvr
set HPEESOF_DIR=C:\ADS2002
set COMPL_DIR=%HPEESOF_DIR%
set DOCS_DIR=%HPEESOF_DIR%
set TCL_LIBRARY=%HPEESOF_DIR%\hptolemy\tools\tcltk\lib\tcl8.0
set TK_LIBRARY=%HPEESOF_DIR%\tools\tcltk\lib\tk8.0
set
WBMLANGPATH=.%HPEESOF_DIR%\custom\bitmaps;%HPEESOF_DIR%\custom\bitmaps;%HPEESOF_DIR%\hpesof\esy
n\bitmaps;%HPEESOF_DIR%\lapi\bitmaps;%HPEESOF_DIR%\hpesof\dfilter\bitmaps;%HPEESOF_DIR%\hpesof\dsynthe
sis\bitmaps;%HPEESOF_DIR%\circuit\bitmaps;%HPEESOF_DIR%\hptolemy\bitmaps;%HPEESOF_DIR%\hpesof
\de\bitmaps;%HPEESOF_DIR%\lapi\bitmaps;%HPEESOF_DIR%\esy\bitmaps;%HPEESOF_DIR%\dfilter
\bitmaps;%HPEESOF_DIR%\dsynthesis\bitmaps;%HPEESOF_DIR%\circuit\bitmaps;%HPEESOF_DIR%\
hptolemy\bitmaps;%HPEESOF_DIR%\de\bitmaps
cd %HOME%
%HPEESOF_DIR%\bin\hpads
REM * end script
REM *****

```

3. 起動用ショートカットの作成

作成したバッチファイルの起動用のショートカットを作成します。

デスクトップ上で、マウスの右クリックをし、[新規作成] > [ショートカット] を選択し
ます。ショートカット作成のウィンドウが現れますので、先程作成したバッチフ
ァイルを指定します。

ショートカットを分かりやすい名前に変更ます。(例えば、ADS 2001 など)

以上の作業を、作成したバッチファイルの分繰り返します。

8 - 7 節「起動時の作業フォルダの設定を変更する方法」を参考に、作成したシ
ョートカット全ての、起動時の作業フォルダをホームディレクトリにあわせて変
更します。

8 - 7 起動時の作業フォルダの設定を変更する方法

[1] はじめに

この節では、ADS 起動時の作業フォルダを変更する方法を説明します。

[2] ADS 起動時の作業フォルダの変更

ADS 起動時の作業フォルダとは、ADS を起動したときに “File Browser” に表示されているフォルダを指します。ここは通常、ADS をインストールした時にホームディレクトリとして指定したフォルダが設定されています。

このフォルダを変更するには、ADS 起動用のショートカットの “作業フォルダ” を変更します。インストール後、ホームディレクトリの設定を変更しても、作業フォルダは変更されません。

1. 起動用ショートカットのプロパティを開く

デスクトップアイコンから起動する場合は、ADS 起動用デスクトップアイコンのプロパティを開きます。デスクトップの ADS 起動用のアイコン上で、マウスボタンを右クリックし、プロパティを選ぶと開くことができます。

Advanced Design System プログラムグループから起動する場合は、まずタスクバー上でマウスボタンを右クリックし、プロパティを選択します。詳細タブを選択すると、詳細ボタンがありますので、これをクリックします。エクスプローラのスタートメニューのフォルダが開きますので、ここから [プログラム] > [Advanced Design System] プログラムグループを開き、Advanced Design System 起動用ショートカット上で、マウスの右ボタンをクリックし、プロパティを選択します。

2. 作業フォルダを変更します

ショートカットのプロパティウインドウに、[作業フォルダ] フィールドがありますので、ここを目的のフォルダ名に変更し、[OK] ボタンをクリックします。

これで、次回起動時より、ADS の “File Browser” に、先程設定したフォルダが展開されて開くようになります。

8 - 8 プロセスの停止

[1] はじめに

ここでは、ADS 2002 の実行中に、何らかの問題が発生して、プロセスを終了させたい時の注意点を述べます。

[2] プロセスの種類

次の3つのプロセスは、「プロセスの終了」を行っても、安全にプログラムを終了させることができます。

hpeesofde.exe	ADS 2002 プログラムを終了させることができます。
hpeesofdds.exe	Data Display Server を停止します。
hpeesofdss.exe	Dataset Server を停止します。

次にあげるプロセスは、「プロセスの終了」は極力行わないで下さい。データ破損等の問題を発生させる場合があります。

hpeesofsess.exe
 hpeesofsim.exe
 heesofbrowser.exe
 hpeesofemx.exe

[3] プロセス終了方法

1. キーボードの [Ctrl]-[Alt] の二つのキーを同時に押しながら、[Delete] ボタンを押すと、[Windows NT のセキュリティ] ウィンドウが現れます。[タスク マネージャ] ボタンを押して、タスクマネージャを開きます。
2. [プロセス] タブを選択して、プロセス一覧を表示します。
3. 目的のプロセスを選択して、マウスの右ボタンをクリックします。現れたメニューの中から、[プロセスの終了] を選択します。
4. 確認の画面が現れますので、[はい] を選択するとプロセスは終了させられます。

8 - 9 デバッグモードでの起動方法

[1] はじめに

Advanced Design System プログラムの詳細なログファイルの作成方法を説明します。ログファイルは、Advanced Design System が正常に動作しない場合等に作成し、プログラムの問題点・対処法を探すために参照します。レスポンスセンタでサポートを受ける際、必要となる場合がありますので、ご注意ください。

[2] デバッグモードについて

ADS 2002 をデバッグモードで起動すると、ADS 2002 の内部処理の詳細な記録が出力されます。ログファイルは、ご使用になっている PC のルートディレクトリに保存されます。通常は、“C:\%ads_daemon.log” というファイルになります。

デバッグモードでの起動は以下の手順で行います。

1. エクスプローラを開きます。
2. ADS 2002 がインストールされているディレクトリの、“bin” フォルダを開きます。通常は“C:\%ADS2002%bin” フォルダとなっています。
3. “bin” フォルダに、“hpads_verbose.bat” ファイルがありますので、これをダブルクリックして起動します。

以上の作業を行うと、ADS 2002 がデバッグモードで起動します。起動前に通常の起動時には出ないメッセージウインドウが数個出現しますので、[OK]ボタンをクリックして、先に進みます。ADS で問題が起こる場合の手順を再現し、デバッグログファイル“ads_daemon.log”の内容を確認します。

ログファイルを見ても問題が解決されない場合は、ログファイルを E-Mail など EEsof EDA テクニカルサポートまで送付してください。

8 - 10 FLEXIm ユーティリティ

[1] はじめに

FLEXIm のユーティリティの代表的なコマンドの解説をします。ユーティリティを用いると、ライセンスの供給が正しく行われているか、ライセンスファイルが正しいものかどうか等を調べることができます。FLEXIm については、GLOBEtrrotter Software 社のホームページ (<http://www.globetrotter.com/>)でも情報を得ることができます。

[2] lmdiag 命令

この命令を使用することによって、ライセンスのチェックを行うことが出来ます。ライセンスファイル中の、ライセンスの名前、使用開始 / 終了日、ライセンス形態等の表示を行います。ただし、フローティングライセンス等、ライセンスサーバからライセンスの供給を受ける時は、ライセンスデーモンが動いている必要があります。

(1) 使用方法

1. コマンドプロンプトを起動します。
2. ユーティリティプログラムの入っているディレクトリに移動します。通常は、“<Installation Directory>%licenses%bin” にあります。ADS 2002 がインストールされているディレクトリを、“C:%ADS2002” とすると、以下のコマンドを入力することになります。

```
> cd C:%ADS2002%licenses%bin
```

3. 以下のコマンドで、lmdiag 命令を実行します。

```
> lmutil lmdiag -c <License File>
```

“-c”以降の、<License File> は、ライセンスファイルのパスとファイル名を示します。ライセンスファイルが、“C:%ADS2002%licenses%license.lic”だとすると、上記のコマンドは、
“lmutil lmdiag -c C:%ADS2002%licenses%license.lic” と入力することになります。

4. ライセンス一つ一つに関して、ステータスが表示されますので、確認します。

(2) 実行結果の見方

以下に実行結果の例を示します。

1. 正しい例(フローティングライセンスの場合)

ライセンスファイルの内容(一部)

```
INCREMENT momentum agileesof 2.0 06-jun-2002 1 ¥
VENDOR_STRING=8-5E700060D92A SIGN="03AC 61B9 5414 64EE 5841 ¥
2738 6DAC B310 2D35 0867 5902 9B74 BCA2 FE22 7B90 64C2 36CB ¥
79D1 FD16 474A 6B79"
```

結果表示

```
"momentum" v2.0, vendor: agileesof
License server: edasvr1
floating license starts: 1-jan-1990, expires: 06-jun-2002

This license can be checked out
-----
```

ライセンスが正しく供給された事を意味します。

ライセンスの、形態・開始日 / 終了日。

サーバのホスト名

2. 間違った例(フローティングライセンスでライセンスサーバが起動していない)

ライセンスファイルの内容

```
INCREMENT momentum agileesof 2.0 06-jun-2002 1 ¥
VENDOR_STRING=8-5E700060D92A SIGN="03AC 61B9 5414 64EE 5841 ¥
2738 6DAC B310 2D35 0867 5902 9B74 BCA2 FE22 7B90 64C2 36CB ¥
79D1 FD16 474A 6B79"
```

```
"momentum" v2.0, vendor: agileesof
License server: edasvr1
floating license starts: 1-jan-1990, expires: 06-jun-2002
```

```
This license cannot be checked out because:
Cannot connect to license server
```

```
... I will try to determine what the problem is...
```

```
"telnet" port (23) on node edasvr1 does not respond
->if edasvr1 is a Unix system, it's probably down
-----
```

ライセンスが正しく供給されていません。

ライセンスサーバに接続できなかったために、ステータスが表示されません。

3. 正しい例(ノードロックライセンスの場合)

ライセンスファイルに、uncounted の項目がある場合は、PC単体でライセンスデーモンを起動せずに ADS 2002 を使用することができます。この場合は、他のライセンスサーバからライセンス供給を受ける場合と違って、ライセンスデーモンが起動していなくても、lmdiag コマンドを使用することができます。

ライセンスファイルの内容(一部)

```
INCREMENT ads_datadisplay agileesof 2.0 01-jul-2002 uncounted ¥
SIGN="0379 FFC4 C8C0 2304 BAAE 7EDE C929 E9DF 2329 ¥
4D18 BD02 56CA 8AF5 A52D 20C3 6413 A8E2 DE96 B639 9324 E20D"
HOSTID=SENTINEL_KEY=b28503eb
```

結果表示

```
"ads_datadisplay" v2.0, vendor: agileesof
  uncounted nodelocked license, locked to FLEXID dongle "SENTINEL_KEY=b28503eb"
  starts: 1-jan-1990,   expires: 01-jul-2002
```

This is the correct node for this node-locked license, but
I don't know if the license-key is good or not

ライセンスが正しく供給
された事を意味します。

ライセンスの、形態・開
始日/終了日。

4. 誤った例(ノードロックライセンスの場合)

ライセンスファイルの内容(一部)

```
INCREMENT ads_datadisplay agileesof 2.0 01-jul-2002 uncounted ¥
SIGN="0379 FFC4 C8C0 2304 BAAE 7EDE C929 E9DF 2329 ¥
4D18 BD02 56CA 8AF5 A52D 20C3 6413 A8E2 DE96 B639 9324 E20D"
HOSTID=xxx
```

結果表示

```
"ads_datadisplay" v2.0, vendor: agileesof
uncounted nodelocked license, expires: 01-jul-2002

This license cannot be checked out because:
Invalid license file syntax
Feature:      ads_datadisplay
License path: C:¥ADS2002¥licenses¥license.lic
FLEXIm error: -2,134
For further information, refer to the FLEXIm End User Manual,
available at "www.globetrotter.com".
Hostid required for uncounterd feature
-----
```

ライセンスが正しく供給
されていません。

上記例では、ライセンスファイルの HOSTID の項目に間違いがあります。ライセンスが正しくチェックアウトされないため、“ada_datadisplay” は使用することが出来ません。

四行目以降のエラーメッセージには、ライセンスの名前や使用されたライセンスファイル名、エラーコードなどが表示されています。エラーコードは、GLOBEtrotter Software 社の WEB ページで調べることができます。

注意 “ lmdiag ”命令を用いた時に、“ starts: ”(ライセンス開始日)が“ 1-jan-2025 ”
というように、“ expires: ”(ライセンス期限切れ日)よりかなり未来の日付で表示される場合があります。

この現象は、ご利用になっている FLEXIm のツールが ADS 2002 のものより古い場合に主に発生します。ADS 2002 のライセンスツールが使用されているか、環境変数 (HPEESOF_DIR や Path) やベンダーデーモンのパス等をもう一度ご確認ください。

[3] Imstat 命令

Imstat 命令では、ライセンスサーバの所持しているライセンス数・発行済みのライセンス数等を調べることが出来ます。このコマンドは、ライセンスサーバに接続を行いますので、PC単体でライセンスデーモンを起動せずに使用する場合は、ご利用になれません。

1. コマンドプロンプトを立ち上げて、次の命令を実行します。

```
> Imutil Imstat -a -c <Installation Directory>%licenses%license.lic
```

2. ライセンスデーモンが動作している時はライセンス情報が表示され、動作していない時はエラーメッセージが表示されます。

< ライセンスサーバに接続できた時の表示 >

```
C:%ADS2002%licenses%bin>Imutil Imstat -a -c C:%ADS2002%licenses%license.lic
Imutil - Copyright (C) 1989-2001 Globetrotter Software, Inc.
Flexible License Manager status on Thu 4/25/2002 17:28

[Detecting Imgrd processes...]
License server status: 27000@edasvr1
  License file(s) on edasvr1: C:%ADS2002%licenses%bin%license.lic:

  edasvr1: license server UP (MASTER) v7.2
Vendor daemon status (on edasvr1):
  agilesof: UP v7.2
Feature usage info:
Users of ads_datadisply: (Total of 1 license available)
Users of ads_layout: (Total of 1 license available)
Users of ads_schematic: (Error: 1 licenses, unsupported by licensed server)
:
(以下省略)
```

この例では、正しくライセンスサーバに接続できています。

ただし、“ads_schematic”のライセンスが正しく発行されていません。ライセンスファイルの“ads_schematic”の行を確認する必要があります。

< ライセンスサーバに接続できない時の表示 >

```
C:¥ADS2002¥licenses¥bin>lmutil lmstat -a -c C:¥ADS2002¥licenses¥license.lic
lmutil - Copyright (C) 1989-2001 Globetrotter Software, Inc.
Flexible License Manager status on Thu 4/25/2002 17:40

[Detecting lmgrd processes...]
License server status: @edasvr1
    License file(s) on edasvr1: C:¥ADS2002¥licenses¥license.lic:

lmgrd is not running: Cannot connect to license server (-15,10:10061 "WinSock: C
onnection refused")
```

この例では、ライセンスサーバに正しく接続できていません。

ライセンスサーバで、デーモンが正しく起動しているか？ライセンスファイルのパスに間違いが無いか？(-c オプションの後ろのライセンスファイルのパス)、ライセンスファイルのホスト名が間違えてないかをご確認ください。

8 - 11 リモートシミュレーションの設定

[1] はじめに

この節では、PC からリモートシミュレーションを使って ADS シミュレーションを行う方法について説明します。

リモートシミュレーションコマンドを発行する場合は、その前にサーバホスト側でのセットアップが終了している必要がありますのでご注意ください。

この節では“サーバ”という表現は、リモートでシミュレーションのみが実行されるコンピュータを、“クライアント”という表現は、リモートコマンドを送ってシミュレーションをさせる(ユーザインタフェースが実行されている)コンピュータを指します。

注意 モーメンタムのリモートシミュレーション方法は、ここで説明する方法とは若干異なります。モーメンタムのリモートシミュレーションについては“*Momentum*”マニュアルの、“*Performing Remote Simulation*”をご覧ください。

[2] サーバ・クライアントの条件

■ サーバとして利用できるOS

- Windows NT 4.0 / 2000
- UNIX

■ クライアントとして利用できるOS

- ADSのサポートされているOS
本手順書では、Windows NT 4.0 / 2000 / 98 の場合の説明のみ行います。

[3] サーバ側の準備

■ サーバが PC の場合

1. サーバ PC に、リモートシミュレーション用の TCP ポートを準備します。下記のいずれかの方法で設定を行ってください。

- ADS 標準の hpeesof.cfg ファイルに記述する事でポートを設定する事ができます。<Installation Directory>%config%hpeesof.cfg ファイルをメモ帳などのエディタで開き、下記の一行を加えてください。

```
EEDAEMON_SOCKET=1537
```

- ホームディレクトリに“<HOME Directory>%hpeesof%config%hpeesof.cfg”ファイル(例えば“C:%users%default%hpeesof%config%hpeesof.cfg”)を作成して設定することも可能です。作成した“hpeesof.cfg”ファイルに同じく下記の一行を記入してください。

```
EEDAEMON_SOCKET=1537
```

- EEDAEMON_SOCKET 変数とポート番号を設定しなかった場合は、標準値として、1537番が使用されます。

注意 モーメントムのリモートシミュレーションを行う場合は、更に次の行を加える必要があります。

書式：**MOMENTUM_SIM_PATH=<リモートサーバコンピュータ名>**

詳細は“Momentum”マニュアルの“Performing Remote Simulations”を参照してください。

2. リモートシミュレーションデーモン(EMXデーモン)を起動します

コマンドプロンプトを開き以下のコマンドを実行するか、[スタート] > [ファイル名を指定して実行] を開き同じく以下のコマンドを実行します。

<書式> <Installation Directory>%bin%hpremote -d remote_sim.log

<例> C:%ADS2002%bin%hpremote -d remote_sim.log

-d オプションは、デバッグモードをあらわすオプションです。リモートシミュレーションの実行ログを保存できますので、実行状況についてはこのファイルの内容を確認してください。remote_sim.log ファイルは <Installation Directory>%bin ディレクトリに作成されます。

注意 デーモン起動時に出現したコマンドプロンプト画面は閉じないでください。これを閉じると、リモートシミュレーションデーモンも同時に終了します。

以上で、PC サーバの準備は終了です。次はクライアント側の作業を行なってください。

■ サーバが UNIX の場合

1. リモートシミュレーションサーバにログインします。
2. HPEESOF_DIR , PATH , DISPLAY 環境変数を、ADS 2002 を起動できる設定にします。詳細は“*Installation on UNIX Systems*”マニュアルまたは、“ADS 2002 アップデート/インストール手順書(UNIX版)”をご覧ください。
3. UNIX サーバに、リモートシミュレーション用の TCP ポートを準備します。下記のいずれかの方法で設定を行ってください。

- ADS 標準の hpeesof.cfg ファイルに記述する事でポートを設定する事ができます。(この作業はroot などの特権のあるユーザで行う必要があります)。
<Installation Directory>/config/hpeesof.cfg ファイルを vi などのエディタで開き、下記の一行を加えてください。

EEDAEMON_SOCKET=1537

root 権限の作業が行えない場合は、ホームディレクトリに“<HOME Directory>/hpeesof/config/hpeesof.cfg”ファイルを作成して設定すること

も可能です。作成した “ hpeesof.cfg ” ファイルに同じく上記の一行を記入してください。

注意 ポートの設定を行う場合は、使用するポート番号が他で確保されていない事をご確認ください。これは、 /etc/services ファイル内に、上記例の場合は 1537 番の記述がない事を確認することで可能です。(ただし、NIS を使用している場合は “ ypcat services ” コマンドで確認する必要があります)。もし確保されていた場合は、他の番号(例えば 5332 番)をご使用ください。

- /etc/services ファイルに下記の例のように “ eedaemon ” 行を加えることで設定する事ができます。(NIS を使用している場合は、NIS サーバの /etc/services ファイルを変更します)。これは、UNIX ワークステーションの管理者権限が必要になりますので、ワークステーションの管理者までご相談ください。

<書式> eedaemon <ポート番号>/tcp eedaemon
<例> eedaemon 1537/tcp eedaemon

- EEDAEMON_SOCKET 変数とポート番号を設定しなかった場合は、標準値として、1537番が使用されます。

注意 モーメントムのリモートシミュレーションを行う場合は、更に次の行を加える必要があります。

書式 : MOMENTUM_SIM_PATH=<リモートサーバコンピュータ名>

詳細は “ Momentum ” マニュアルの “ Performing Remote Simulations ” を参照してください。

4. リモートシミュレーションデーモン(EMXデーモン)を起動します

<書式> hpremove -d <ログファイル名>
<例> hpremove -d /tmp/remote_sim.log

-d オプションはデバッグモードをあらわすオプションです。<ログファイル名> にリモートシミュレーションデーモンの実行ログが保存されます。上記例では “ /tmp/remote_sim.log ” に作成されます。

ここでエラーが発生した時は、 “ [6] エラーメッセージ ” をご覧ください。

ログファイルの最新部分を確認するには、以下のコマンドを実行してください。

```
tail -f /tmp/remote_sim.log
```

5. リモートシミュレーションデーモンが実行されている事を以下のコマンドで確認します。

```
ps -ef | grep hpeesofemx
```

注意 既に他のユーザによって hpremove コマンドが実行されている時は、二つ目の hpremove コマンドは実行できません。この場合は、既に実行されているリモートシミュレーションサーバを他のユーザも利用する事ができます。

以上で、PC サーバの準備は終了です。次はクライアント側の作業を行なってください。

[4] クライアント側での操作手順

サーバ側での設定が終われば、既にクライアントPCからリモートシミュレーションが動作するはずですが、以下の手順で、リモートシミュレーションを行ってみます。

1. 通常どおり ADS 2002 を起動します。
2. 既存のプロジェクトを開くか、新しくプロジェクトを作成します。
3. デザインを開くか、作成します。
4. Schematic ウィンドウで、[Simulate] > [Simulation Setup] メニューを選択します。
5. ダイアログボックスが現れますので、[Remote Simulation Host] 欄に、サーバホスト名(または、IPアドレス)を入力します。
6. [Simulate] ボタンをクリックします。

リモートシミュレーションが成功すると、ステータスウィンドウが開き、シミュレーションの進行状況が表示されます。

以上で、リモートシミュレーションの基本的な使い方は終了ですが、必要に応じて「[5] リモートホストリスト作成」作業を行ってください。また“ OPEN_SIMULATOR ”エラーなどが発生した場合は、「[6] エラーメッセージ」をご参照ください。

[5] リモートホストリスト作成

リモートシミュレーションサーバが複数台ある場合は、複数台のサーバに接続を行って作業を行うと効率よくシミュレーションを行うことができます。場合に応じて異なるサーバに接続したいときは、その都度接続先のホスト名を[Remote Simulation Host]欄に入力するか、下記のリストを作成することによってドロップリストから接続先ホスト名を選ぶようにする事ができます。

1. de_sim.cfg ファイルをメモ帳などのエディタで開きます。
de_sim.cfg ファイルは “ <Installation Directory>%config%de_sim.cfg ” または、 “ <HOME Directory>%hpeesof%config%de_sim.cfg ” の二箇所があり、どちらを編集しても構いません。
2. SIMULATION_HOST_LIST の設定を行っている行を探し次のように編集します。

```
<書式> SIMULATION_HOST_LIST=[hostname1] [hostname2] ...
< 例 > SIMULATION_HOST_LIST=edarem1 edarem2 edarem3
```

ホスト名同士の間は必ず半角スペース一つで区切ってください。

3. ファイルを保存し、ADS 2002 を起動します。
4. Schematic 画面で、[Simulate] > [Simulation Setup] メニューを選択すると、[Remote Host Selection] 欄に、先程記入したホスト名のリストが表示されます。この中から目的のホストを選択し、シミュレーションを行います。

[6] エラーメッセージ

ここでは代表的な二つのエラーについてその対処法を説明します。

- リモートシミュレーションを行った時に次のエラーが出る場合



このエラーは、サーバのリモートシミュレーションデーモンに接続できなかったときに現れます。

サーバ側で、デーモンが正しく起動できているかどうかをもう一度お確かめください。デーモンの起動方法は、本節の「[3] サーバ側の準備」をご参照ください。

サーバが正しく起動している場合は、サーバホストが見つからない可能性があります。[Remote Host Selection] 欄で選んだホスト名が正しいかどうかお確かめください。正しい場合は、ホスト名の代わりに IP アドレスを入れてお試してください。

ホスト名も合っており、デーモンも起動できている時は、ポート番号の問題が考えられます。サーバ側のポート番号の設定と、クライアント側のポート番号の設定が異なっていないかももう一度ご確認ください。ポート番号は、通常は 1537 番を使用します。

- UNIX でデーモンを起動するときに次のエラーが出る場合

UNIX をリモートシミュレーションサーバにするため、hpremove コマンドを実行する時に次のエラーが出る場合があります。

```
[1] + Stopped (tty output) -hpeesofemx -d remote.log &
```

これは、バックグラウンドで動作するプロセスが、tty(ターミナル)にメッセージを出力できない時に現れます。この場合はデーモンの起動スクリプト“ hpremove ”の内容を以下のように編集して実行してみてください。

```
hpeesofemx 2>&1 &
```

[7] リモートシミュレーションデーモン(EMXデーモン)の終了

デーモンを終了させる前に、リモートで接続しているクライアントがないかどうかご確認ください。デーモンを終了させる方法は、

■ PC の場合

起動時に現れたコマンドプロンプトウィンドウ(HP EEs of Error Log Windows)を閉じることによって、PC のリモートシミュレーションデーモンを停止する事ができます。サーバでタスクマネージャを起動し、hpeesofemx というプロセスが無くなっていることを確認します。もし残っている場合は、[プロセスの終了]ボタンで終了させます。

■ UNIX の場合

以下のコマンドで、リモートシミュレーションのプロセス番号を調べます。

```
ps -ef | grep hpeesofemx
```

プロセス番号がわかったら、以下のコマンドでプロセスを終了させます。

```
kill -9 <プロセス番号>
```

[8] リモートシミュレーションの注意事項

モーメンタムのリモートシミュレーションを行う場合で、substrate の計算が必要になる場合は、<Installation Directory>/momentum/lib/substrates ディレクトリとその中のファイルのパーミッションが、読み書き可能に設定されている必要があります。

上記設定がなされていない場合は、リモートシミュレーション実行時に警告がでますので、ご注意ください。

第9章 コードワード発行依頼と計測レスポンスセンターのご利用案内

9 - 1 コードワード発行依頼の方法

「Agilent EEsof EDA コードワード発行依頼 FAXシート」に必要な事項を正確に記入し、FAX でお送りください。以下、ご記入の際に必要な情報の取得法・ご注意・記入法を示します。

[1] ソフトウェアの情報

	記入例	
シリアルナンバ (S/N)	S/N 71512 *1)	
製品名またはモデル番号	製品名	ADS 2002
	モデル番号	75TS14NX(Touchstone NLS/X Linear Circuit Design Suite)
ソフトウェアのバージョン	ADS 2001, ADS 2002	
ライセンスの形態	ノードロック, フローティングライセンス	

*1) コードワードが印刷されている紙等を参考にしてください

[2] コンピュータの情報

パラメータの種類	使用OS	コマンド	例
モデル名	Windows	なし	HP Vectra XA
	HP-UX SUN OS	uname -m	HP9000/755 SUN SPARC Station 10
コンピュータ ID	Windows (ノードロックのみ)	ハードウェアキーに記載 *1)	FLEXID=8- 5E700060D92A
	HP-UX	/etc/uname -i	2014460207
	Sun OS	/bin/hostid	544158c4
LAN ID (LLA)	HP-UX	/etc/lanscan	0x080009490BE7
	Sun OS 4.1.3	/etc/ifconfig le0	8:0:20:12:67:ca
	Solaris 2.5.1	/usr/sbin/ifconfig le0	8:0:20:12:67:ca
	Solaris 2.7/2.8	ifconfig hme0	8:0:20:12:67:ca
ホスト名 *2)	Windows	4 - 5 節参照	edahost1
	HP-UX SUN OS	Hostname	edahost2

*1) PCの場合はハードウェアキー番号をご記入ください。

*2) 製品バージョンとライセンス形態によって、必要でない場合もあります。

コードワードが記載されている紙がございましたら、必ず一緒に FAX でお送りください。また、“license.lic” ファイルも必ず一緒に FAX でお送りください。

[3] ご記入にあたってのお願い

- 1) 文字は大きくはっきりとご記入下さい。特に、数字・アルファベットは、はっきりご記入下さい。アルファベットは筆記体をご使用にならないで下さい。また、数字とアルファベットの区別や、アルファベットの大文字と小文字の区別を明確にお願いします。

紛らわしい文字の例

数字の 0 (ゼロ) と、アルファベットの (オー)
大文字の C と、小文字の c
小文字の l (L) と、小文字の e (E)

- 2) 黒色のペン、または鉛筆を使ってご記入下さい。青色のペンはご使用にならないで下さい。
- 3) 会社名は略称ではなく、正式名を(日本語、英語とも)ご記入下さい。

会社名の書き方

良い例	アジレント・テクノロジー 株式会社 Agilent Technologies Japan, Ltd.
悪い例	アジレント(株) Agilent

- 4) お名前はフルネームでご記入下さい。
- 5) ファイルおよび UNIX の命令の実行結果をプリンタに出力したり、ファイルに出力する例は次のとおりです。

ファイル・プリンタへの出力例 (HP-UX)

ファイル プリンタへ出力	\$ lp /ads2001/licenses/license.dat
UNIX 命令の実行結果 プリンタへ出力	\$ /etc/netls/lis_stat -t lp
UNIX 命令の実行結果 ファイルへ出力	\$ /etc/netls/lis_stat -t > /tmp/FILENAME

- 6) FAX で送信する場合、紙の周囲に書かれている文字が欠けることがあります。できれば、紙の周囲(上下左右) 3cm には、何も記入しないで下さい。特に、プリント出力された UNIX の命令の実行結果などを FAX で送信する場合はご注意下さい。

Agilent EEsof EDA ライセンス(コードワード)発行依頼シート

アジレント・テクノロジー(株)サポート業務センター 契約業務グループ EDAコードワード発行受付行
FAX 0120-802-016 TEL 0120-802-871
E-MAIL: japan_codeword@agilent.com

◇E-mailでご依頼の場合は、上記アドレスまで、
お客様のシステムハンドル、会社名、お名前をお知らせ下さい。
メール専用フォーマットをお送り致します。

FAX送信枚数
(本表紙を含む) _____ 枚

◇FAXでご依頼の場合は、本シートに必要事項をご記入の上、
上記FAX番号までお送り下さい。
※各ライセンスサーバごとに別々の用紙でご依頼下さい。

送信日 _____ 月 _____ 日

①システムハンドルをご記入下さい。※この番号は、通常発送伝票左上のS/H~に記載されております。

システムハンドル番号

②今回ご依頼の、すべてのコンピュータの情報をご記入下さい。

- すべてのライセンスサーバの情報をご記入下さい。
 - すべてのノードロックライセンスクライアントの情報をご記入下さい。
- ※ネットワークライセンスのクライアントの場合は、記入不要です。

	コンピュータID (PCの場合はハードウェアキー番号)	ホスト名	備考
ライセンス・サーバ			
ノードロック・クライアント			

■ADS2002コードワード発行時は、プラットフォーム(ハードウェア)の変更を無料で承っております。

会社名: _____

ご所属: _____

お名前: _____

電子メール アドレス: _____

電話番号: _____ 内線(_____) FAX: _____

ライセンスの送付手段 電子メール FAX

必要な製品とバージョン

製品名 _____ バージョン _____

現在のライセンスの有効期限 _____ 年 _____ 月 _____ 日

*** 備考欄 *** (マシン変更内容詳細/ご質問等がございましたら、ご記入下さい)

--

9 - 2 計測レスポンスセンタ・テクニカルサポート依頼 FAX シートの使い方

- [1] レスポンスセンタへお問合せの際は、お客様のシステムハンドル番号を必ずお知らせください。システムハンドル番号がわからない場合は、受付できない可能性があります。
- [2] 「計測レスポンスセンタ テクニカルサポート依頼 FAX シート」に必要事項と、継続質問の場合は受付番号(CALL ID : 例=3012345)を記入してください。
- [3] 離席されている場合が多いときは、時間指定していただくと便利です。
- [4] FAX シートご記入いただくときに、次の問題確認項目を参考にさせていただくとより早い回答を行なうことができます。
- 1) 何をしようとしていましたか。
 - 2) どうなるはずだ、またはどうなって欲しいと考えていますか。
 - 3) 何が起きていますか。
 - 4) どんなエラーメッセージ、エラー番号が出ていますか。
 - そのエラーメッセージはUNIXですか、それともソフトウェアですか。
 - そのエラーメッセージはどこに表示されていますか。データベースで検索するため、エラーメッセージは正確にお知らせください。
 - 5) この問題はいつから発生していますか。
 - 6) この問題はときどき発生しますか、または必ず発生しますか。
 - 7) ときどき発生するときは、どんなときに発生しますか。
 - 8) 今までは正常に動作していましたが、または今回が初めてのご使用ですか。
 - 9) 問題発生前に、何か変更なさいましたか。(ハードウェア、ソフトウェア、設定など)
 - 10) すでに何かの問題解決の手を打たれましたか。その結果はどうでしたか。
- [5] 参考
- 1) システムハンドル(システムID)番号とは？
 お客様ごとに割り当てられた、お客様固有の番号。ユーザID番号のこと。
 計測レスポンスセンタにご質問されるときに、必ず受付にお伝えください。
 システムハンドル番号を伝え忘れた場合、契約をされていないお客様として扱われる場合があります。(銀行の暗証番号のようなものです。)
 この場合、計測レスポンスセンタからの連絡は保証されませんので、必ずシステムハンドル番号を受付にお伝えください。
 (システムハンドル番号の例：8 1 2 3 - 7 1 5 1 2)
 - 2) CALL ID (受付番号) とは？
 ご質問ごとに割り当てられる番号。
 計測レスポンスセンタにご質問をいただいたときに、ご質問ごとに CALL ID(受付番号)を発行します。
 (CALL ID の例：J 0 5 1 2)
 - 3) システム名、バージョン
 システム名、バージョンは正確にお伝えください。
 (システム名の例：M D S (85150B), H F S S (85180A), I C - C A P (85190A))
 コンピュータ名と UNIX のバージョンは、次のコマンドで確認できます。

```
# uname -a
```

9 - 3 計測レスポンスセンタを有効にご利用いただくために

計測レスポンスセンタをより有効にご利用いただくために、
お客様にお願いしたいことをまとめてみました

[1] より早くご回答をするためにお願いしたいこと

- 1) お客様のシステムハンドル番号は正確にお伝えください。
アジレント・テクノロジーでは、お客様のシステムハンドル番号をデータベース化しております。よりスムーズなご回答のために、ご質問受付時にお客様のシステムハンドル番号をお伺いしております。
システムハンドル番号を伝え忘れた場合、契約をされていないお客様として扱われる場合があります。
- 2) 製品名は正確にお伝えください。
計測レスポンスセンタ受付では、1か月に約数千件のご質問を承っております。
製品名を正確にお伝えいただけませんと、間違った担当者（エンジニアグループ）にご質問が回り、ご回答が遅れる場合があります。そのため、ご質問の製品名は正確にお伝えください。
(製品名の例：ADS, HFSS, IC-CAP)
- 3) 同姓（同じお名前）の方が複数人いらっしゃる場合は、フルネームをお願いします。

[2] より正確なご回答をするためにお願いしたいこと

- 1) エラーメッセージは正確にお伝えください。
計測レスポンスセンタでは、世界中からよせられたご質問をデータベース化しております。エンジニアはこのデータベースを参照し、既に解決した問題であれば迅速にお客様のご質問に対応することができます。データベースの検索は、エラーメッセージなどのキーワードで行ないますので、正確にエラーメッセージをお伝えください。
- 2) UNIX と製品のバージョンは正確にお伝えください。
HP-UX の場合、バージョンは小数以下2桁まであります。
良い例：HP - UX 9 . 0 5 , MDS B . 0 5 . 0 2
悪い例：HP - UX 9 . 0 , MDS B . 0 5
バージョンを正確にお伝えいただけませんと、正確なご回答ができない場合があります。

[3] 1回のお電話でご質問を解決するためにお願いしたいこと

- 1) FAXをご活用ください。
図（システムの構成、回路図、グラフ）などは、FAX をご活用いただくとご質問内容がより正確にエンジニアに伝わります。また、エラーメッセージなども FAX でお送りいただくと、データベースの検索がよりスムーズに行なえます。
- 2) 離席されている場合が多いときは、お電話の時間指定をしてください。

[4] その他、お願いしたいこと

- 1) 受付番号(CALL ID)は控えておいてください。
計測レスポンスセンタにご質問をいただいたときに、CALL ID を発行しております。この CALL ID はご質問ごとに割り当てられる番号ですので、控えておいてください。お客様からのご質問はすべてデータベース化され、保存されますので、再度ご質問される場合は CALL ID を受付にお伝えください。
- 2) 計測レスポンスセンタ契約の更新は、1年ごとになります。ご契約いただいた計測レスポンスセンタサービスは、1年ごとの更新となります。

EEsof EDA テクニカルサポート依頼 FAXシート

計測計測レスポンスセンタ E-mail: edasupport@jpn.agilent.com
FAX: 0120-890-119 TEL: 0120-560-119

文字(特に数字とアルファベット)は大きくはっきりとご記入ください。

CALL ID(受付番号) _____

システムハンドル(必ずご記入ください) _____ 日付 _____

会社名 _____

ご所属 _____

お名前(フルネーム) <漢字> _____ <ひらがな> _____

電話 _____ 内線 _____

FAX _____ E-Mail _____

製品名 _____ バージョン・リビジョン _____

コンピュータモデル名 _____ OSバージョン _____

お問い合わせ内容(エラーメッセージが表示されている場合は、必ずご記入ください)